

町田市子どもの発達支援に関する
市民意識調査結果報告書

2017 年 9 月

町田市子ども・子育て会議

目次

1. 調査概要	1
(1) アンケート調査	1
(2) ヒアリング調査	2
2. 結果のまとめ	3
(1) 子どもの成長（基本目標Ⅰ）	3
(2) 家庭や家族（基本目標Ⅱ）	3
(3) 地域社会とのつながり（基本目標Ⅲ）	4
3. 調査結果	5
(1) 子どもの発達に関する状況	5
(2) 日常生活	7
(3) 発達の特徴の気付きについて	17
(4) 重症心身障がい児・医療的ケア児	20
(5) 保育園・幼稚園等、学校の実態	22
4. 自由回答（保護者向け調査）	28
5. 単純集計	31
(1) 保護者向け調査	31
(2) 関係機関向け調査	55

1. 調査概要

(1) アンケート調査

1) 目的

町田市子ども発達支援計画案の策定にあたり、ニーズを把握するため、保護者と関係機関を対象にアンケート調査を行いました。

2) 調査方法

対象		配布方法	回答方法	回答期間
保護者	・障害者手帳所持児童	郵送	郵送 又は WEB	2017年6月16日 ～6月30日
	・特別支援学級利用児童	学校配布		
	・通級指導学級利用児童	学校配布		
	・すみれ教室利用児童	施設配布		
関係機関	・保育園	郵送	郵送	
	・地域子育て相談センター			
	・認定こども園・幼稚園			
	・小学校			
	・中学校			

3) 回収結果

対象	配布数	回収	回収率
保護者	2,673 件	1,158 件 (Web 回答数 164 件含む)	43.3%
関係機関	180 件	117 件	65.0%

(2)ヒアリング調査

1) 目的

アンケート調査結果を補完し、計画の施策の方向性や、取組事業の内容の参考とするため、ヒアリング調査を行いました。

- ①アンケート調査の保護者調査と関係機関調査で明らかになったことについて、詳細を確認する。
- ②アンケート調査で聞けなかった利用者（医療的ケア児など）の実態を把握する。

2) 実施期間

2017年7月26日～8月4日

3) ヒアリング対象機関

		ヒアリング対象機関
発達支援に関わる 公的機関		すみれ教室
		教育センター
		保健所
		東京都立町田の丘学園
		町田市民病院
発達支援を行う 事業者	療育事業者	島田療育センター
	訪問看護ステーション	町田市医師会訪問看護ステーション
		きらら訪問看護ステーション
	放課後等デイサービス	放課後等デイサービス「ぴっころもんど」
		放課後等デイサービス「きららトワイライト」
		放課後等デイサービス「つくしんぼ」
子どもの関係機関	中央学童保育クラブ	
	どろん子学童保育クラブ	

2. 結果のまとめ

(1) 子どもの成長(基本目標Ⅰ)

- 子どもの健やかな成長のための条件として「子どもが大人になる力をつけるための訓練や教育」(61.4%)が最も多く、次いで「子どもの遊びや体験の機会の確保」(42.7%)が多くなっています。
- 地域や社会に積極的に参加できるようにするために大切なこととして、「共に遊んだり学んだりする友だちやサポートしてくれる先輩など」と回答した割合がすべての年代で最も多く、地域での人間関係形成に対するニーズが伺えます。
- 参加した事のある行事としては、「地域のお祭りや文化祭等」(64.3%)や「地域の子ども会等の行事」(30.0%)が多く、スポーツ活動や趣味の活動にはあまり参加していません。
- 地域や社会に積極的に参加できるようにするために、「参加しやすい趣味・スポーツ・教養講座の充実」を求める声が多く、次いで「活動のための情報や相談の充実」を求める声も多くあります。
- 子どもが地域社会の一員として生活するには、「相談体制」(56.6%)、「生活訓練」(52.3%)、「地域住民などからの理解」(42.3%)を重視しています。
- 「入園・入学する際に困ったことがあった」と回答した保護者は、全体の36.4%(422人)で、困ったこととして「入園・入学を断られそうになった」(40.3%)に次いで「何度も同じ説明をした」(39.1%)「引き継ぎが不十分と感じた」(24.2%)と回答しており、支援の途切れを感じています。特に、年齢が高くなるにつれて「引き継ぎが不十分」と感じた割合は高くなっています。

(2) 家庭や家族(基本目標Ⅱ)

- 現在の生活で困っていることとして、保護者については、「働ける時間が限定される、または、働けない」(37.2%)、「自分の時間が持てない」(29.4%)が多く、時間がないと感じている傾向が見られます。また、家庭について「家族以外に支援を頼める人がいない」(32.0%)が最も多いことと合わせると、気持ちにゆとりが持ちにくい様子が伺えます。
- 子どもの特徴に気付いてから1か月以内に相談した場合は、何らかの支援やサービスを利用している割合(75.2%)が、1年以上相談しなかった場合の割合(56.2%)より高くなっています。
- 子どもの特徴に気付いてから1年以上相談しなかった場合では、1か月以内に相談している場合に比べ、ホームページやアプリ、新聞やテレビ・ラジオなどの一般的なメディア等から情報を得ている割合が高くなっており、整理されていない多様な情報の中から必要な情報を得ていることが伺えます。
- 子どもの気になる特徴に気付いてもすぐに相談を受けなかった理由として、「少し成

長が遅いだけ・成長すれば変わると思った」(58.6%)、「相談先が分からなかった」(25.1%)「必要性を感じなかった」(22.2%)と回答する割合が高くなっています。

- 保育園・幼稚園等や学校では、気になる特徴が見られても支援につなげられない理由として「保護者等が支援が必要とっていない」と回答した割合が、すべての機関で高くなっています。この項目を1位としている割合も高くなっており、支援につながるためには、保護者や児童・生徒の意識が大きく関係していることが伺えます。
- 乳幼児と小学生15歳以上は「職員の理解や知識の不足」を挙げる割合が高くなっています。小中学生は、他の年代に比べ「友だちができにくい」(31.6%・36.3%)との回答が多くなっています。
- 重症心身障がい児や医療的ケア児は、全体に比べて多くの機関と関わっていることが伺えます。また、地域の行事や活動に参加したことがないと回答した割合は、全体の19.4%に比べ、重症心身障がい児は30.3%、医療的ケア児は40.7%と高くなっており、社会参加が少ない傾向が伺えます。
- 保育園・幼稚園等や学校の多くは、発達に支援が必要な子どもを支援するために重要なこととして「専門的な知識を持つ職員等の訪問」(保育園・幼稚園等70.6%など)や「保育士・教諭が相談しやすい専門機関」(保育園・幼稚園等61.2%など)との回答が多く、専門機関との連携や、保育士・教諭の理解を深める機会を求めています。

(3) 地域社会とのつながり(基本目標Ⅲ)

- 社会の一員として生活するための支援として、「地域住民などからの理解」を選択した方について分析すると、特別支援学級や特別支援学校に在籍している場合(54.0%)は、在籍していない場合(30.8%)に比べ、その割合が高くなっており、障がい等に対する理解を求める傾向が伺えます。

3. 調査結果

※子どもの年齢ごとに、以下の名称で表記します。

乳 幼 児：4月2日時点の年齢が0～5歳の子ども

小 学 生：4月2日時点の年齢が6～11歳の子ども

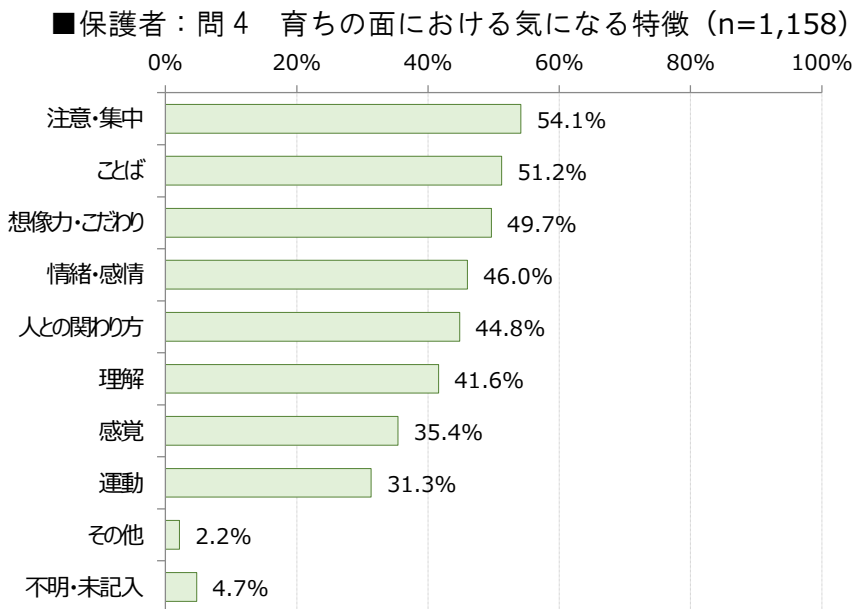
中 学 生：4月2日時点の年齢が12～14歳の子ども

15歳以上：4月2日時点の年齢が15歳以上の子ども

(1)子どもの発達に関する状況

1) 育ちの面における気になる特徴について

- ・回答者における気になる特徴としては、「注意・集中」が54.1%で最も高く、次いで「ことば」が51.2%でした。

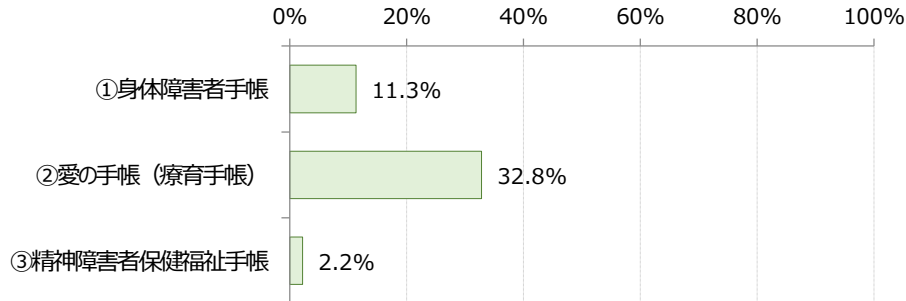


気になる特徴	
注意・集中	落ち着かない、集中力がない など
ことば	言葉が遅い、おうむ返し など
想像力・こだわり	相手が傷つくことを言ってしまう、こだわりが強い など
情緒・感情	注意されるとかっとなりやすい、感情が高まると興奮がおさまらない など
人との関わり方	一人遊びが多い、集団に入らない など
理解	生活習慣が身につかない、全体指示が理解できない など
感覚	雷や大きな音が苦手、極端な偏食、すき間など狭い空間を好む など
運動	床に寝転がることが多い、極端に不器用 など

2) 障害者等手帳について

- 回答者のうち、愛の手帳(療育手帳)所持児の割合は 32.8%で、身体障害者手帳は 11.3%、精神障害者保健福祉手帳は 2.2%となっています。

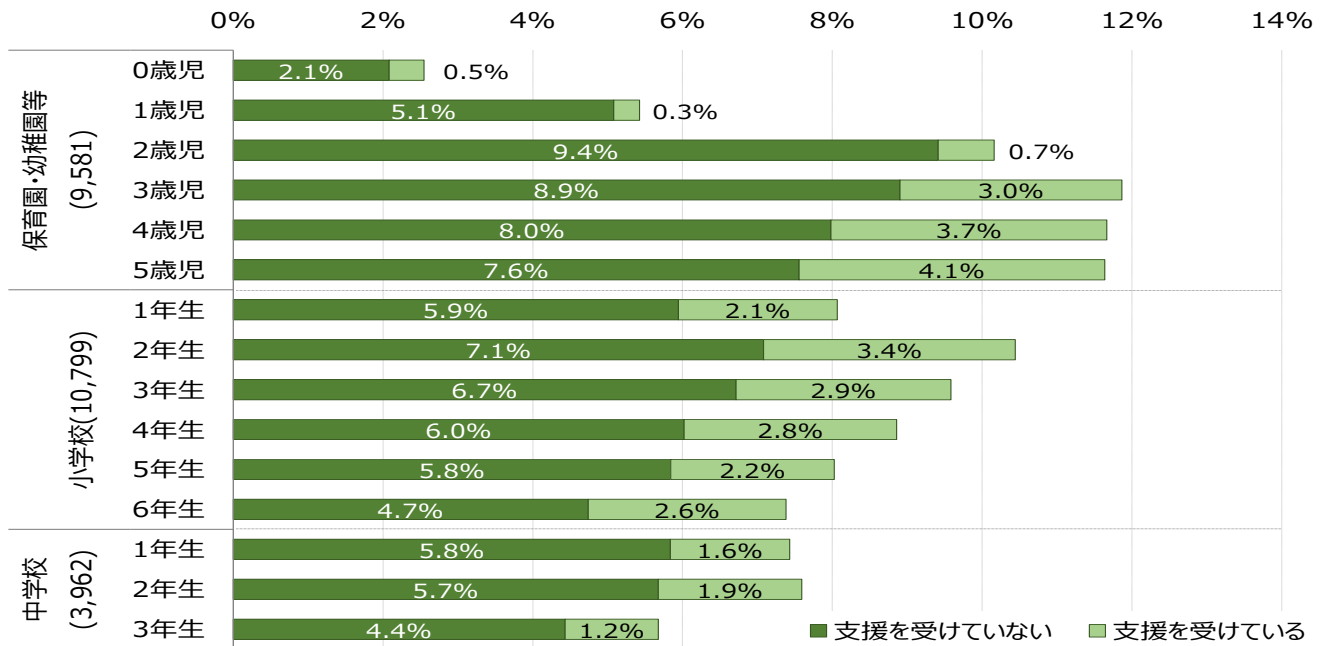
■ 保護者：問 5 障害者等手帳の割合 (n=1,158)



3) 気になる子について

- 子どもが毎日過ごす保育園・幼稚園等や学校等の機関において、在籍児童・生徒数に対する、保育士や教諭等が気になる特徴に気づいている子どもの割合は 9.1% (支援を受けていない子ども 6.5%、支援を受けている子ども 2.6%の合計) になっています。

■ 関係機関：問 6,7 全在籍児童・生徒における「気になる子」の割合



【全在籍児童・生徒 24,342 人】における割合	人数	割合
支援を受けていない子ども	1,593 人	6.5%
支援を受けている子ども	623 人	2.6%
合計	2,216 人	9.1%

ヒアリング調査

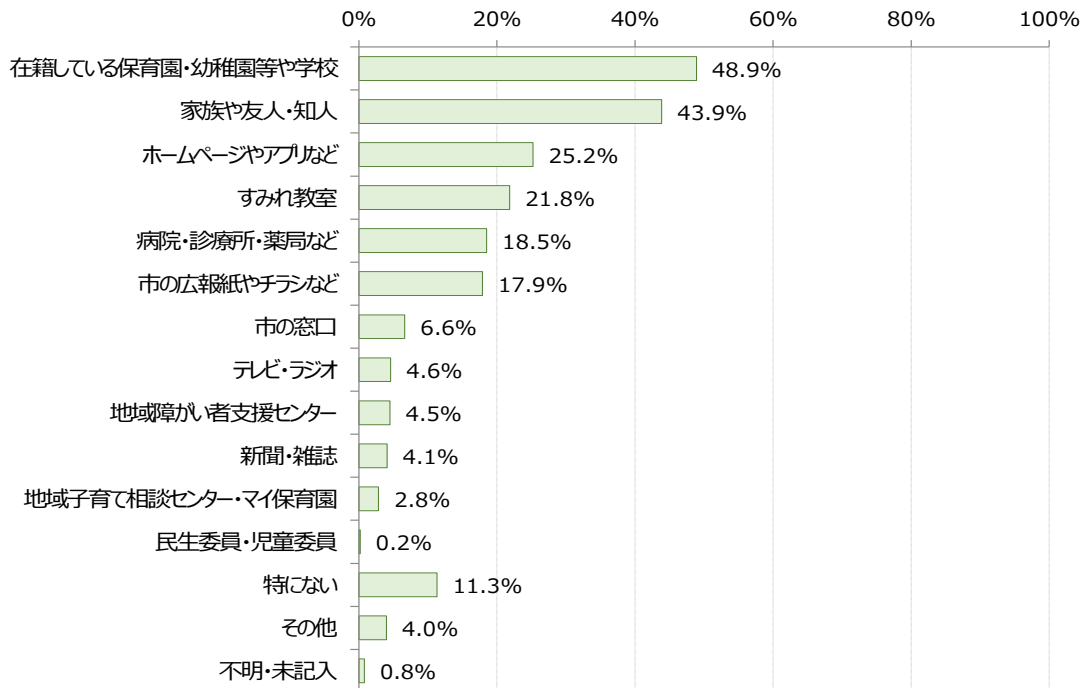
- ヒアリング対象機関からは、この数字は概ね現場における実感と合っており、以前と比べて、支援の対象が広がったことや、子どもの特徴に周囲が気付くようになってきた、あるいは、集団生活の中で支援が必要なことが明確になる子どもがいる、などの状況が分かりました。

(2) 日常生活

1) 支援・福祉に関する情報について

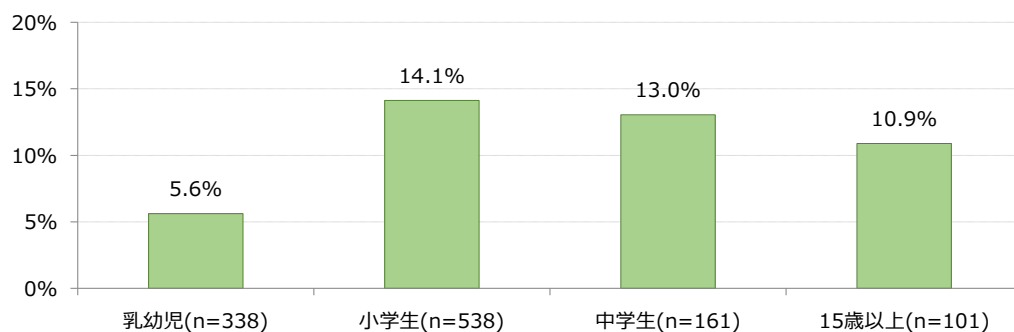
- 情報源は、通園・通学先や保護者間のネットワークなどが主な情報源となっています。「在籍している保育園・幼稚園等や学校（48.9%）」「家族や友人・知人（43.9%）」「ホームページやアプリなど（25.2%）」の順で多くなっています。

■保護者：問9 保護者の情報源（n=1,158）



- 情報源が「特にない」11.3%を年齢別にみると、小学生において14.1%と最も高く、中学生13.0%、15歳以上10.9%と続き、乳幼児は5.6%と最も低くなっています。

■保護者：問9 情報源が特にない保護者の割合（子どもの年齢別）



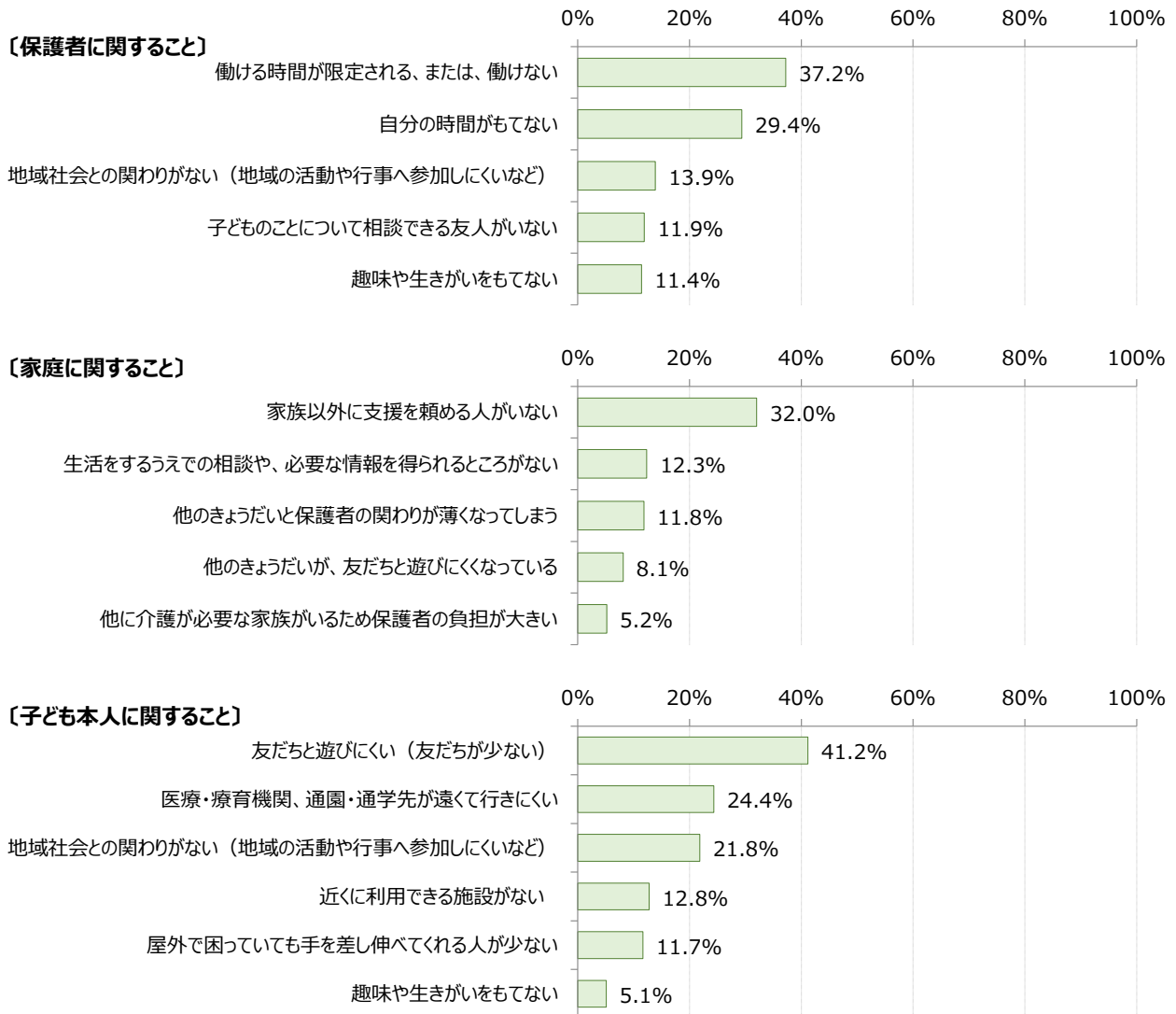
ヒアリング調査

- 発達支援を行う事業者からは、保護者がその事業者を知ったきっかけ（保護者の情報入手の方法）として、ホームページや機関誌などのほか、保護者同士のネットワークが挙げられていました。また、他の福祉サービスや施設に関する質問が多いと感じていることが分かりました。

2) 現在の生活で困っていること

- 保護者については、「働ける時間が限定される、または、働けない」が37.2%、「自分の時間が持てない」が29.4%となり、時間がないと感じている傾向が見られます。
- 家庭については、「家族以外に支援を頼める人がいない」(32.0%)、子どもについては、「友だちと遊びにくい(友だちが少ない)」(41.2%)との回答が最も多く、地域社会や身近な人間関係に関心が高いことが伺えます。

■保護者：問 10 現在の生活で困っていること (n=1,158)



※16項目中、いずれも選択していない割合：20.2%

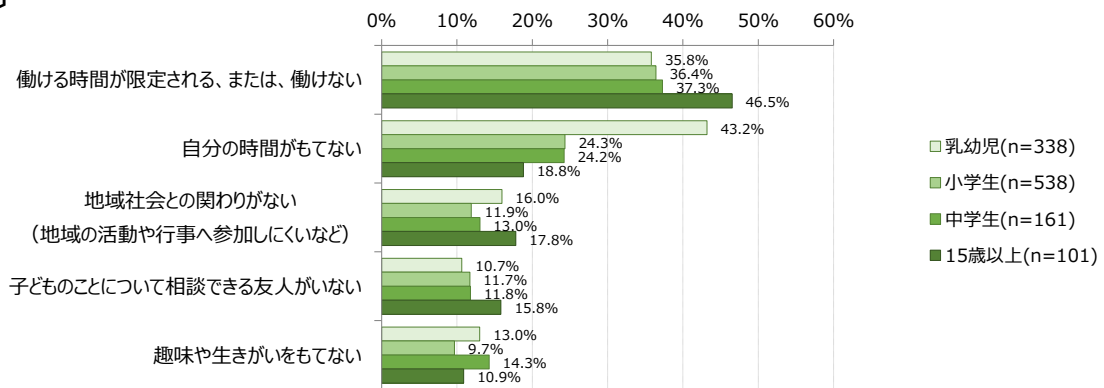
ヒアリング調査

- ヒアリング対象機関からは、保護者からは、生活習慣や行動に対する対処や進路などの子ども本人に関することや、他のきょうだいへの対応などの家族に関することが相談されていることが分かりました。また、家族に関する相談に合わせて、子どもを一時的に預けることについての相談が寄せられていることも分かりました。

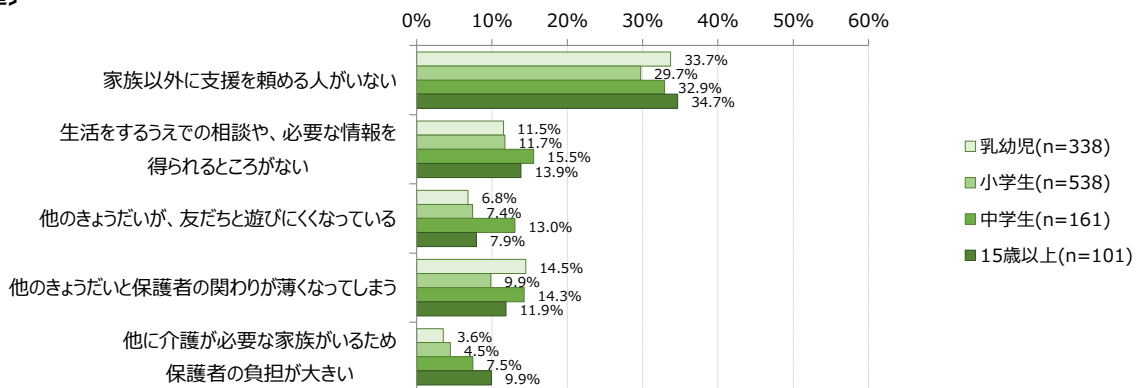
- 保護者に関する回答を年齢別にみると、乳幼児の場合は「自分の時間がもてない」が43.2%と割合が高く、15歳以上の場合は「働ける時間が限定される、または、働けない」が46.5%と高くなっています。
- 家庭に関する回答では、どの年代においても「家族以外に支援を頼める人がいない」が多くなっています。子ども本人については、どの年代においても「友だちと遊びにくい（友だちが少ない）」が多くなっています。

■保護者：問 10 現在の生活で困っていること（子どもの年齢別）

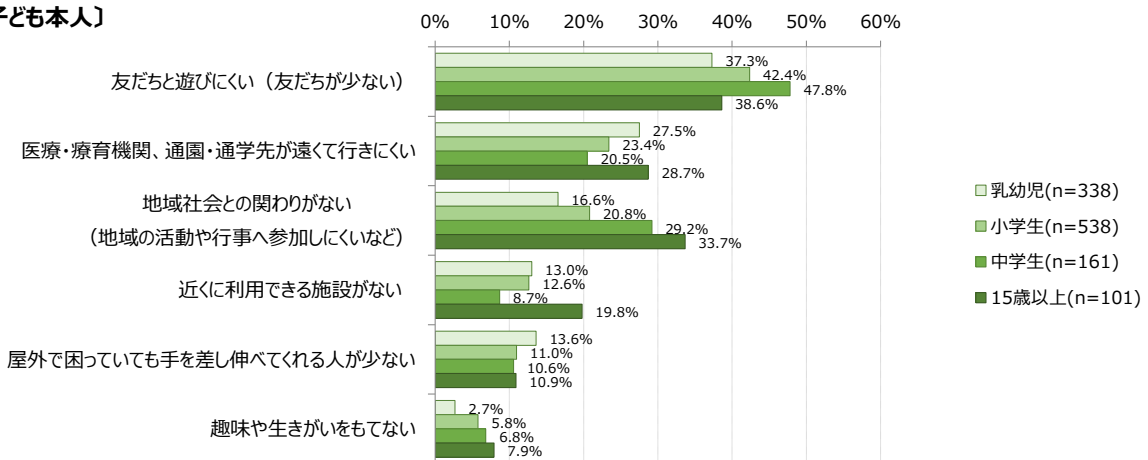
【保護者】



【家庭】

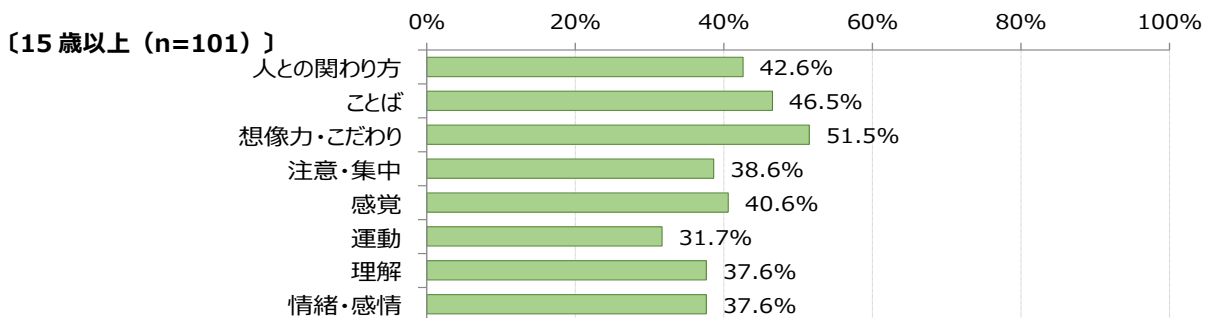
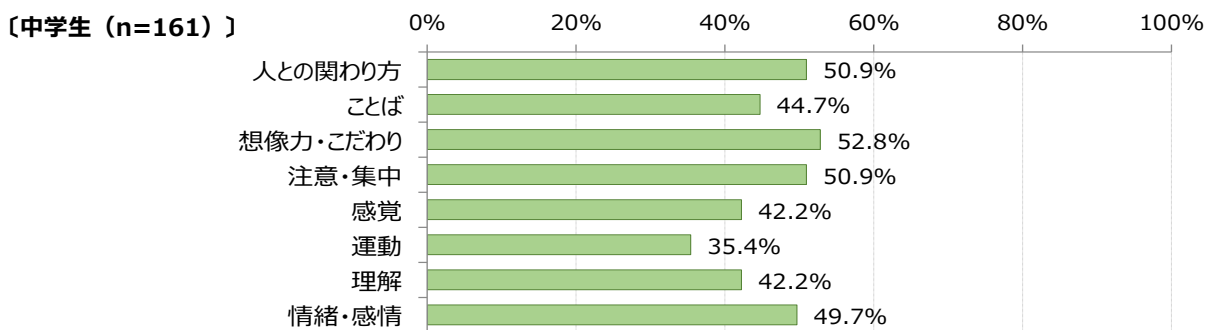
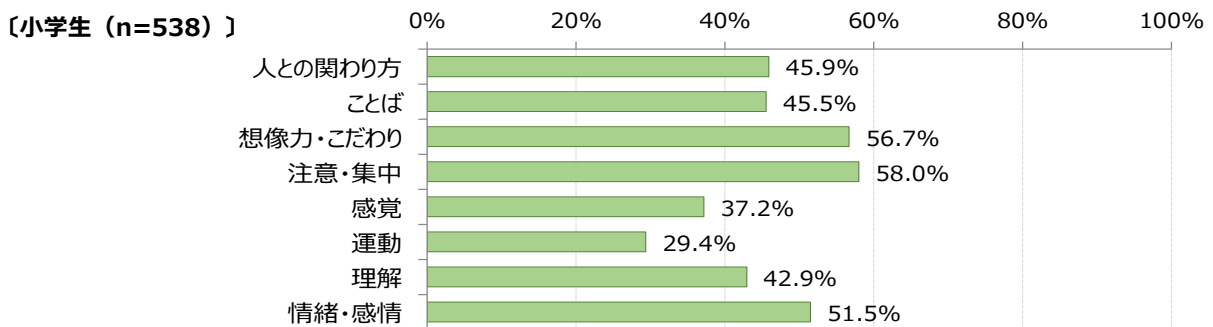
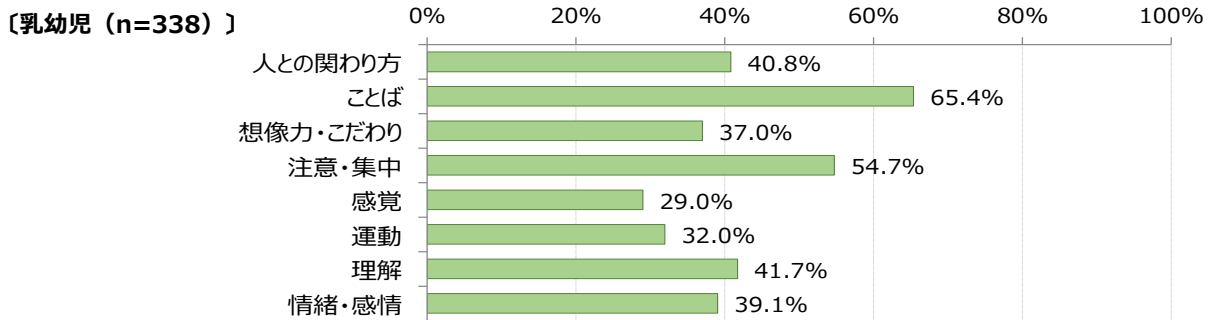


【子ども本人】



- ・気になる特徴は、年齢が高くなるにつれ「想像力・こだわり」が増えています。
- ・年齢別にみると、乳幼児で最も多い「ことば」(65.4%)は、年齢が上がるとともに少なくなっています。
- ・年齢が高くなるにつれ、項目間の差が少なくなっています。

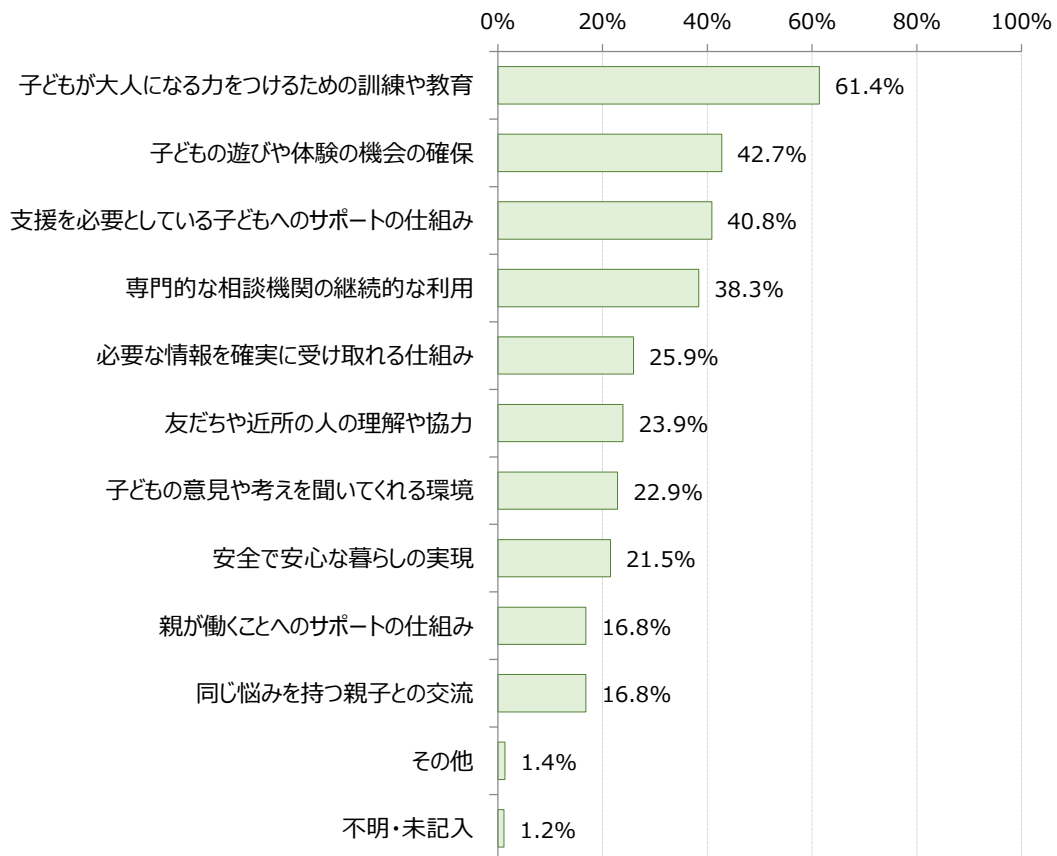
■保護者：問4 育ちの面における気になる特徴（年齢別）



3) 子どもの健やかな成長に必要なこと

- 子どもの健やかな成長のための条件として「子どもが大人になる力をつけるための訓練や教育」(61.4%) が最も多く、次いで「子どもの遊びや体験の機会の確保」(42.7%) が多くなっています。

■保護者：問 11 子どもの健やかな成長に必要なこと3つ (n=1,158)

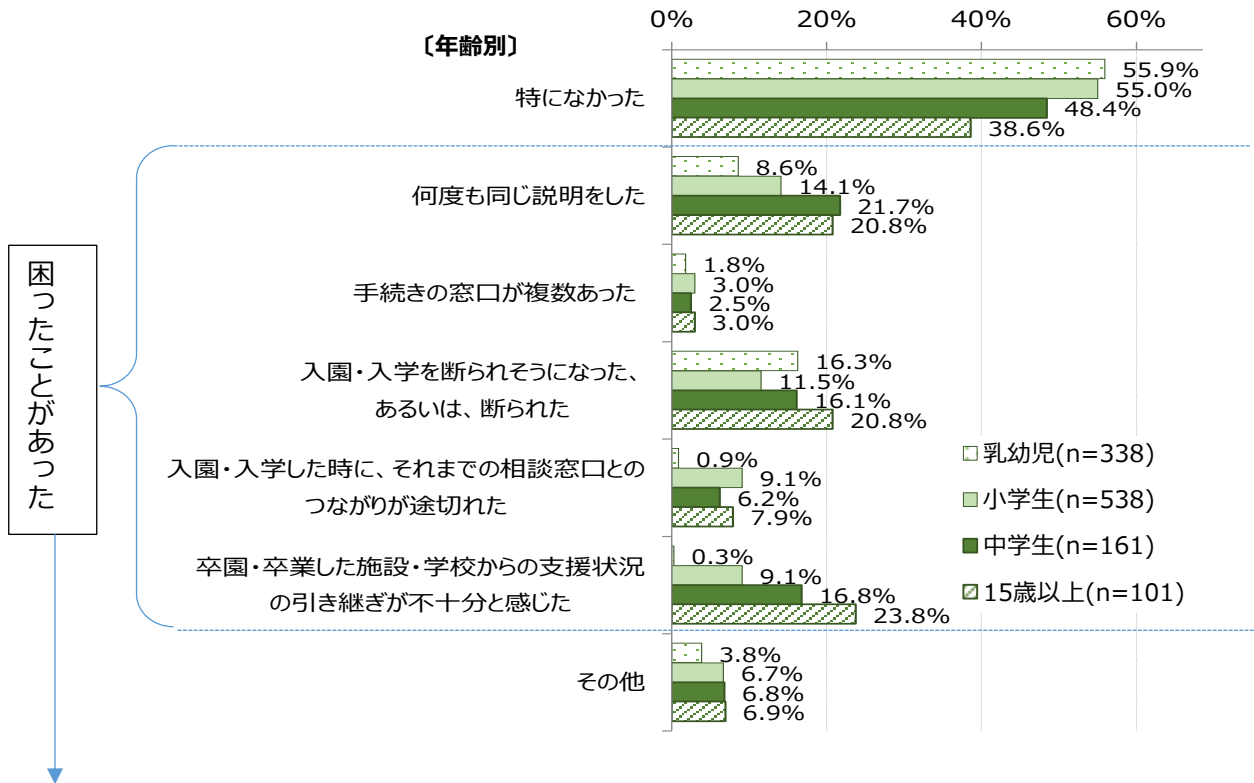


4) 通園・通学について

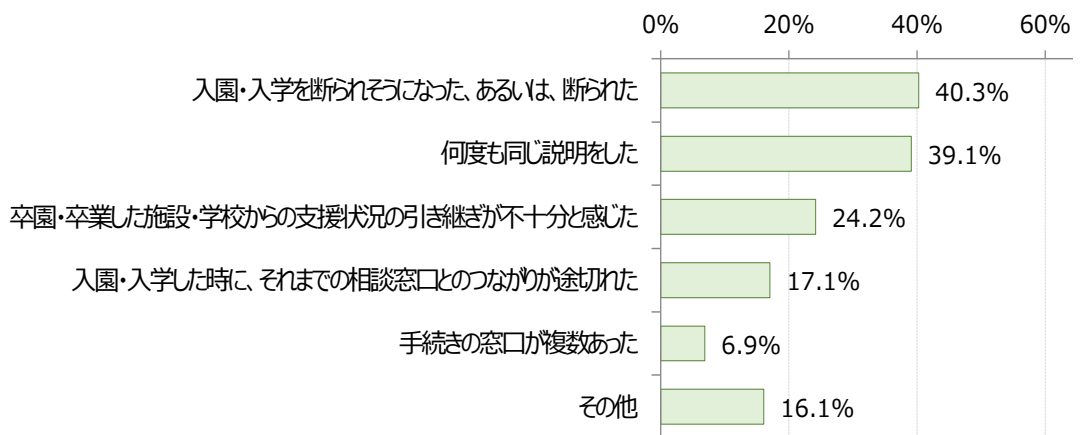
- 年齢が上がるにつれ、「特になかった」の割合が減少し、「引き継ぎが不十分」と感じた割合が高くなっています。
- 「入園・入学する際に困ったことがあった」と回答した保護者は、全体の36.4%（422人）で、「入園入学を断られそうになった」（40.3%）に次いで「何度も同じ説明をした」（39.1%）「引き継ぎが不十分と感じた」（24.2%）と回答しています。

■保護者：問 12 入園・入学時で経験した困った事

〔全体 (n=1,158)〕



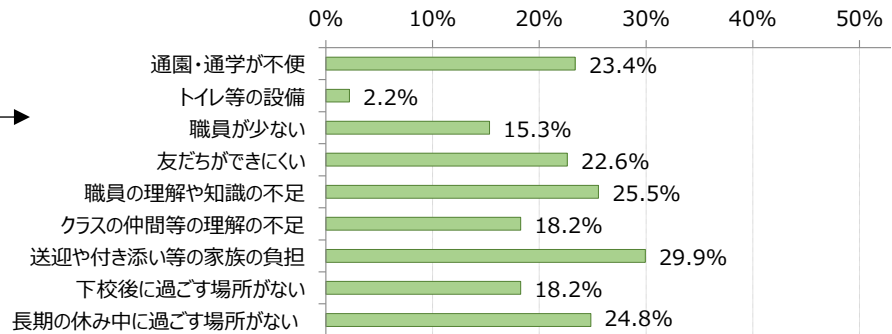
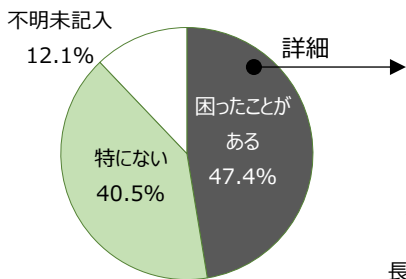
〔困ったことがあった (n=422) の詳細〕



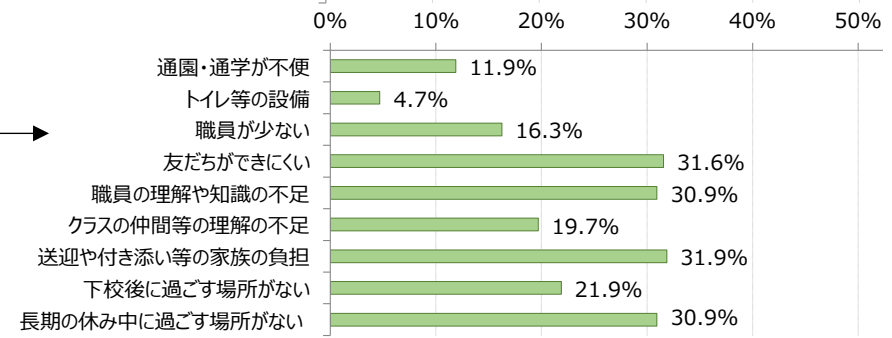
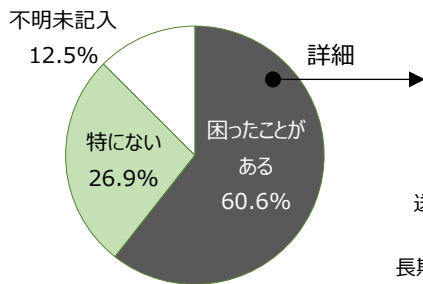
- 困っていることがあると回答した割合は、15歳以上が最も高くなっています。全体的に、「送迎や付き添い等の家族の負担」「職員の理解や知識の不足」「長期の休み中に過ごす場所がない」が多くなっています。
- 乳幼児と小学生、15歳以上は「職員の理解や知識の不足」を挙げる割合が高くなっています。小中学生は、他の年代に比べ「友だちができにくい」(31.6%・36.3%)との回答が多くなっています。

■ 保護者：問 14 保育園・幼稚園等や学校での生活で困っていること（年代別）

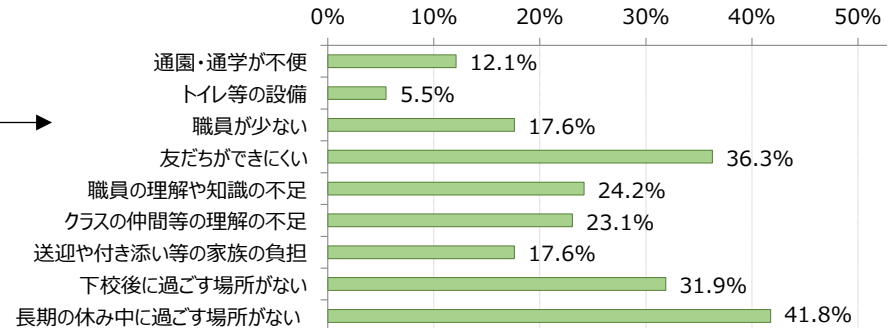
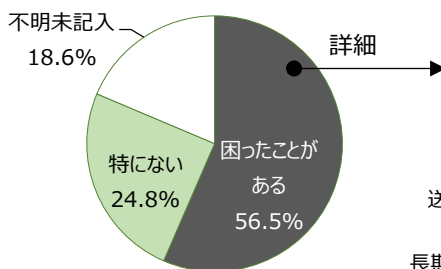
【乳幼児 (n=289)】



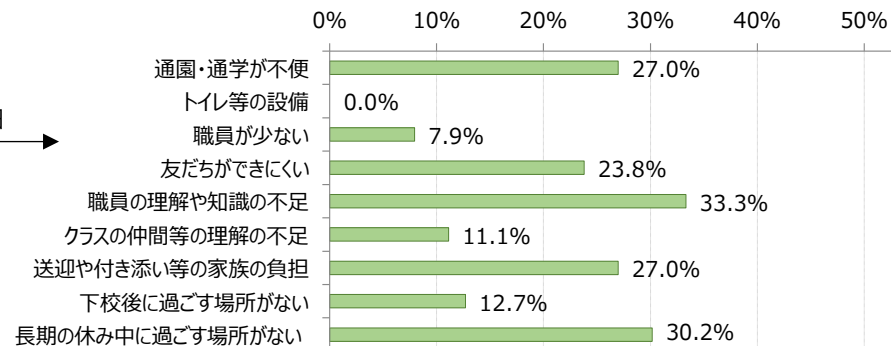
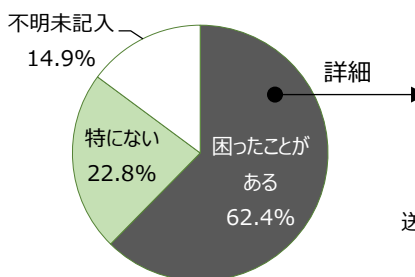
【小学生 (n=528)】



【中学生 (n=161)】



【15歳以上 (n=101)】



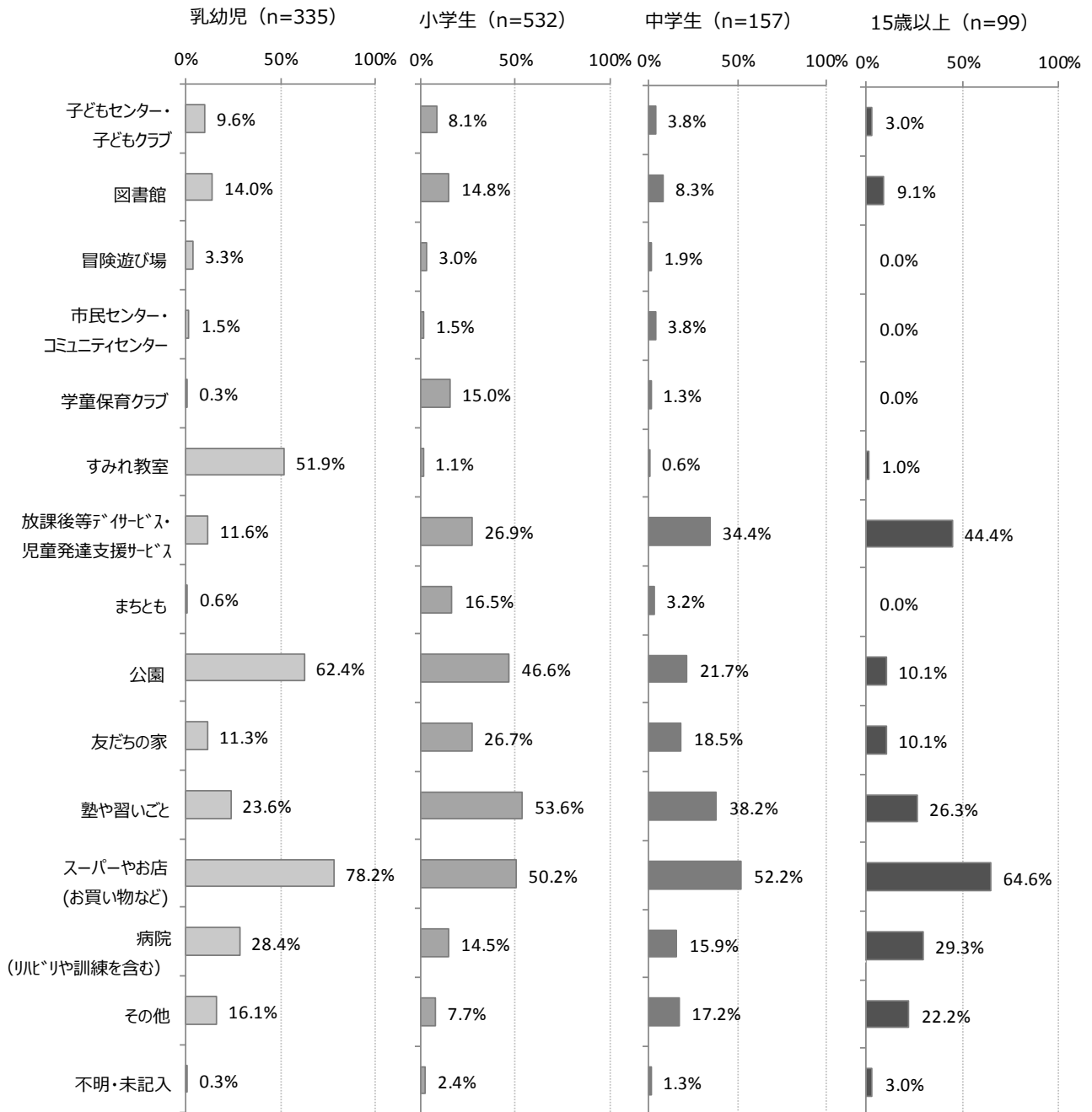
ヒアリング調査

- 発達支援に関わる公的機関や発達支援を行う事業者では、地域住民に向けた講演会・公開講座の開催や、保育園・幼稚園等の職員に対する研修など、支援の必要な子どもの理解促進の取り組みを行っている状況が分かりました。

5) 外出や社会参加について

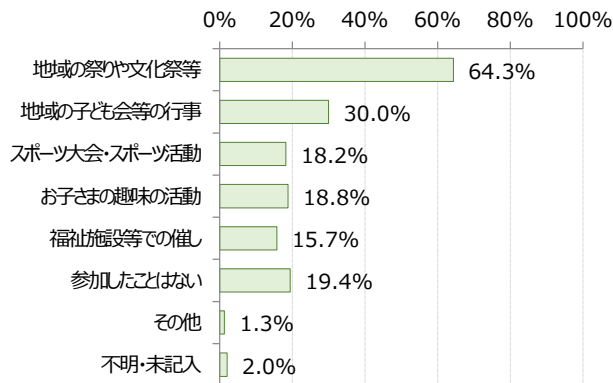
- 全体的に、「スーパーやお店」、「塾や習い事」「放課後等デイサービス」などの日常的に利用する場所が高く、年齢が低いと公園の利用が高くなっています。一方で、子ども同士が交流して新たな人間関係の形成を期待できる子どもセンター・子どもクラブ、冒険遊び場、まちともの利用は低くなっています。

■保護者：問 17 主な外出先（年齢別）



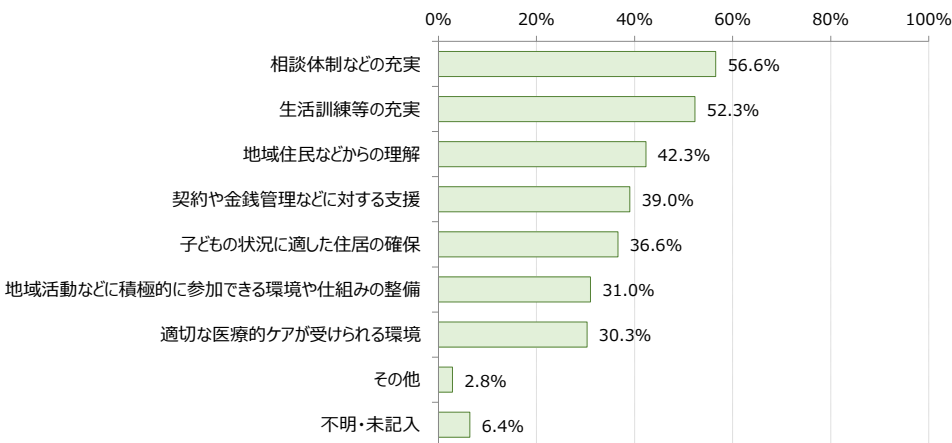
- 参加した事のある行事としては、「地域のお祭りや文化祭等」(64.3%)や「地域の子ども会等の行事」(30.0%)が多く、スポーツ活動や趣味の活動にはあまり参加していません。

■保護者：問 18 参加したことがある地域の行事や活動 (n=1,158)

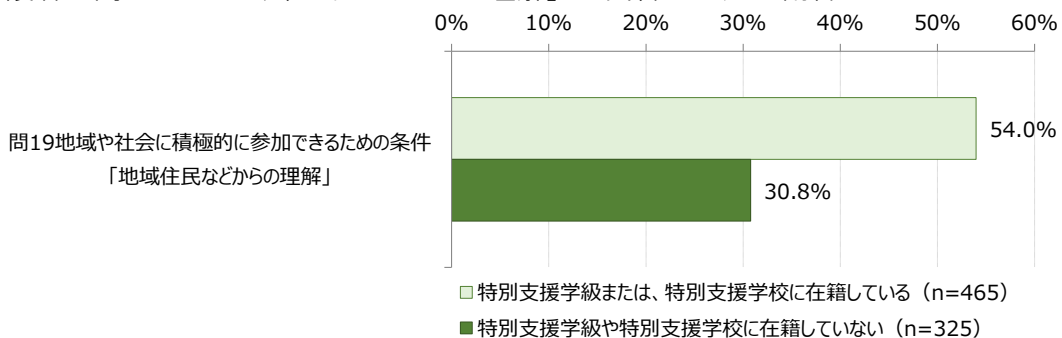


- 子どもが地域社会の一員として生活するには、「相談体制」(56.6%)、「生活訓練」(52.3%)、「地域住民などからの理解」(42.3%)を重視しています。
- 「地域住民などからの理解」を選択した方を分析すると、特別支援学校や特別支援学級に在籍している場合(54.0%)は、在籍していない場合(30.8%)に比べ、割合が高くなっています。

■保護者：問 19 地域社会の一員として生活するための支援 (n=1,158)



■保護者：問 19 「地域住民などからの理解」と回答した方の割合

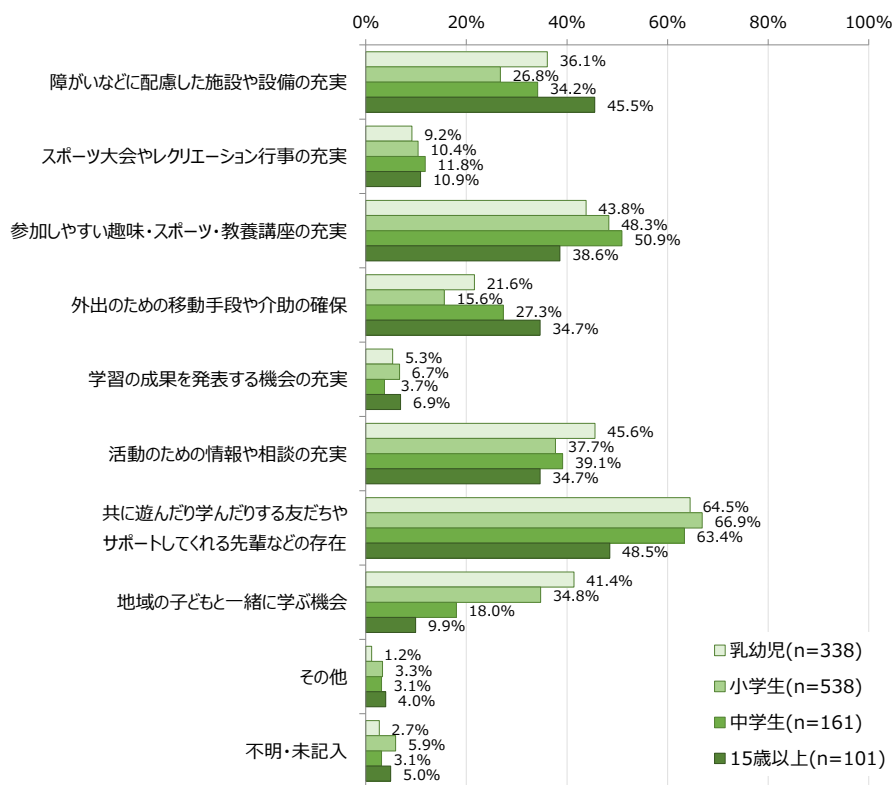


※「特別支援学校または特別支援学級に在籍していない (n=325)」
 「問 13 お子さまが現在、通園・通学(主な在籍・所属として)しているところはどこですか。」における「小学校の通常学級(272)中学校の通常学級(28)、高等学校の合計値(25)の合計。」

・地域や社会に積極的に参加できるようにするために大切なこととして、「共に遊んだり学んだりする友だちやサポートしてくれる先輩などの存在」と回答した割合が、すべての年代で高くなっています。次いで「参加しやすい趣味・スポーツ・教養講座の充実」、「活動のための情報や相談の充実」が多くなっています。

・「地域の子どもと一緒に遊ぶ機会」は、年齢が高くなるにつれ、割合が低くなっています。

■保護者：問 20 地域や社会に積極的に参加できるようにするために、大切なこと（年齢別）



ヒアリング調査

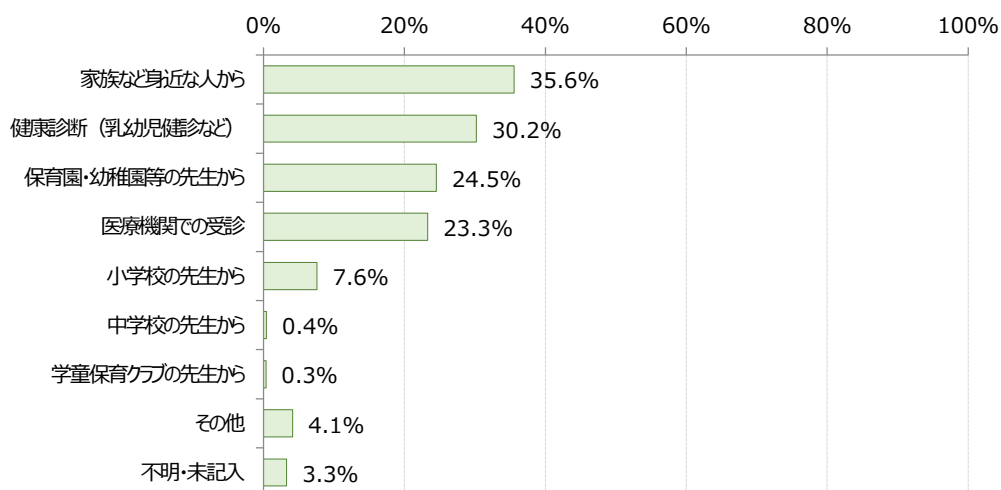
・学童保育クラブや放課後等デイサービスでは、公共交通機関の訓練を兼ねた外出など、外に出る機会に取り組んでいることが分かりました。

(3) 発達の特徴の気付きについて

1) 子どもの気になる特徴に気付いたきっかけ

- 子どもの気になる特徴に気付いたきっかけは「家族などの身内の人から」が35.6%と最も高く、次いで「健康診断（乳幼児健診など）」が30.2%となっています。

■保護者：問 22 子どもの特徴に気づいたきっかけ (n=1,158)

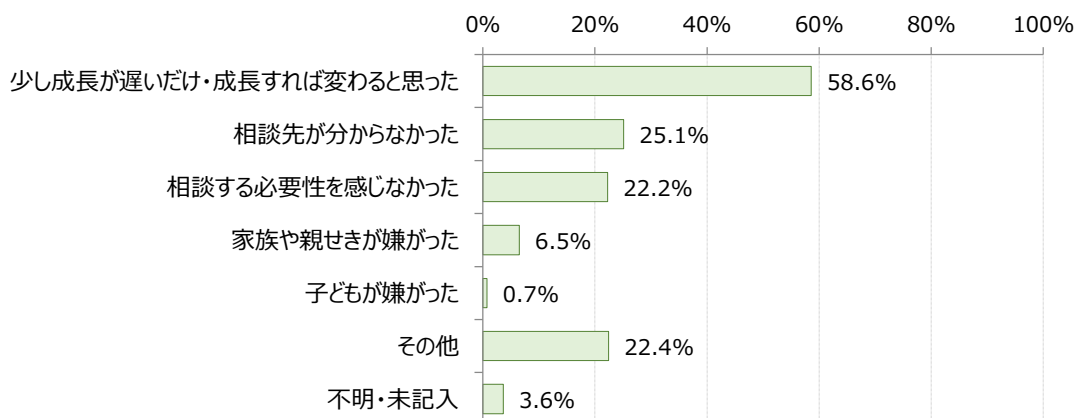


ヒアリング調査より

- 発達支援を行う公的機関では、保育園・幼稚園等や学校での集団生活の中で、子どもの特徴が明らかになることも多いと感じていることが分かりました。

- 子どもの気になる特徴に気付いてもすぐに相談を受けなかった理由として、「少し成長が遅いだけ・成長すれば変わると思った」(58.6%)、「相談先が分からなかった」(25.1%)「必要性を感じなかった」(22.2%)と回答する割合が高くなっています。

■保護者：問 23-1 子どもの特徴に気付いてもすぐ相談を受けなかった理由 (n=553)

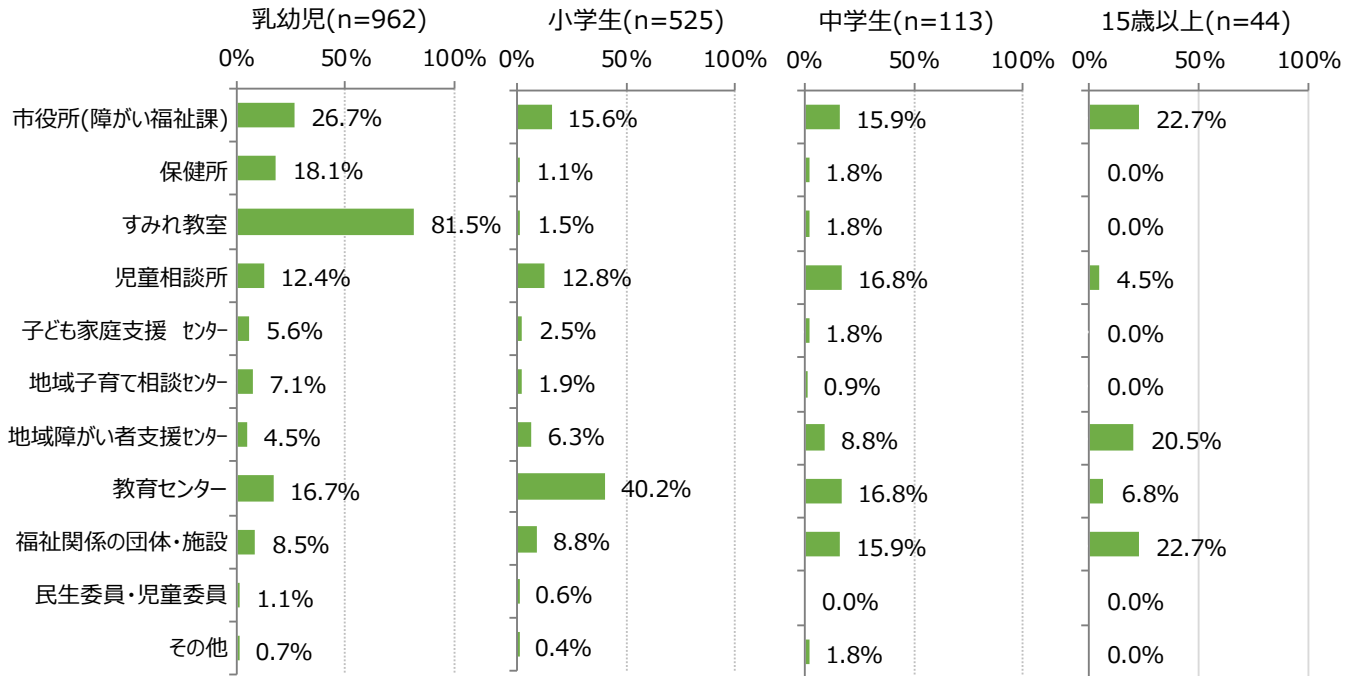


ヒアリング調査

- 発達支援を行う公的機関からは、子どもの発達には個人差があるため成長を見守っていきたいと考えるなど、発達検査の結果を受け入れることが難しい保護者がいて、支援につなげにくい場合があると感じていることが分かりました。

- ・乳幼児は、比較的多様な相談機関を利用しているものの、就学後は、利用する相談機関の種類や相談すること自体が少なくなる傾向が伺えます。また、小学生は「教育センター」の割合が、高校生は「地域障がい者支援センター」や「福祉関係の団体・施設」の割合が高くなっています。

■保護者：問 24 これまでの相談先（相談を受けた時期別）

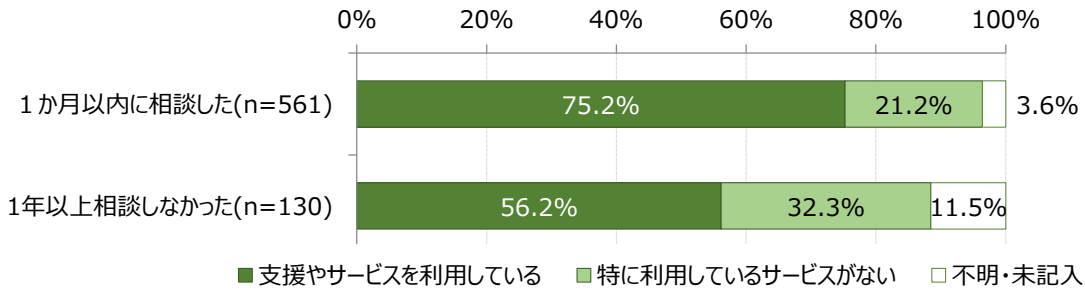


※通園・通学先、医療機関以外の相談先

- 子どもの特徴に気付いてから1か月以内に相談した方が何らかの支援やサービスを利用している割合（75.2%）は、1年以上相談しなかった方の割合（56.2%）より高くなっています。

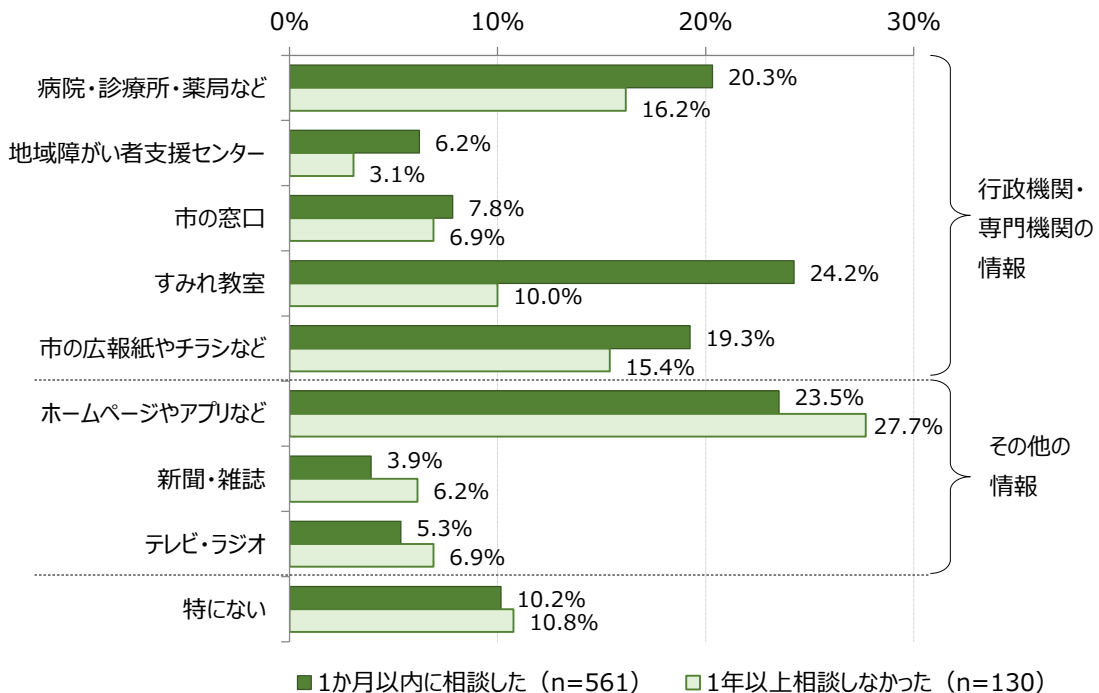
■保護者：問 24 最初の相談の時期（1か月以内/1年以上）と、支援やサービスの利用及び情報源の違い

問 8 【支援やサービスの利用】



- 子どもの特徴に気付いてから1年以上相談しなかった場合は、1か月以内に相談している場合に比べ、ホームページやアプリ、新聞やテレビ・ラジオなどの一般的なメディア等から情報を得ている割合が高くなっています。

問 9 【福祉と支援に関する情報源】

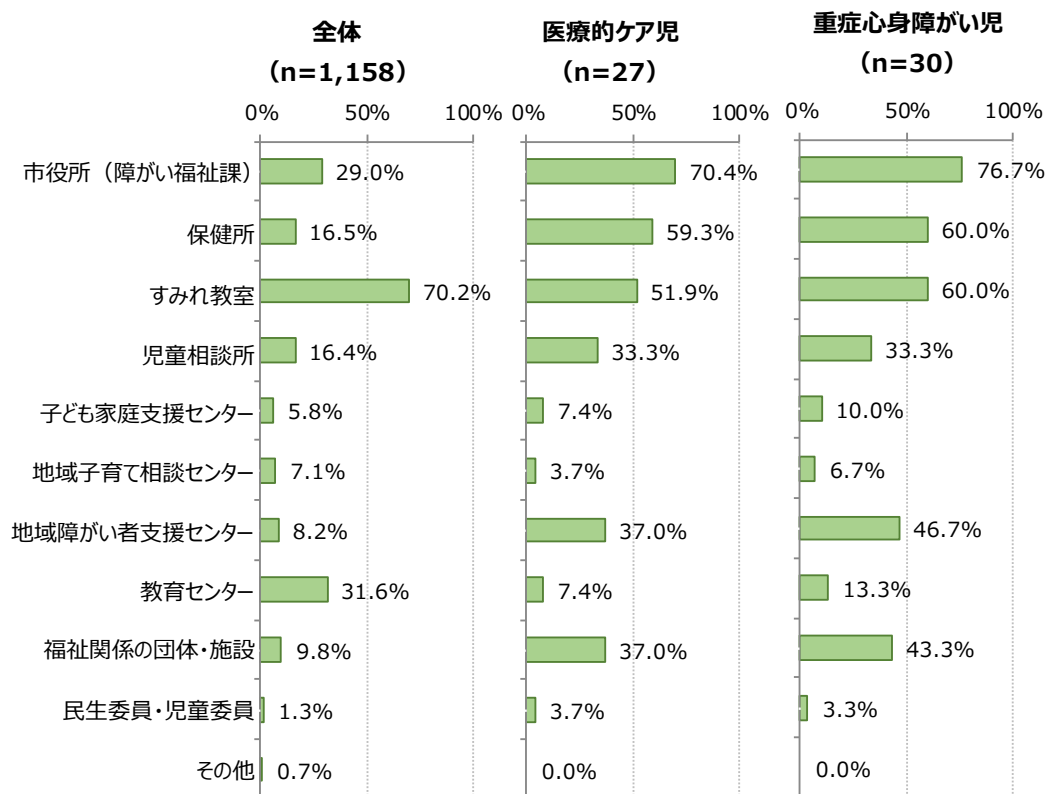


(4)重症心身障がい児・医療的ケア児・

1) 関わっている機関

- 重症心身障がい児^{※1} や医療的ケア児^{※2} の場合、全体に比べて多くの機関と関わっていることが伺えます。

■保護者：問 24 これまでの相談先



※通園・通学先、医療機関以外の相談先

※1 重症心身障がい児：愛の手帳 1・2 度、かつ身体障害者手帳 1・2 級と回答した子ども

※2 医療的ケア児：問 30 および他の問の回答から、医療的ケア (※3) を受けていると判断した子ども (そのうち重症心身障がい児は 17 名)

※3 医療的ケア：人工呼吸器を装着している障害児その他の日常生活を営むための医療 (児童福祉法第 56 条の 6 第 2 項より) で、一般的に学校や在宅等で日常的に行われている、たんの吸引・経管栄養・気管切開部の衛生管理等の医療行為を指す (文部科学省初等中等教育局特別支援教育課「学校における医療的ケアの必要な児童生徒等への対応について」)

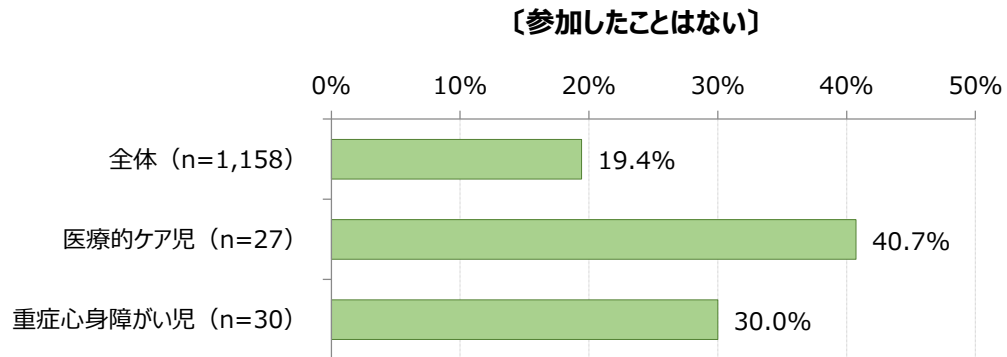
ヒアリング調査

- 発達支援を行う事業者や公的機関では、多くの保育園・幼稚園等で、医療的ケア児について高い関心を持っている反面、医療的な支援に携わる人材が不足しているのではないかと感じています。また、医療的ケア児が自宅で生活する際には、複数の機関で協議が行われていることが分かりました。
- 訪問看護ステーションでは、利用する子どもごとに、関係する機関と保護者を交えて、必要な支援内容の確認や対応の役割分担などについて話し合いを行っていることが分かりました。

2) 社会参加

- 地域の行事や活動に参加したことはないと回答した割合は、全体の 19.4% に比べ、医療的ケア児は 40.7%、重症心身障がい児は 30.0% と高くなっています。

■ 保護者：問 18 地域の行事や活動について

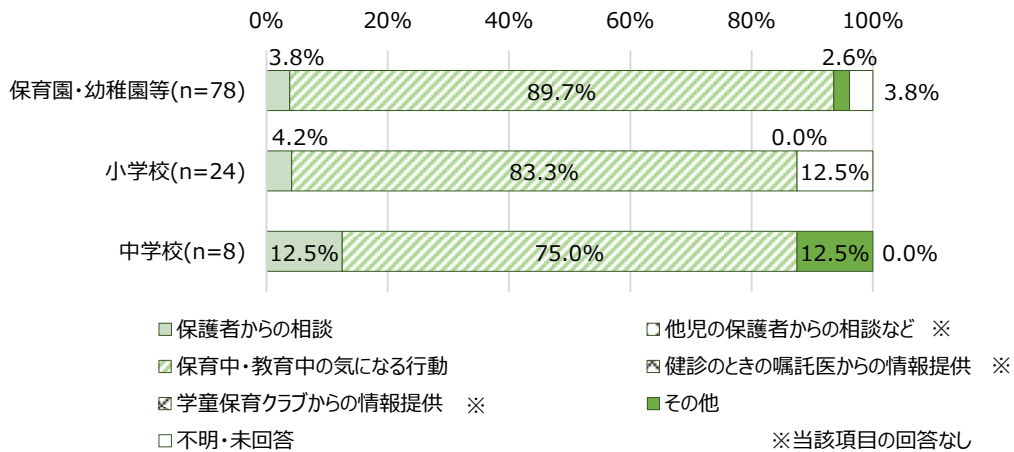


(5) 保育園・幼稚園等、学校の実態

1) 支援のきっかけ

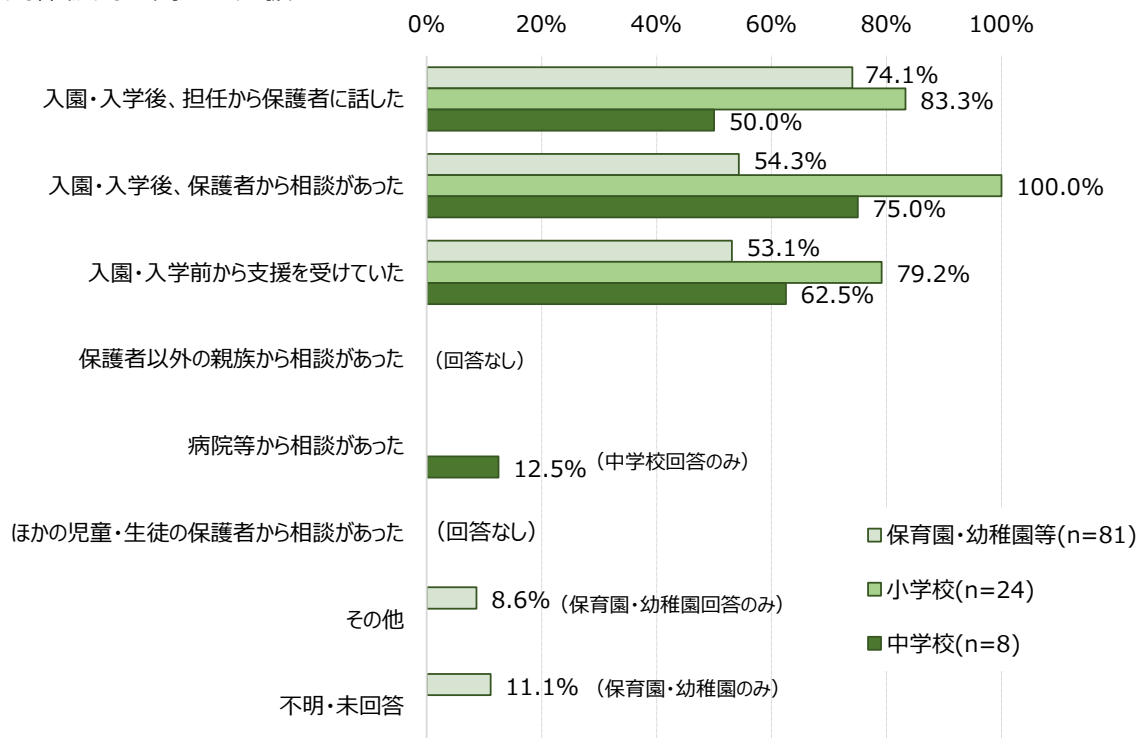
- ・気になる特徴に気づいたきっかけは、保育園・幼稚園等や小中学校ともに「保育中・教育中の気になる行動」(75.0%~89.7%)が最も多く、保育士や教員等が子どもの特徴に気づいています。

■関係機関：問5 気になる特徴に気づいたきっかけ（最も多いもの1つ）



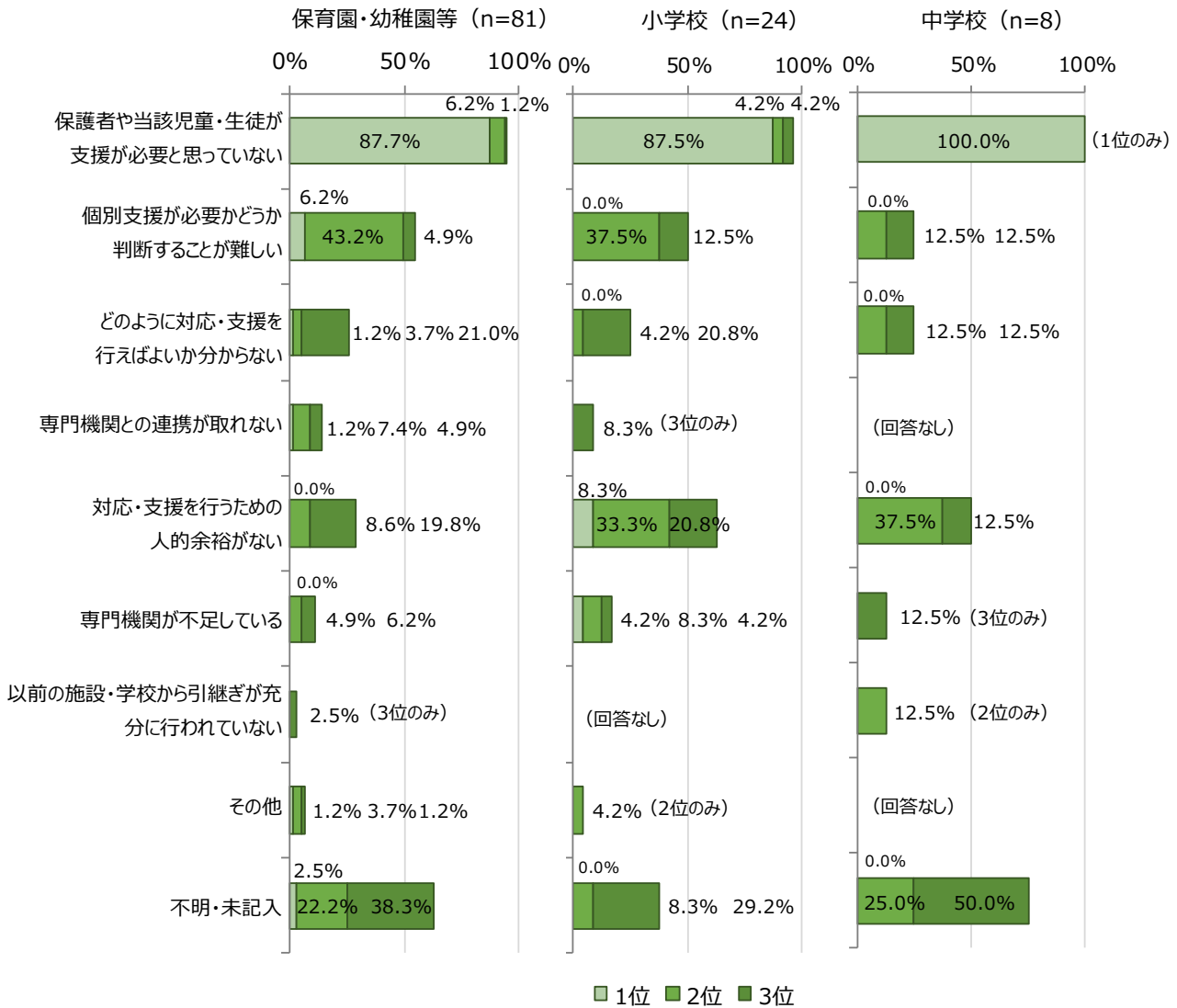
- ・支援につながったきっかけは、保育園・幼稚園等では「担任から保護者に伝えた」が74.1%と最も多く、小中学校は、「保護者から相談があった」(小学校 100%、中学校 75%)や「入園・入学前から支援を受けていた」(小学校 79.2%、中学校 62.5%)も多く見られます。

■関係機関：問8 支援につながったきっかけ



- 気になる特徴が見られても、支援につなげられない理由として「保護者等が支援が必要とっていない」と回答した割合が、すべての機関で高くなっています。この項目を1位としている割合も高くなっており、支援につながるためには、保護者や児童・生徒の意識が大きく関係していることが伺えます。

■ 関係機関：問9 支援につなげられない理由（1位から3位）



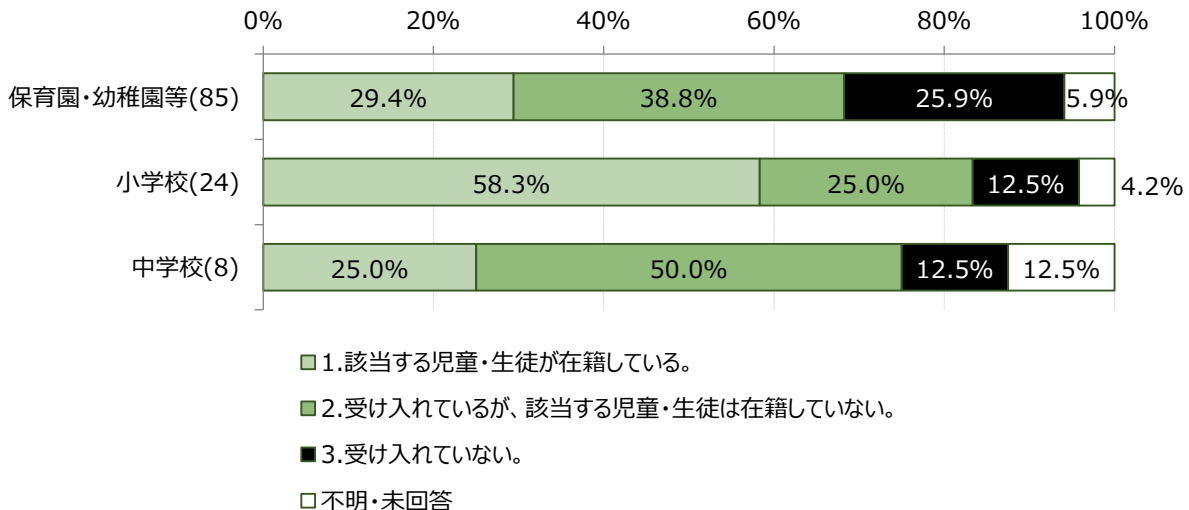
ヒアリング調査

- 発達支援に関わる公的機関では、早期発見・早期支援の重要性に関心を持っています。幼児期から専門機関の支援を受けている場合には、保護者の理解が進み、本人の特徴に応じた療育等の専門的なサービスを利用しやすいと感じていました。就学後では、特別支援学級に通学するために転校する必要がある場合、転校することへの抵抗感があることなどから、本人に適した教育環境につながらないことがあると感じていました。

2) 障がい児の受け入れについて

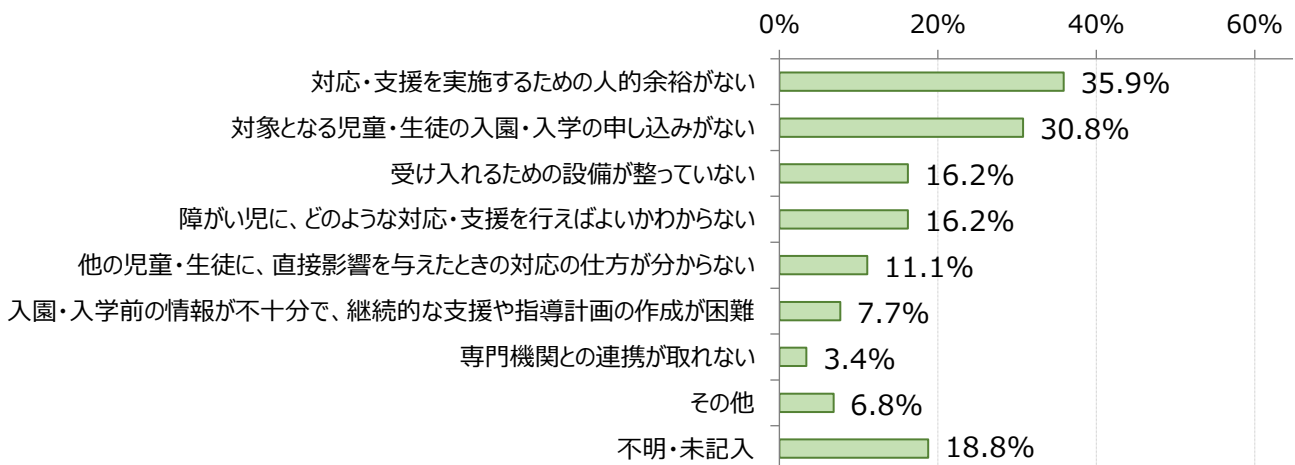
- 回答のあった関係機関において、障害者手帳等を持つ子どもは、保育園・幼稚園等 29.4%、小学校 58.3%、中学校 25.0%在籍しています。

■ 関係機関：問 11① 障害者手帳等を持っている児童の受け入れ



- 障がい児への対応で困っていることについて、「対応・支援を実施するための人的余裕がない」(35.9%) が最も高くなっています。障がい児に適切に対応するための、人員確保が難しいことが伺えます。

■ 関係機関：問 11② 障がい児への対応で困っていること (障がい児受入施設 n=117)



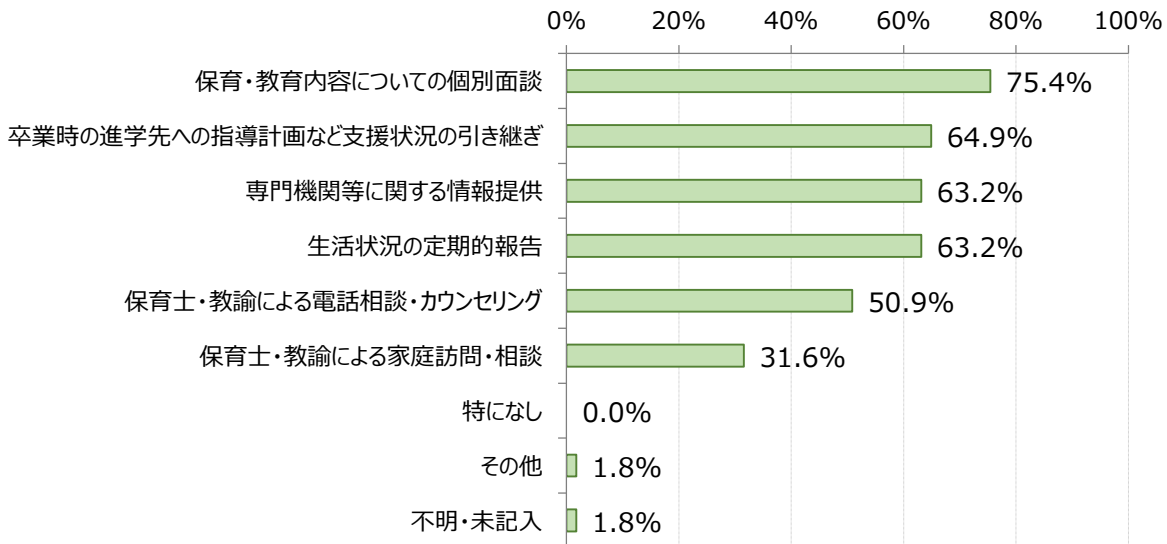
ヒアリング調査

- 学童保育クラブや放課後等デイサービスにおいては、必要に応じて早い段階から職員を増やす対応をしていることが分かりました。一方で、障がいのある子や気になる子に対して、集団の中でどう対応していいのかわからないことや、医療的ケアに対応できる人材が不足している状況が分かりました。

3) 保護者や家族への支援について

- 保護者や家庭への支援については、「保育・教育内容についての個別面談」(75.4%)が最も高く、「卒業時の進学先への指導計画など支援状況の引き継ぎ」(64.9%)、「専門機関等に関する情報提供」(63.2%)、「生活状況の定期的報告」(63.2%)の順となっています。

■関係機関：問 14 障がい児の保護者、家庭への支援の実施状況

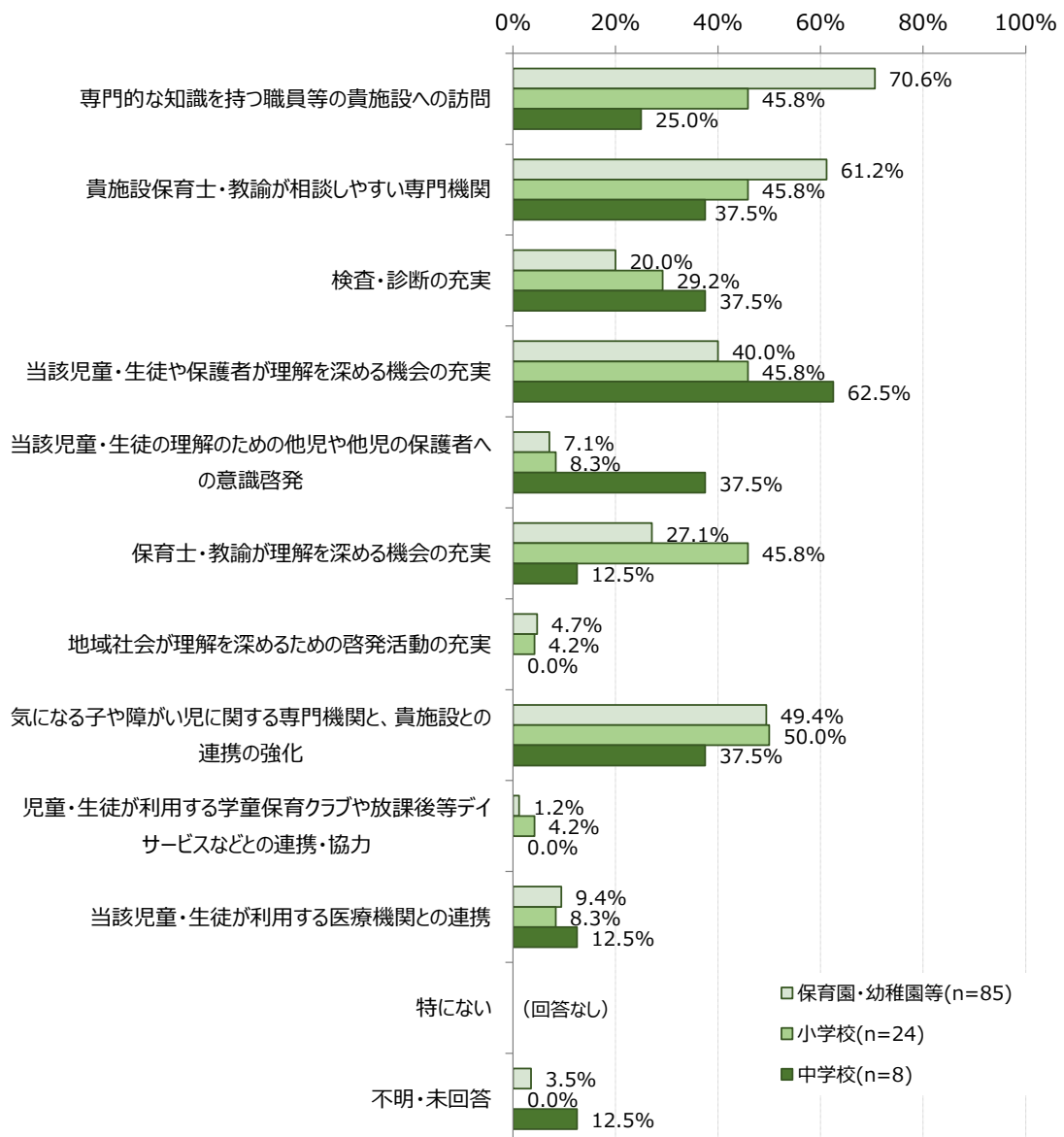


ヒアリング調査

- 町田の丘学園は、様々な機関と積極的に情報交換を行っており、子どもに関する事業者などが集まる会議を行っていました。
- 発達支援を行う事業者は、それぞれの事業者が、地域支援センターや就労支援センター、子ども家庭支援センター、保健所と連携を図っていました。子どもの状況に応じて、すみれ教室や教育センターだけでなく、他の事業者などを紹介している状況が分かりました。
- 放課後等デイサービスでは、定期的に小学校と情報交換を行っているほか、送迎時にも学校の先生と話しをするなど、積極的に連携を図っていることが分かりました。
- ヒアリング対象機関では、複数のサービスや療育を併用している子どもが増えていると感じており、支援に関わる機関がより連携していく必要があると考えていました。

- 全体的に、専門機関との連携を求めている傾向が伺えます。
- 保育園・幼稚園等では、「専門的な知識を持つ職員等の貴施設への訪問」(70.6%)や「保育士・教諭が相談しやすい専門機関」(61.2%)が高く、専門的な知識や経験等を必要としている傾向が伺えます。
- 小中学校では、「気になる子や障がい児に関する専門機関との連携強化」(小学校 50.0%、中学校 37.5%)となっており専門機関との連携に関心があります。
- 中学校では、「当該児童・生徒や保護者が理解を深める機会」(62.5%)や「当該児童生徒の理解のための他児や他児の保護者への意識啓発」(37.5%)となっており、生徒や保護者の理解促進に対しても関心があります。

■ 関係機関：問 17 気になる子・障がい児の対応や支援において重要なこと



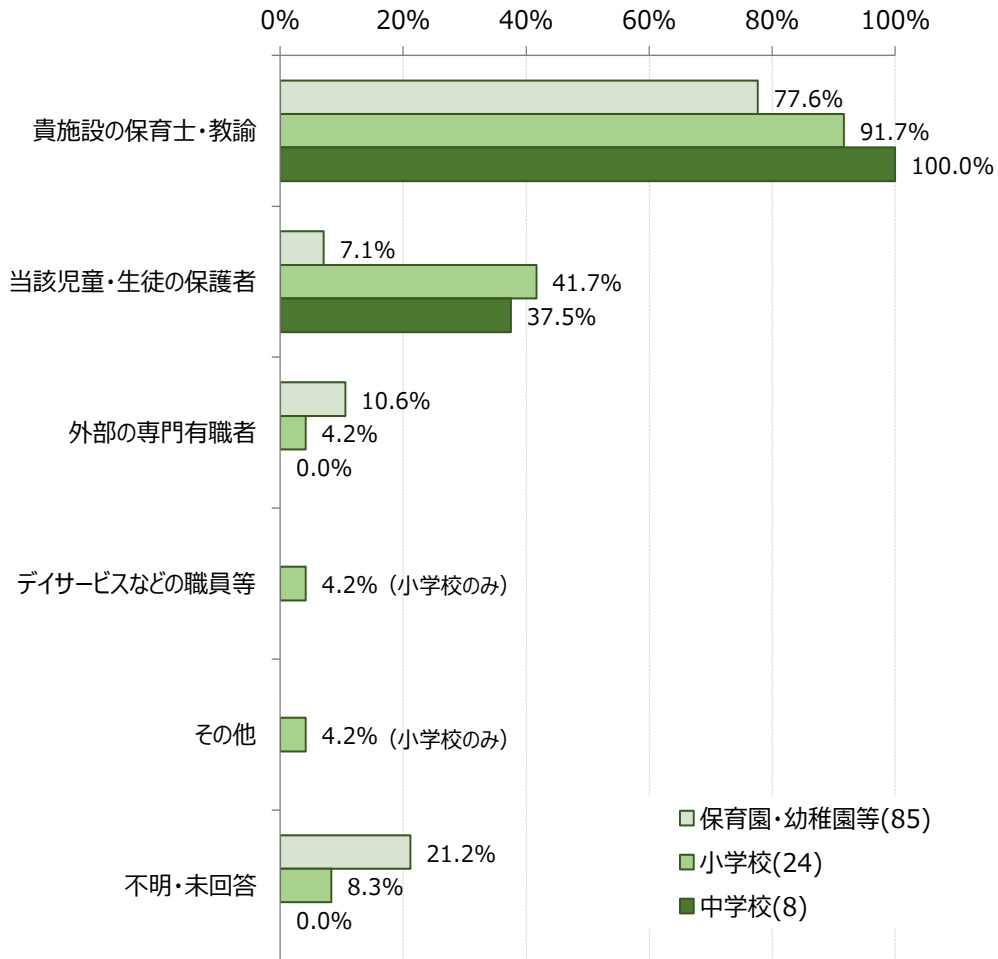
ヒアリング調査

- ヒアリングを行った機関からは、保育園・幼稚園等や小中学校から依頼されて、職員を講師として派遣していたり、子どもの療育などについて相談を受けたりしていることが分かりました。

4) 個人別の指導計画について

・主に子どもが在籍している「施設の保育士・教諭」が立案・作成しており、小学校の41.7%、中学校の約37.5%は、「当該児童・生徒の保護者」が立案を作成に携わっています。

■ 関係機関：問 16① 指導計画の立案と作成に携わっている人



4. 自由回答(保護者向け調査)

※特定の施設名、判読不能文字などは、一部修正しました。

①発見、相談

発達障がいや知的障がいを持つ成人が近い青年の将来について相談できる場所があれば良いなと思っています。
小学校に入ってから、すみれ教室に行かなくなり、障がいについて相談できる機会が無くなった。学校の先生は親身になってくれるが専門ではないし・・・継続して経過が追えとうれしい。
小学校卒業後も、公立、私立に関わらず、継続した相談ができる場所があると良いです。
相談する窓口が多いのはいいが、横のつながりがはっきりしない。こんな時はここへ相談を、というのがわかりやすいといい。

②療育(すみれ教室・児童発達支援・放課後等デイサービス)

すみれ教室の通える日にちが少なすぎて非常に残念です。
すみれ教室からは自宅が離れていて、通いにくかったのもう少し、同じような施設が身近にあるとよかったと思う。
高校生までは近年充実してきたデイサービスのおかげで親は働きやすい環境が整ってありがたいと思っています。
もっと児童発達支援サービス・放課後等デイサービスを増やしてほしいです。利用するにあたって定員オーバーなどで利用できなかったりしています。

③親子、きょうだい、親戚

通所サービス(デイサービス)を利用したいのですが、父、祖父の理解、同意を得られません。児童、デイサービスの必要性やメリットを父親や祖父に理解、説明してくれる公的機会があると助かります。
兄弟間のトラブルも小さい頃は大変だった。理不尽な思いをさせていたのでは・・・と今でも思う。
発達障がいグレーゾーンの子どもの対処法など知る機会がもっとあったらいいと思います。
学校の先生方からは特別支援学級を薦めてもらっていますが、家族の理解が得られずなかなか話が進みません。

④保育園・幼稚園等、小中学校、高校(学区、通学、先生)

今、入園している保育園では、話をしても通じないことが多いです。障がいのある子どもは、持病がある子どもが多いのですが、もう少し病気についての勉強をしてもらいたいです。
どこの小学校でも障がい児を受け入れる体制が整っていれば良いなと思います。
通級の先生は、たくさん勉強されていて、理解があるように感じます。通常級の先生方も、発達障がい特徴と指示などのやり方、理解など、学んでいただきたいなと思います。
学区の小学校の通常学級に通わせたいと思っているが、友だちや先生、学校の理解に不安があり、通わせるかどうか迷う。

⑤特別支援学校・特別支援学級・通級指導学級

特別支援学級や特別支援学校等の先生から、幼児期にどんな訓練が必要か等、具体的にどのようなことを自宅ですべきなのか話を聞きたい。

特別支援学校では、地域の学校と副籍交流をしています。せっかく交流するのですから、お互いにとって充実したものにしていきたいと思っています。

小学校の特別支援学級に通っているが、遠くから通う人もいる。もっと特別支援学級がある学校が増えてもいいのではないか。支援学級がない学校の生徒は障がい児にふれあう機会がないこともよくないのではないか。

小学校のコミュニケーション教室は、子にとっても週一回のオアシスでした。小、中、通級、特別学級の先生方はとても理解があり、本当に感謝しています。

⑥外出、あそび

同じような障がいのある子が通える習い事が増えると嬉しいです。

同じような障がいを持つ子ども(家族)で集まれるイベント、情報などを共有できると楽しみができますし、とても助かります。

子ども同士で遊べるようになってほしいし、本人も遊びたいようですが、なかなか上手いかず、孤立している長男をみると、放課後も支援というか、あそべる所があるといいなと思う。

障がい児スポーツ教室の様に障がい児向けの物だけではなく、障がいがある方も健常のお友だちと一緒に参加が出来るプログラムがあると嬉しいです。

⑦情報

グレーゾーンやボーダーと呼ばれる子どもたちが、きちんとサービスが受けられるように、もっと情報を積極的に発信してほしいです。

受給者証の手続き方法やどういったものなのか、放課後等デイサービスなどの施設の情報などが身近に得られるようになると助かります。

先の進路についてはなるべく多くの情報を知りたいと思っています。

療育などに通っているお母さん同士の交流の場など、情報交換できる人がほしい。先輩ママさんの情報は貴重で、知らなかったことばかりで、とても為になっています。

療育など、どのようなことを行っているのか、もう少しインターネットなどで情報が得られると良い。

⑧交流（子ども同士、親同士）

保護者同士意見交換や交流できる場がもっとあると、情報交換ができていいと思います。

発達支援の事に関してもう少し早くに学ぶべき事が今になり多くなっておりますが、同じ発達支援を受けている方の仲間からの支援などで今は少しずつ楽になりました。

低学年の子ども同士ではたぶん何も気にせずお互いを受け入れ合うのかなと思いますが、そこに親や周りの大人たちの偏見が加わると子ども同士の関係もうまくいなくなるのかと感じます。

⑨社会の理解

社会全体がどんな人でも受け入れ、協力して生きていこうというのが当然となる社会になるよう教育も含め、環境づくりもしていくべきだと思います。

障がいのある人が社会の一員として暮らしてゆくためにはサポートも必要だが、まずは、多くの人たちが障がいについて受け入れられる教育を、小さい頃からすべきだと思っています。

やはり社会全体の理解が深まるとより生活しやすく日々充実したものになると思います。多様性を認め合い「みんな違って、みんないい」社会の実現を望みます。

周りの理解や協力・支援などがあると、閉ざされた先が明るく見えたり、支える家族が頑張れたりする事があると思います。

幸いな事に子どもが産まれてから今日まで悩む事もありましたが、近所の方々も理解し、かわいがってくれて本当に恵まれていると思います。

⑩進学・就労

手帳はとるほどでもないグレーゾーンの子が、中学卒業後の進路先情報などまだまだ少ないように思います。こんな学校がありますよ(支援学校以外で)と情報提供してもらえると助かります。

中学校卒業までは支援があつて助かりましたが、高校からは何もなく、この先進学(大学)の支援はどうなるのか不安です。

職業訓練出来る場など親がいなくなっても生涯安心して生活していける環境はあってほしいなと思います。

学校を卒業した後の生活、親亡き後の生活が不安になります。

高校卒業後の職場、その後の生活の場が確保できるのか心配です。親としてできるかぎりの準備をしてやるつもりですが、選択肢がふえて、質が上っていくことを期待しています。

5. 単純集計

(1) 保護者向け調査

1) 調査項目

	分野	
(1)	年齢や家族など	問1～5
(2)	主に子育てを行っている方について	問6、7
(3)	お子さまの日常生活について	問8～11
(4)	お子さまの通園・通学について	問12～15
(5)	お子さまの外出や社会参加について	問16～20
(6)	お子さまの発達特性に気付いた時期の状況について	問21～24
(7)	サービス利用の状況について	問25～29
(8)	医療的ケアが必要なお子さまについて	問30～34

※留意事項（保護者向け調査及び関係機関向け調査共通）

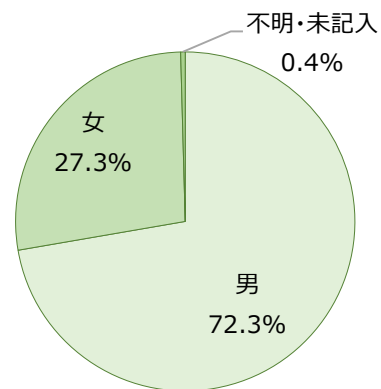
- 設問が単一回答の設問の場合は、「SA (Single Answer)」、複数回答の設問の場合は、「MA (Multiple Answer)」、自由回答の場合は「FA (Free Answer)」と表記します。
- 複数回答の場合は回答者数の計のみを表記し、構成比の合計は表記していません。

2) 集計結果

ア) 年齢や家族など

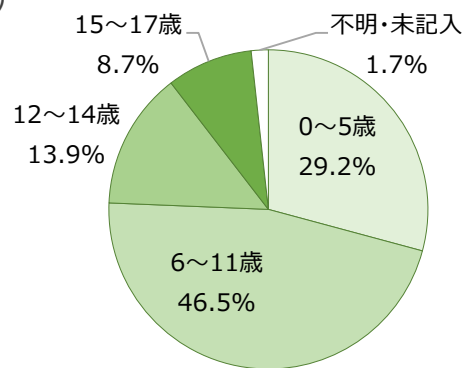
問1 お子さまの性別をお答えください。(SA)

	回答数	構成比
男	837	72.3%
女	316	27.3%
不明・未記入	5	0.4%
計	1,158	100.0%



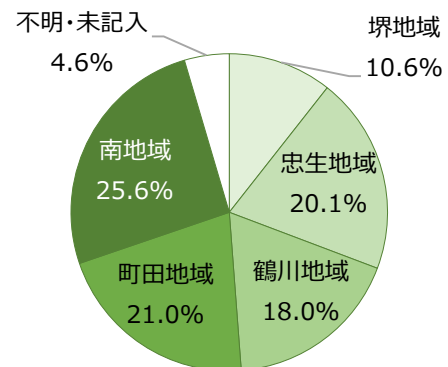
問2 お子さまの年齢をお答えください。(FA)

	回答数	構成比
0～5歳	338	29.2%
6～11歳	538	46.5%
12～14歳	161	13.9%
15～17歳	101	8.7%
不明・未記入	20	1.7%
計	1,158	100.0%



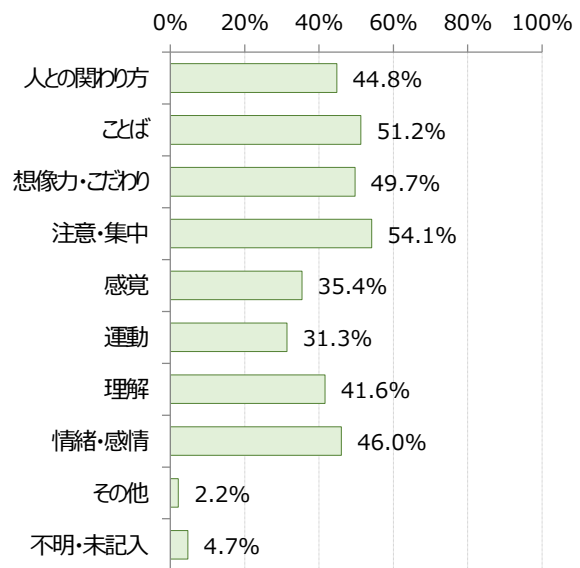
問3 お住まいの郵便番号をご入力ください。(FA)

	回答数	構成比
堺地域	123	10.6%
忠生地域	233	20.1%
鶴川地域	209	18.0%
町田地域	243	21.0%
南地域	297	25.6%
不明・未記入	53	4.6%
計	1,158	100.0%



問4 お子さまの育ちの面において、以下の表のような特徴はありますか。(MA)

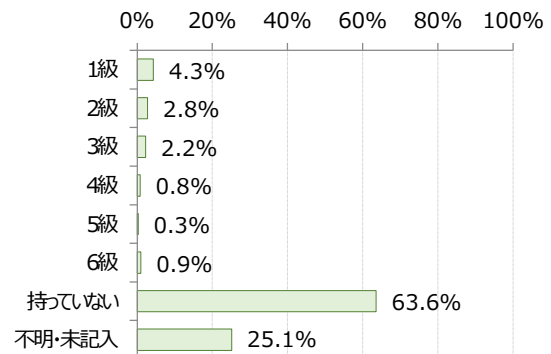
	回答数	構成比
人との関わり方	519	44.8%
ことば	593	51.2%
想像力・こだわり	575	49.7%
注意・集中	627	54.1%
感覚	410	35.4%
運動	363	31.3%
理解	482	41.6%
情緒・感情	533	46.0%
その他	25	2.2%
不明・未記入	55	4.7%
(回答者数)計	1,158	



問5 お子さまは、次の手帳を持っていますか。(SA)

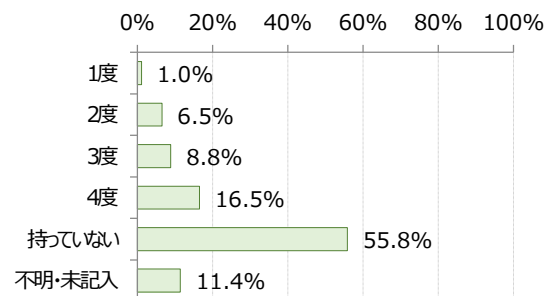
①身体障害者手帳

	回答数	構成比
1級	50	4.3%
2級	32	2.8%
3級	26	2.2%
4級	9	0.8%
5級	3	0.3%
6級	11	0.9%
持っていない	736	63.6%
不明・未記入	291	25.1%
計	1,158	100.0%



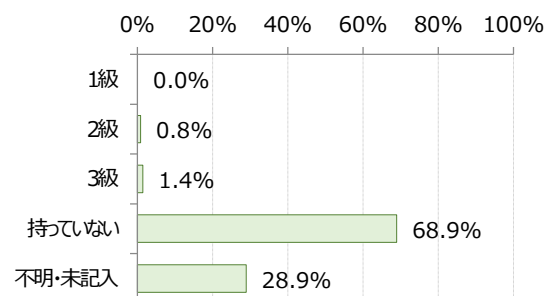
②愛の手帳(養育手帳)

	回答数	構成比
1度	12	1.0%
2度	75	6.5%
3度	102	8.8%
4度	191	16.5%
持っていない	646	55.8%
不明・未記入	132	11.4%
計	1,158	100.0%



③精神障害者保健福祉手帳

	回答数	構成比
1級	0	0.0%
2級	9	0.8%
3級	16	1.4%
持っていない	798	68.9%
不明・未記入	335	28.9%
計	1,158	100.0%

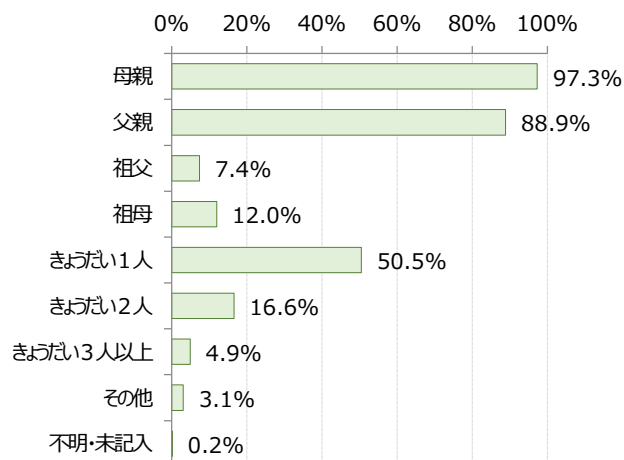


イ) 主に子育てを行っている方について

問6 お子さまと同居している方について伺います。

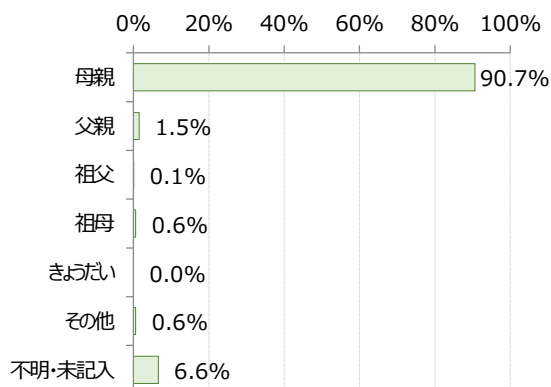
①お子さまからみて、同居している方は誰ですか。(MA)

	回答数	構成比
母親	1,127	97.3%
父親	1,029	88.9%
祖父	86	7.4%
祖母	139	12.0%
きょうだい1人	585	50.5%
きょうだい2人	192	16.6%
きょうだい3人以上	57	4.9%
その他	36	3.1%
不明・未記入	2	0.2%
(回答者数)計	1,158	



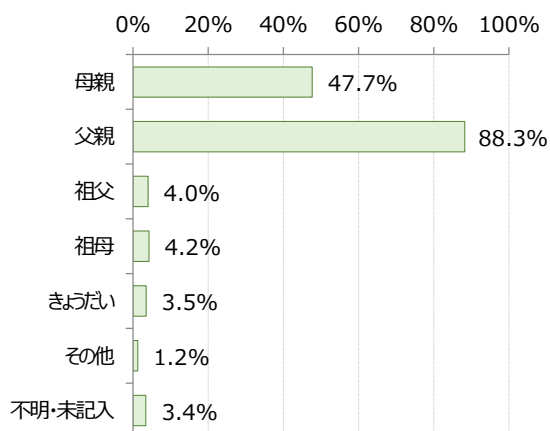
②そのうち、主に子育てをされている方は誰ですか。(SA)

	回答数	構成比
母親	1,050	90.7%
父親	17	1.5%
祖父	1	0.1%
祖母	7	0.6%
きょうだい	0	0.0%
その他	7	0.6%
不明・未記入	76	6.6%
計	1,158	100.0%



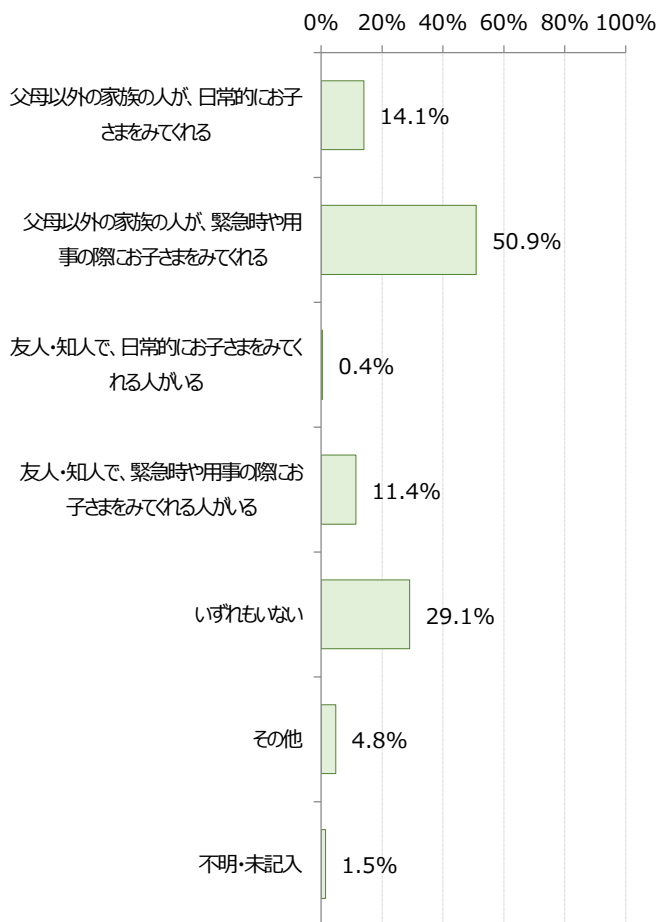
③同居している方のうち、仕事をされている方は誰ですか。(MA)

	回答数	構成比
母親	552	47.7%
父親	1,022	88.3%
祖父	46	4.0%
祖母	49	4.2%
きょうだい	40	3.5%
その他	14	1.2%
不明・未記入	39	3.4%
(回答者数)計	1,158	



問7 日ごろ、主に子育てをされている方以外に、子育てを手伝ってもらえる方について、あてはまるものすべてをお選びください。(MA)

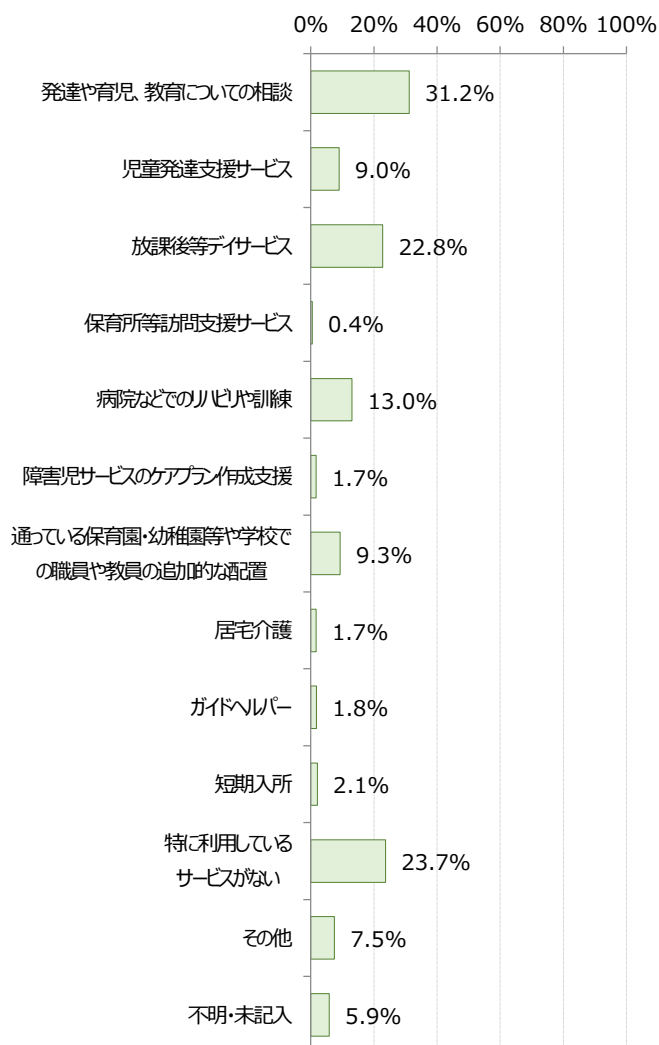
	回答数	構成比
父母以外の家族の人が、日常にお子さまをみてる	163	14.1%
父母以外の家族の人が、緊急時や用事の際にお子さまをみてる	590	50.9%
友人・知人で、日常にお子さまをみてる人がいる	5	0.4%
友人・知人で、緊急時や用事の際にお子さまをみてる人がいる	132	11.4%
いずれもない	337	29.1%
その他	56	4.8%
不明・未記入	17	1.5%
(回答者数)計	1,158	



ウ) お子さまの日常生活について

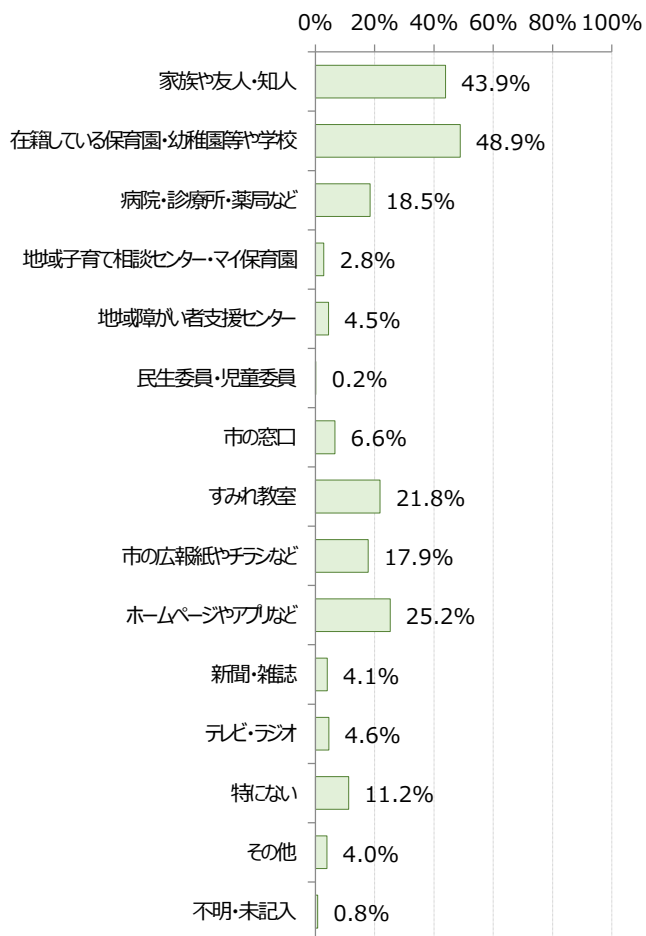
問8 以下の支援やサービス等について、現在、利用しているものはありますか。(MA)

	回答数	構成比
発達や育児、教育についての相談	361	31.2%
児童発達支援サービス	104	9.0%
放課後等デイサービス	264	22.8%
保育所等訪問支援サービス	5	0.4%
病院などでのリハビリや訓練	151	13.0%
障害児サービスのケアプラン作成支援	20	1.7%
通っている保育園・幼稚園等や学校での職員や教員の追加的な配置	108	9.3%
居宅介護	20	1.7%
ガイドヘルパー	21	1.8%
短期入所	24	2.1%
特に利用しているサービスがない	274	23.7%
その他	87	7.5%
不明・未記入	68	5.9%
(回答者数)計	1,158	



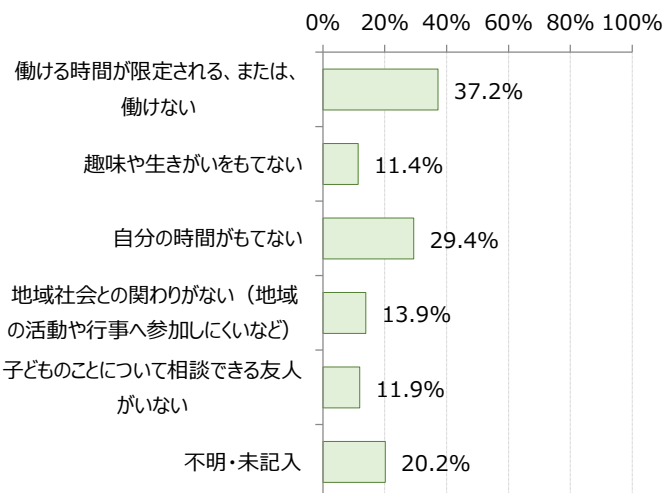
問9 支援や福祉に関する情報をどこから得ていますか。(MA)

	回答数	構成比
家族や友人・知人	508	43.9%
在籍している保育園・幼稚園等や学校	566	48.9%
病院・診療所・薬局など	214	18.5%
地域子育て相談センター・マイ保育園	33	2.8%
地域障がい者支援センター	52	4.5%
民生委員・児童委員	2	0.2%
市の窓口	77	6.6%
すみれ教室	253	21.8%
市の広報紙やチラシなど	207	17.9%
ホームページやアプリなど	292	25.2%
新聞・雑誌	47	4.1%
テレビ・ラジオ	53	4.6%
特にない	130	11.2%
その他	46	4.0%
不明・未記入	9	0.8%
(回答者数)計	1,158	

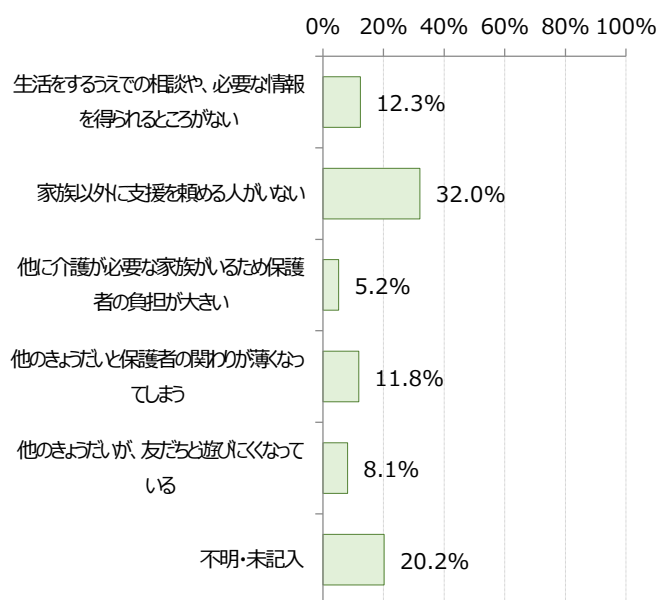


問10 現在の生活で困っていることについて、あてはまるものすべてをお選びください。(MA)

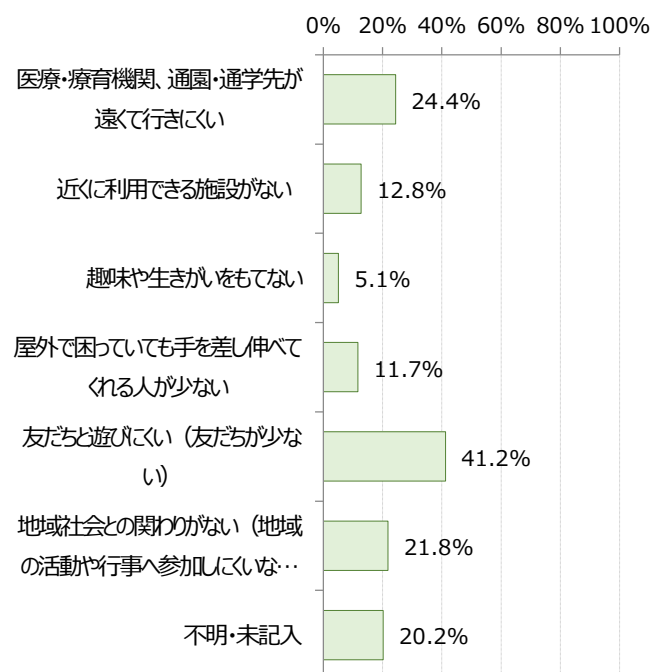
保護者に関すること	回答数	構成比
働ける時間が限定される、または、働けない	431	37.2%
趣味や生きがいをもてない	132	11.4%
自分の時間がもてない	340	29.4%
地域社会との関わりがない(地域の活動や行事へ参加しにくいなど)	161	13.9%
子どものことについて相談できる友人がいない	138	11.9%
不明・未記入	234	20.2%
(回答者数)計	1,158	



家庭に関すること	回答数	構成比
生活をするうえでの相談や、必要な情報を得られるところがない	143	12.3%
家族以外に支援を頼める人がいない	371	32.0%
他に介護が必要な家族がいるため保護者の負担が大きい	60	5.2%
他のきょうだいと保護者の関わりが薄くなってしまふ	137	11.8%
他のきょうだいが、友だちと遊びにくくなっている	94	8.1%
不明・未記入	234	20.2%
(回答者数)計	1,158	

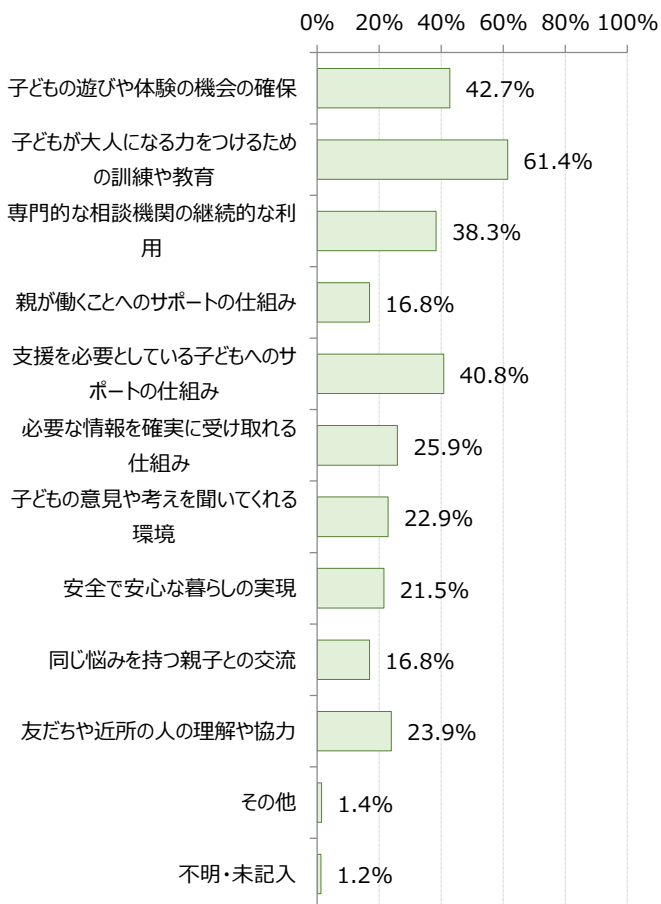


お子さまに関すること	回答数	構成比
医療・療育機関、通園・通学先が遠くて行きにくい	282	24.4%
近くに利用できる施設がない	148	12.8%
趣味や生きがいをもてない	59	5.1%
屋外で困っていても手を差し伸べてくれる人が少ない	135	11.7%
友だちと遊びにくい(友だちが少ない)	477	41.2%
地域社会との関わりがない(地域の活動や行事へ参加しにくいなど)	253	21.8%
不明・未記入	234	20.2%
(回答者数)計	1,158	



問11 お子さまが健やかに成長していくために必要だと思うことについて、あてはまるもののうち3つをお選びください。(MA)

	回答数	構成比
子どもの遊びや体験の機会の確保	495	42.7%
子どもが大人になる力をつけるための訓練や教育	711	61.4%
専門的な相談機関の継続的な利用	444	38.3%
親が働くことへのサポートの仕組み	195	16.8%
支援を必要としている子どもへのサポートの仕組み	473	40.8%
必要な情報を確実に受け取れる仕組み	300	25.9%
子どもの意見や考えを聞いてくれる環境	265	22.9%
安全で安心な暮らしの実現	249	21.5%
同じ悩みを持つ親子との交流	195	16.8%
友だちや近所の人との理解や協力	277	23.9%
その他	16	1.4%
不明・未記入	14	1.2%
(回答者数)計	1,158	

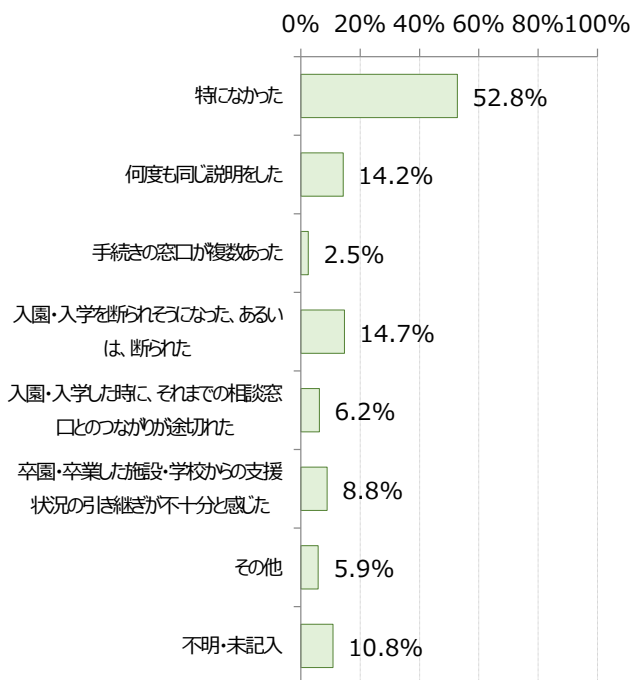


※4つ以上選択した回答者あり

工) お子さまの通園・通学について

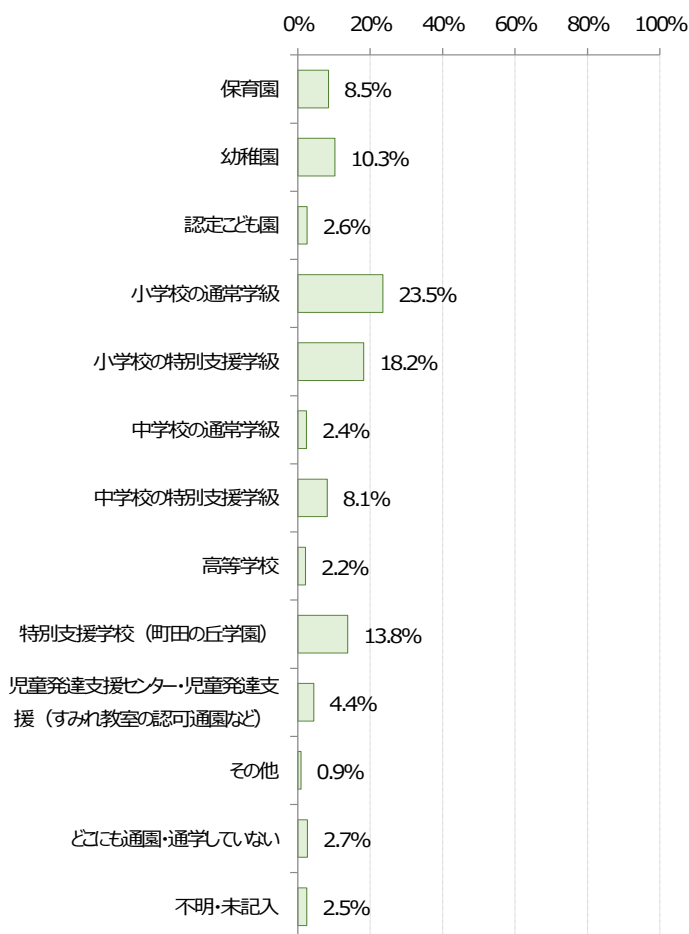
問12 入園・入学の時に困ったことがありましたら、あてはまるものすべてをお選びください。(MA)

	回答数	構成比
特になかった	611	52.8%
何度も同じ説明をした	165	14.2%
手続きの窓口が複数あった	29	2.5%
入園・入学を断られそうになった、あるいは、断られた	170	14.7%
入園・入学した時に、それまでの相談窓口とのつながりが途切れた	72	6.2%
卒園・卒業した施設・学校からの支援状況の引き継ぎが不十分と感じた	102	8.8%
その他	68	5.9%
不明・未記入	125	10.8%
(回答者数)計	1,158	



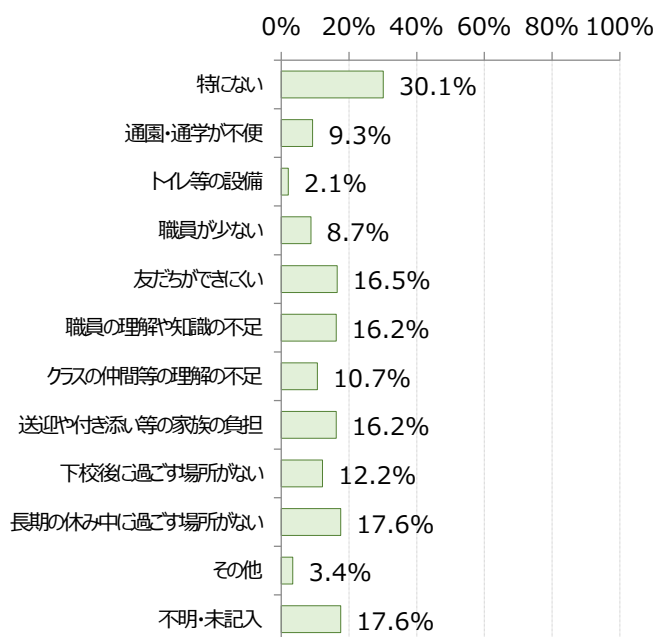
問13 お子さまが現在、通園・通学(主な在籍・所属として)しているところはどこですか。(SA)

	回答数	構成比
保育園	98	8.5%
幼稚園	119	10.3%
認定こども園	30	2.6%
小学校の通常学級	272	23.5%
小学校の特別支援学級	211	18.2%
中学校の通常学級	28	2.4%
中学校の特別支援学級	94	8.1%
高等学校	25	2.2%
特別支援学校(町田の丘学園)	160	13.8%
児童発達支援センター・児童発達支援(すみれ教室の認可通園など)	51	4.4%
その他	10	0.9%
どこにも通園・通学していない	31	2.7%
不明・未記入	29	2.5%
計	1,158	100.0%



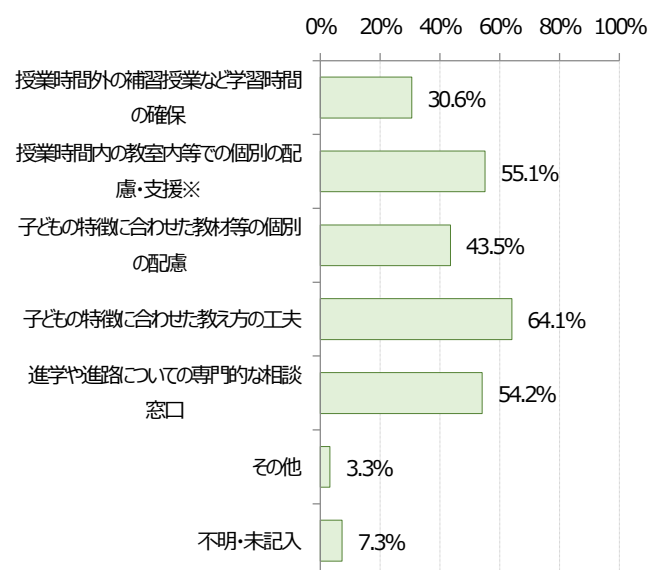
問14 保育園・幼稚園等や学校での生活で困っていることがありましたら、あてはまるものすべてをお選びください。(MA)

	回答数	構成比
特にない	331	30.1%
通園・通学が不便	102	9.3%
トイレ等の設備	23	2.1%
職員が少ない	96	8.7%
友だちができてにくい	181	16.5%
職員の理解や知識の不足	178	16.2%
クラスの仲間等の理解の不足	117	10.7%
送迎や付き添い等の家族の負担	178	16.2%
下校後に過ごす場所がない	134	12.2%
長期の休み中に過ごす場所がない	193	17.6%
その他	37	3.4%
不明・未記入	193	17.6%
(回答者数)計	1,098	



問15 お子さまが学校に通っている方のみお答えください。お子さまの教育に、どのような支援が必要だと思いますか。(MA)

	回答数	構成比
授業時間外の補習授業など学習時間の確保	242	30.6%
授業時間内の教室内等での個別の配慮・支援※	435	55.1%
子どもの特徴に合わせた教材等の個別の配慮	344	43.5%
子どもの特徴に合わせた教え方の工夫	506	64.1%
進学や進路についての専門的な相談窓口	428	54.2%
その他	26	3.3%
不明・未記入	58	7.3%
(回答者数)計	790	

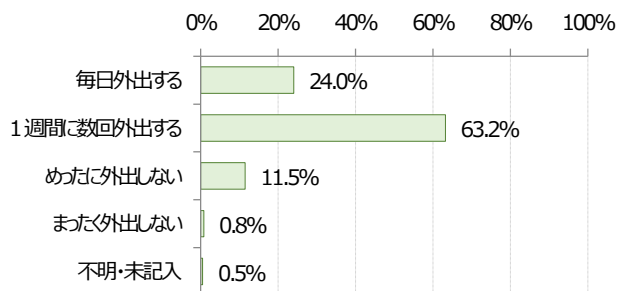


※座席位置の配慮、コミュニケーションの配慮、習熟度別学習における配慮など

オ) お子さまの外出や社会参加について

問16 お子さまは、通学・通園以外に、1週間にどの程度外出しますか。(SA)

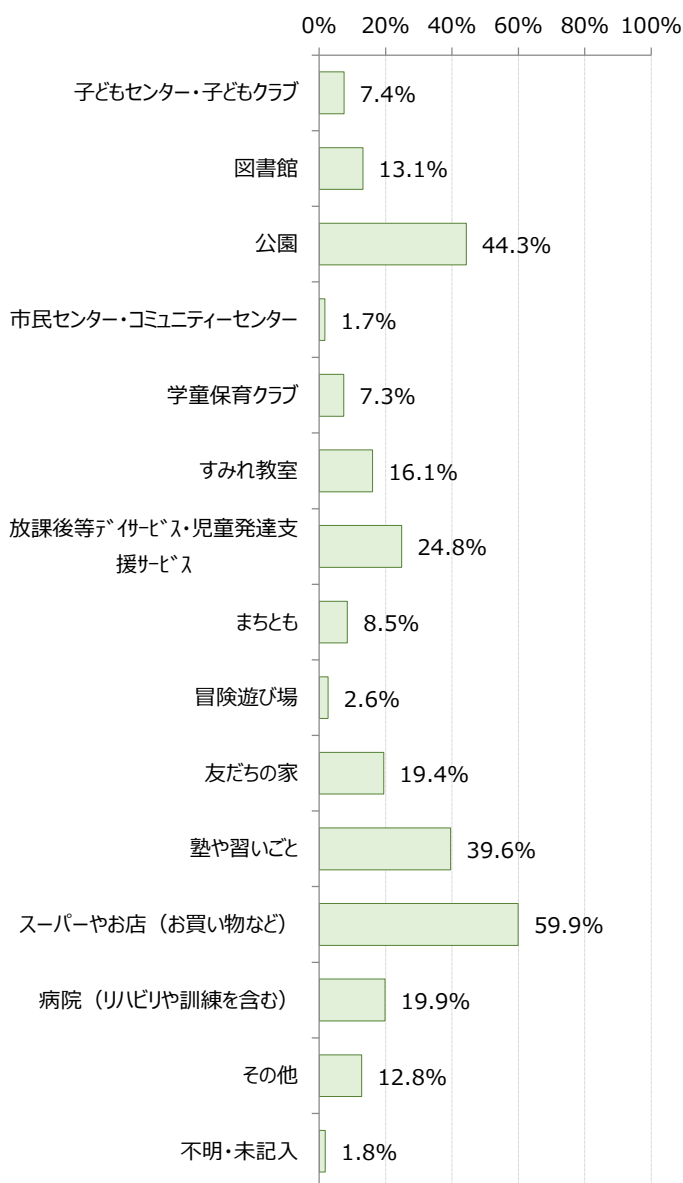
	回答数	構成比
毎日外出する	278	24.0%
1週間に数回外出する	732	63.2%
めったに外出しない	133	11.5%
まったく外出しない	9	0.8%
不明・未記入	6	0.5%
計	1,158	100.0%



問17 問16で「1.」～「3.」に回答した方に伺います。主な行き先はどこですか。

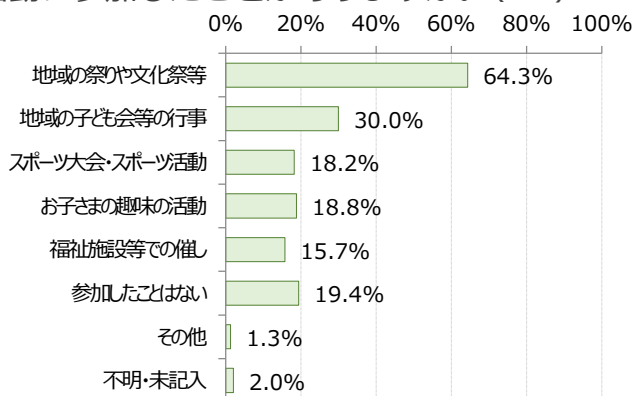
(MA)

	回答数	構成比
子どもセンター・子どもクラブ	85	7.4%
図書館	150	13.1%
公園	506	44.3%
市民センター・コミュニティーセンター	19	1.7%
学童保育クラブ	84	7.3%
すみれ教室	184	16.1%
放課後等デイサービス・児童発達支援サービス	284	24.8%
まちとも	97	8.5%
冒険遊び場	30	2.6%
友だちの家	222	19.4%
塾や習いごと	453	39.6%
スーパーやお店(お買い物など)	685	59.9%
病院(リハビリや訓練を含む)	227	19.9%
その他	146	12.8%
不明・未記入	21	1.8%
(回答者数)計	1,143	



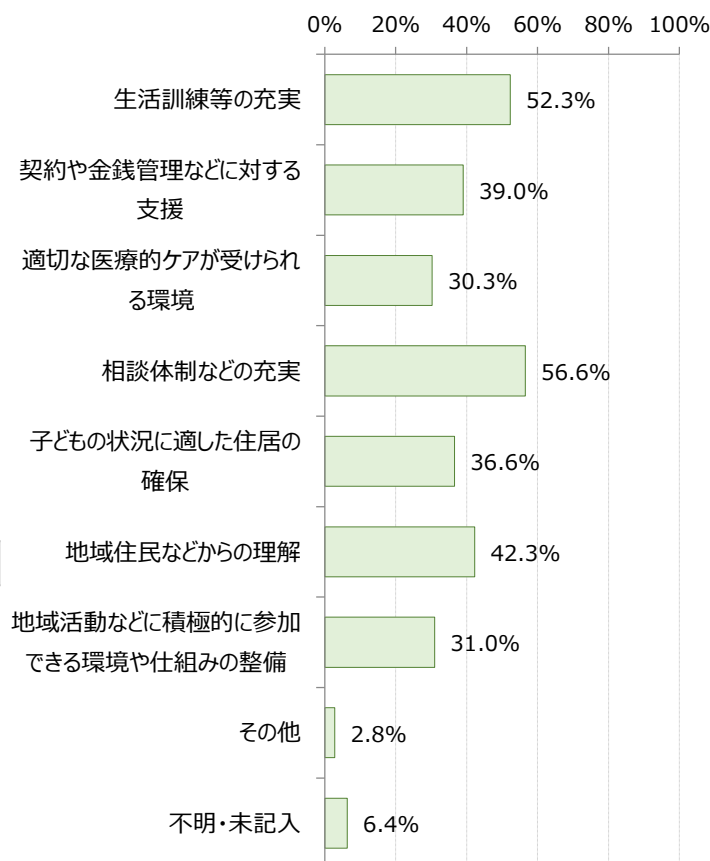
問18 お子さまは、次の地域の行事や活動に参加したことがありますか。(MA)

	回答数	構成比
地域の祭りや文化祭等	745	64.3%
地域の子ども会等の行事	347	30.0%
スポーツ大会・スポーツ活動	211	18.2%
お子さまの趣味の活動	218	18.8%
福祉施設等での催し	182	15.7%
参加したことはない	225	19.4%
その他	15	1.3%
不明・未記入	23	2.0%
(回答者数)計	1,158	



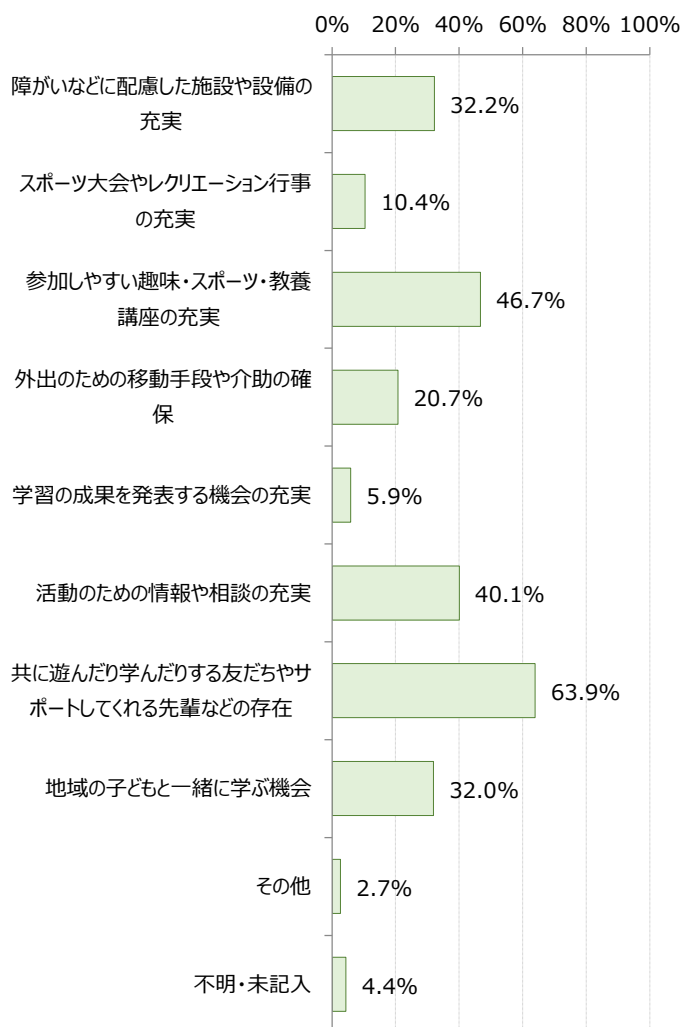
問19 お子さまが、将来、地域社会の一員として生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。あてはまるものすべてをお選びください。(MA)

	回答数	構成比
生活訓練等の充実	606	52.3%
契約や金銭管理などに対する支援	452	39.0%
適切な医療的ケアが受けられる環境	351	30.3%
相談体制などの充実	655	56.6%
子どもの状況に適した住居の確保	424	36.6%
地域住民などからの理解	490	42.3%
地域活動などに積極的に参加できる環境や仕組みの整備	359	31.0%
その他	33	2.8%
不明・未記入	74	6.4%
(回答者数)計	1,158	



問20 お子さまが、地域や社会に積極的に参加できるようにするために、大切なことは何だと思えますか。(MA)

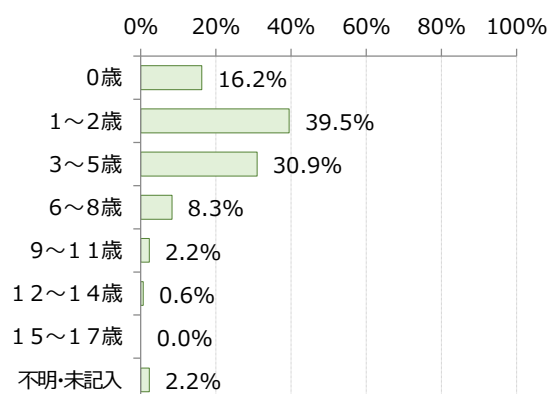
	回答数	構成比
障がいなどに配慮した施設や設備の充実	373	32.2%
スポーツ大会やレクリエーション行事の充実	121	10.4%
参加しやすい趣味・スポーツ・教養講座の充実	541	46.7%
外出のための移動手段や介助の確保	240	20.7%
学習の成果を発表する機会の充実	68	5.9%
活動のための情報や相談の充実	464	40.1%
共に遊んだり学んだりする友だちやサポートしてくれる先輩などの存在	740	63.9%
地域の子どもと一緒に学ぶ機会	370	32.0%
その他	31	2.7%
不明・未記入	51	4.4%
(回答者数)計	1,158	



カ) お子さまの発達特性に気付いた時期の状況について

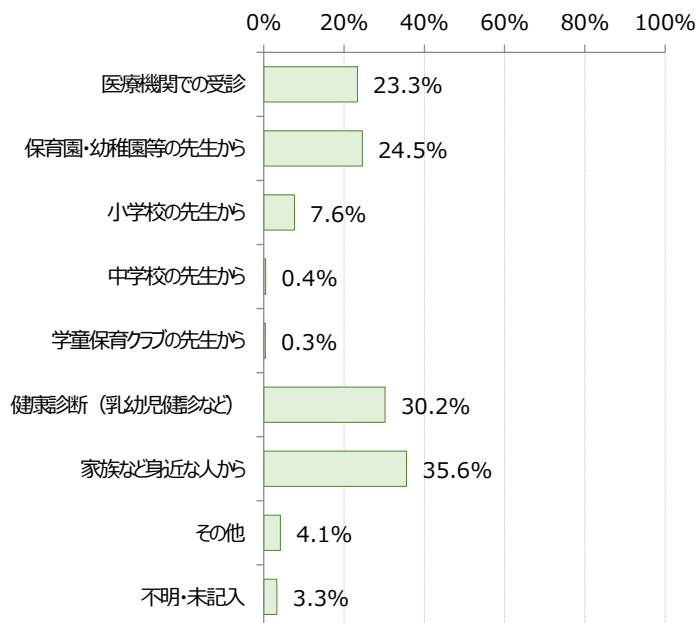
問21 問4で答えた下表のような特徴に気付いたのは、いつ頃ですか。(SA)

	回答数	構成比
0歳	188	16.2%
1～2歳	457	39.5%
3～5歳	358	30.9%
6～8歳	96	8.3%
9～11歳	26	2.2%
12～14歳	7	0.6%
15～17歳	0	0.0%
不明・未記入	26	2.2%
計	1,158	100.0%



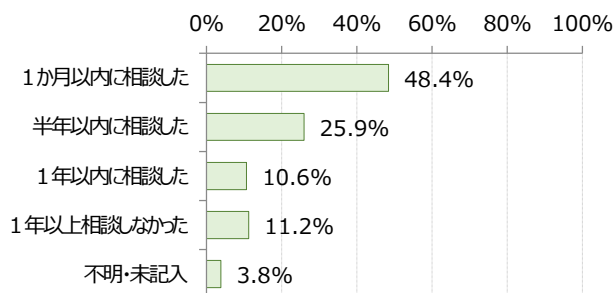
問22 問4で答えた下表のような特徴に気付いたきっかけは何ですか。(MA)

	回答数	構成比
医療機関での受診	270	23.3%
保育園・幼稚園等の先生から	284	24.5%
小学校の先生から	88	7.6%
中学校の先生から	5	0.4%
学童保育クラブの先生から	4	0.3%
健康診断(乳幼児健診など)	350	30.2%
家族など身近な人から	412	35.6%
その他	48	4.1%
不明・未記入	38	3.3%
(回答者数)計	1,158	



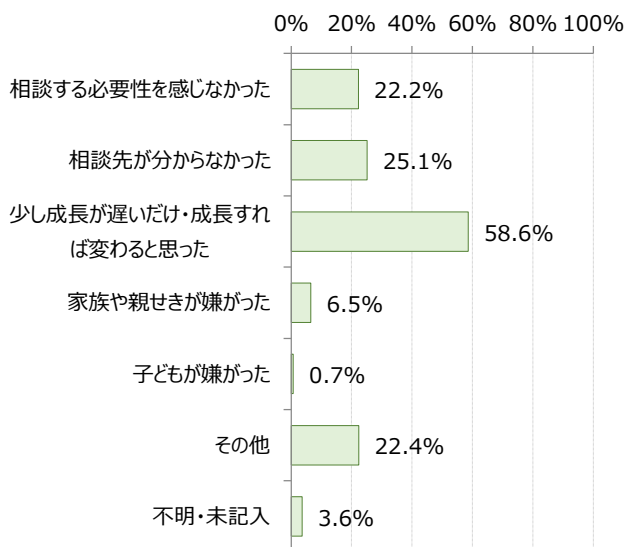
問23 問4で答えた下表のような特徴に気付いてから、すぐに専門機関等へ相談しましたか。(SA)

	回答数	構成比
1か月以内に相談した	561	48.4%
半年以内に相談した	300	25.9%
1年以内に相談した	123	10.6%
1年以上相談しなかった	130	11.2%
不明・未記入	44	3.8%
計	1,158	100.0%



問23-1 問23で「2.」～「4.」に回答した方へ伺います。すぐ相談しなかった理由について、あてはまるものすべてをお選びください。(MA)

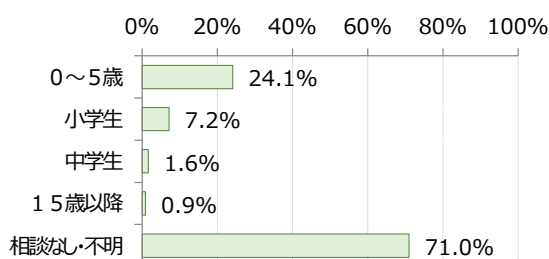
	回答数	構成比
相談する必要性を感じなかった	123	22.2%
相談先が分からなかった	139	25.1%
少し成長が遅いだけ・成長すれば変わると思った	324	58.6%
家族や親せきが嫌がった	36	6.5%
子どもが嫌がった	4	0.7%
その他	124	22.4%
不明・未記入	20	3.6%
(回答者数)計	553	



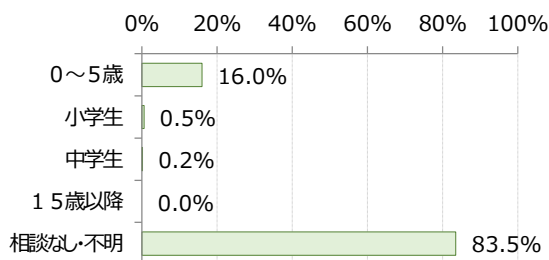
問2 4 問4で答えた下表のような特徴に気が付いた時を含めて、これまで相談したことのある相談先はどこですか。相談したことがある施設等についてお答えください。

①相談した時期について、あてはまるものすべてをお選びください。(MA)

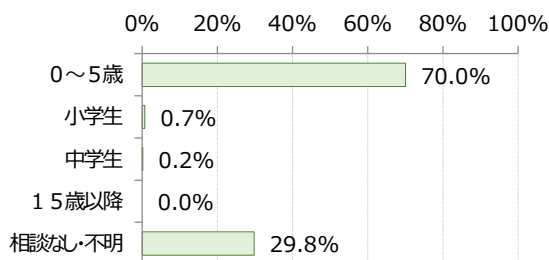
市役所(障がい福祉課)	回答数	構成比
0～5歳	279	24.1%
小学生	83	7.2%
中学生	19	1.6%
15歳以降	10	0.9%
相談なし・不明	822	71.0%
(回答者数)計	1,158	



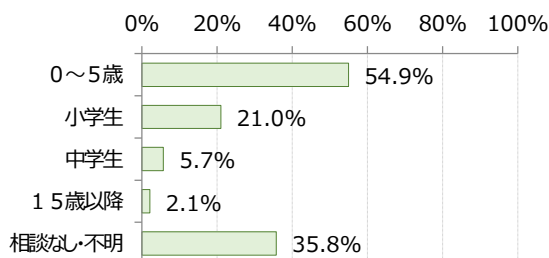
保健所	回答数	構成比
0～5歳	185	16.0%
小学生	6	0.5%
中学生	2	0.2%
15歳以降	0	0.0%
相談なし・不明	967	83.5%
(回答者数)計	1,158	



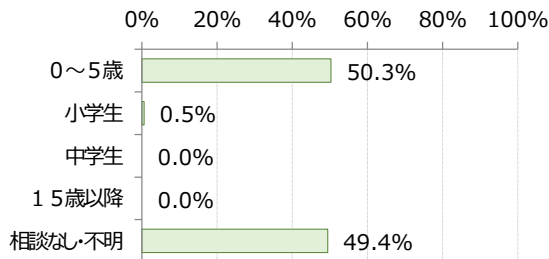
すみれ教室	回答数	構成比
0～5歳	811	70.0%
小学生	8	0.7%
中学生	2	0.2%
15歳以降	0	0.0%
相談なし・不明	345	29.8%
(回答者数)計	1,158	



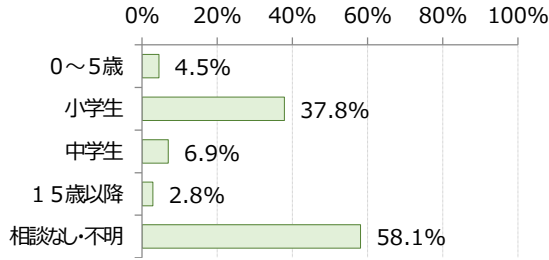
病院・医療機関	回答数	構成比
0～5歳	636	54.9%
小学生	243	21.0%
中学生	66	5.7%
15歳以降	24	2.1%
相談なし・不明	414	35.8%
(回答者数)計	1,158	



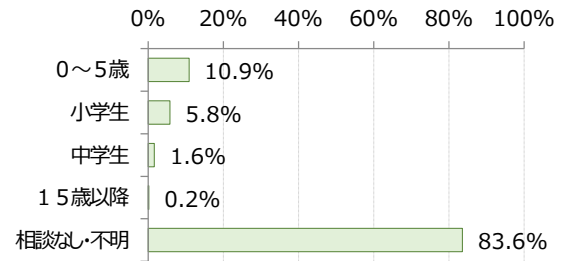
保育園・幼稚園等	回答数	構成比
0～5歳	582	50.3%
小学生	6	0.5%
中学生	0	0.0%
15歳以降	0	0.0%
相談なし・不明	572	49.4%
(回答者数)計	1,158	



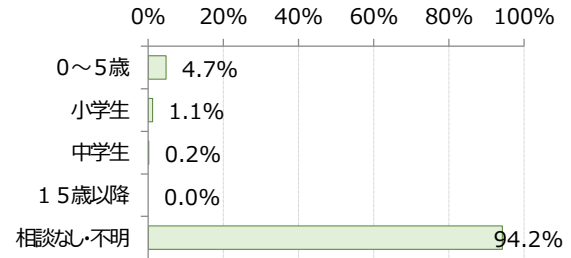
学校	回答数	構成比
0～5歳	52	4.5%
小学生	438	37.8%
中学生	80	6.9%
15歳以降	33	2.8%
相談なし・不明	673	58.1%
(回答者数)計	1,158	



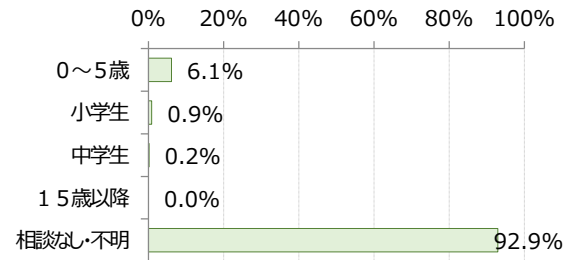
児童相談所	回答数	構成比
0～5歳	126	10.9%
小学生	67	5.8%
中学生	19	1.6%
15歳以降	2	0.2%
相談なし・不明	968	83.6%
(回答者数)計	1,158	



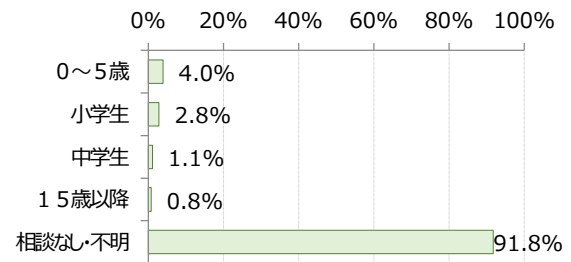
子ども家庭支援センター	回答数	構成比
0～5歳	55	4.7%
小学生	13	1.1%
中学生	2	0.2%
15歳以降	0	0.0%
相談なし・不明	1,091	94.2%
(回答者数)計	1,158	



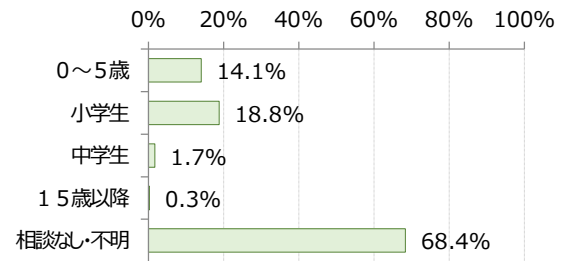
地域子育て相談センター	回答数	構成比
0～5歳	71	6.1%
小学生	10	0.9%
中学生	2	0.2%
15歳以降	0	0.0%
相談なし・不明	1,076	92.9%
(回答者数)計	1,158	



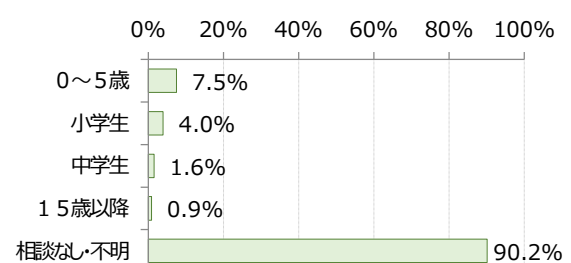
地域障がい者支援センター	回答数	構成比
0～5歳	46	4.0%
小学生	33	2.8%
中学生	13	1.1%
15歳以降	9	0.8%
相談なし・不明	1,063	91.8%
(回答者数)計	1,158	



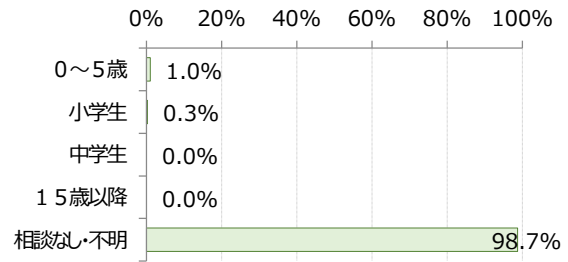
教育センター	回答数	構成比
0～5歳	163	14.1%
小学生	218	18.8%
中学生	20	1.7%
15歳以降	3	0.3%
相談なし・不明	792	68.4%
(回答者数)計	1,158	



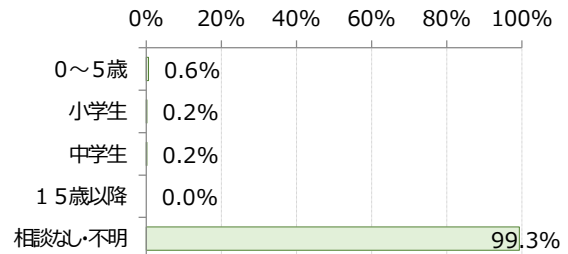
福祉関係の団体・施設	回答数	構成比
0～5歳	87	7.5%
小学生	46	4.0%
中学生	18	1.6%
15歳以降	10	0.9%
相談なし・不明	1,044	90.2%
(回答者数)計	1,158	



民生委員・児童委員	回答数	構成比
0～5歳	12	1.0%
小学生	3	0.3%
中学生	0	0.0%
15歳以降	0	0.0%
相談なし・不明	1,143	98.7%
(回答者数)計	1,158	

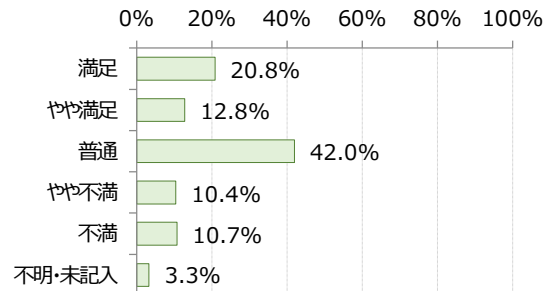


その他	回答数	構成比
0～5歳	7	0.6%
小学生	2	0.2%
中学生	2	0.2%
15歳以降	0	0.0%
相談なし・不明	1,150	99.3%
(回答者数)計	1,158	

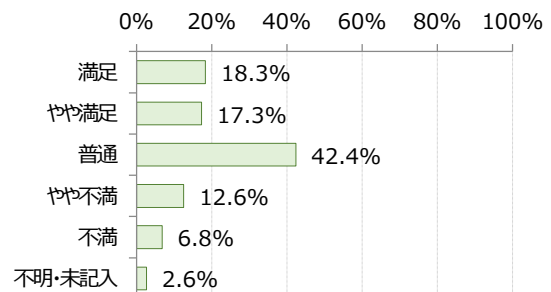


②その相談先の対応の満足度について、あてはまるもの1つをお選びください。(SA)

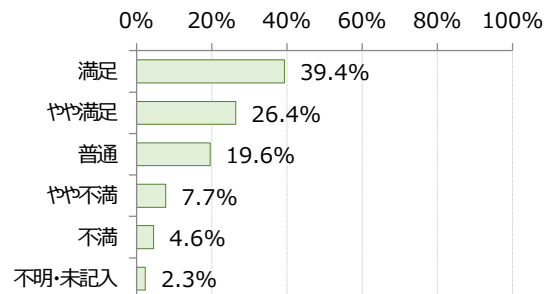
市役所(障がい福祉課)	回答数	構成比
満足	70	20.8%
やや満足	43	12.8%
普通	141	42.0%
やや不満	35	10.4%
不満	36	10.7%
不明・未記入	11	3.3%
計	336	100.0%



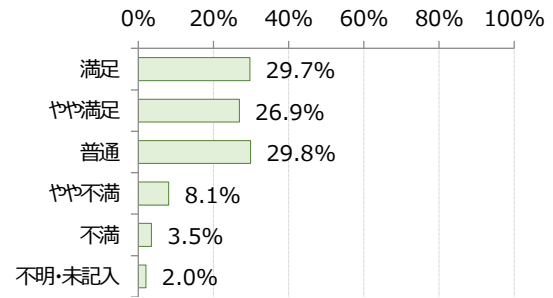
保健所	回答数	構成比
満足	35	18.3%
やや満足	33	17.3%
普通	81	42.4%
やや不満	24	12.6%
不満	13	6.8%
不明・未記入	5	2.6%
計	191	100.0%



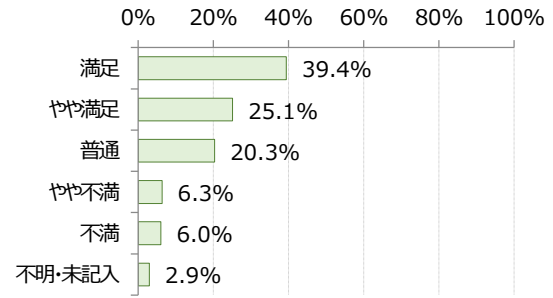
すみれ教室	回答数	構成比
満足	320	39.4%
やや満足	215	26.4%
普通	159	19.6%
やや不満	63	7.7%
不満	37	4.6%
不明・未記入	19	2.3%
計	813	100.0%



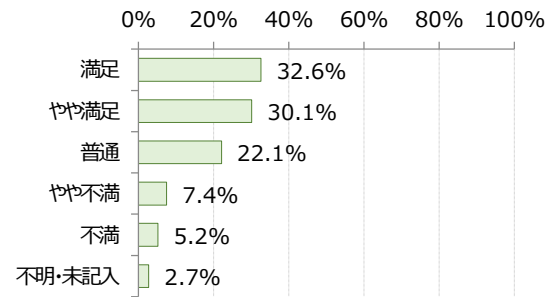
病院・医療機関	回答数	構成比
満足	221	29.7%
やや満足	200	26.9%
普通	222	29.8%
やや不満	60	8.1%
不満	26	3.5%
不明・未記入	15	2.0%
計	744	100.0%



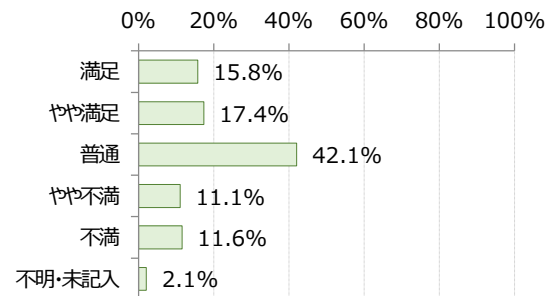
保育園・幼稚園等	回答数	構成比
満足	231	39.4%
やや満足	147	25.1%
普通	119	20.3%
やや不満	37	6.3%
不満	35	6.0%
不明・未記入	17	2.9%
計	586	100.0%



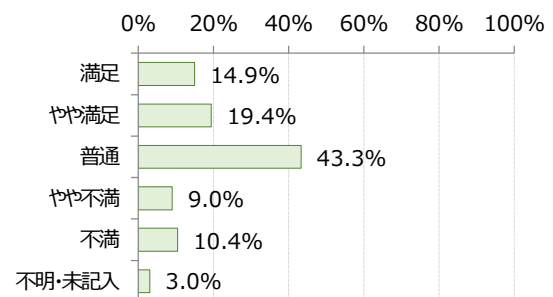
学校	回答数	構成比
満足	158	32.6%
やや満足	146	30.1%
普通	107	22.1%
やや不満	36	7.4%
不満	25	5.2%
不明・未記入	13	2.7%
計	485	100.0%



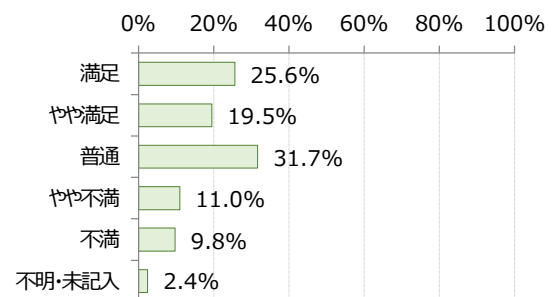
児童相談所	回答数	構成比
満足	30	15.8%
やや満足	33	17.4%
普通	80	42.1%
やや不満	21	11.1%
不満	22	11.6%
不明・未記入	4	2.1%
計	190	100.0%



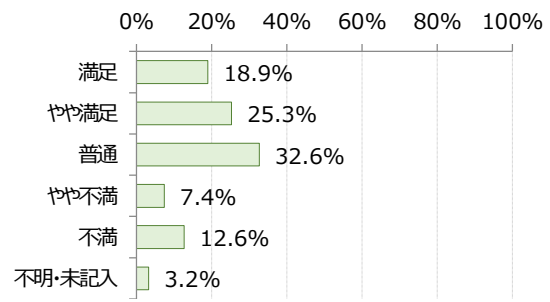
子ども家庭支援センター	回答数	構成比
満足	10	14.9%
やや満足	13	19.4%
普通	29	43.3%
やや不満	6	9.0%
不満	7	10.4%
不明・未記入	2	3.0%
計	67	100.0%



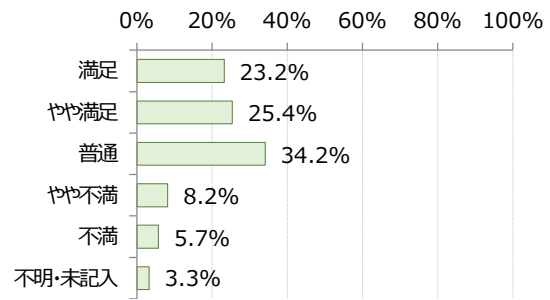
地域子育て相談センター	回答数	構成比
満足	21	25.6%
やや満足	16	19.5%
普通	26	31.7%
やや不満	9	11.0%
不満	8	9.8%
不明・未記入	2	2.4%
計	82	100.0%



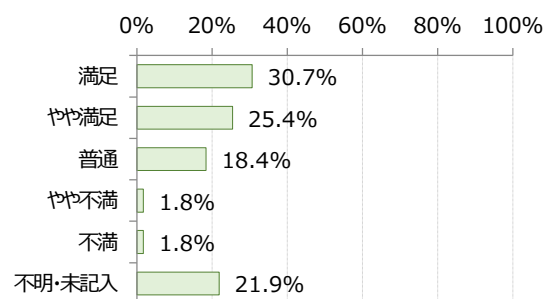
地域障がい者支援センター	回答数	構成比
満足	18	18.9%
やや満足	24	25.3%
普通	31	32.6%
やや不満	7	7.4%
不満	12	12.6%
不明・未記入	3	3.2%
計	95	100.0%



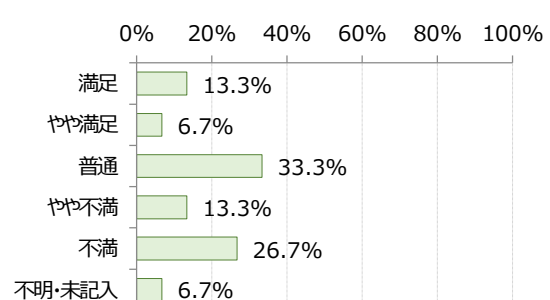
教育センター	回答数	構成比
満足	85	23.2%
やや満足	93	25.4%
普通	125	34.2%
やや不満	30	8.2%
不満	21	5.7%
不明・未記入	12	3.3%
計	366	100.0%



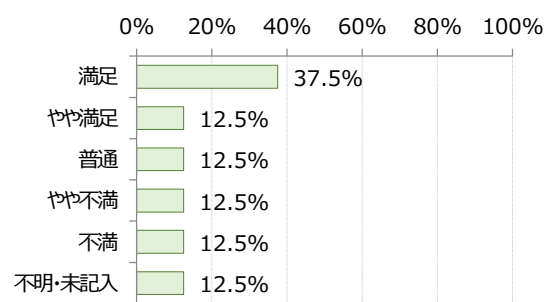
福祉関係の団体・施設	回答数	構成比
満足	35	30.7%
やや満足	29	25.4%
普通	21	18.4%
やや不満	2	1.8%
不満	2	1.8%
不明・未記入	25	21.9%
計	114	100.0%



民生委員・児童委員	回答数	構成比
満足	2	13.3%
やや満足	1	6.7%
普通	5	33.3%
やや不満	2	13.3%
不満	4	26.7%
不明・未記入	1	6.7%
計	15	100.0%



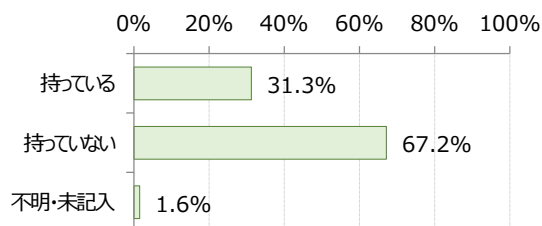
その他	回答数	構成比
満足	3	37.5%
やや満足	1	12.5%
普通	1	12.5%
やや不満	1	12.5%
不満	1	12.5%
不明・未記入	1	12.5%
計	8	100.0%



キ) サービス利用の状況について

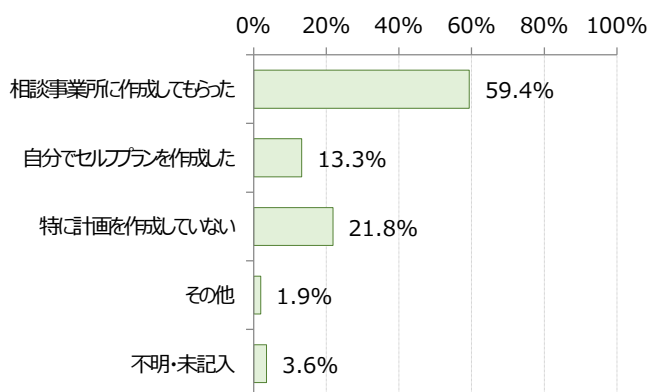
問25 お子さまは、「障害児通所サービス受給者証」をお持ちですか。(SA)

	回答数	構成比
持っている	362	31.3%
持っていない	778	67.2%
不明・未記入	18	1.6%
計	1,158	100.0%



問26 サービス等利用計画（ケアプラン）を作成しましたか。(SA)

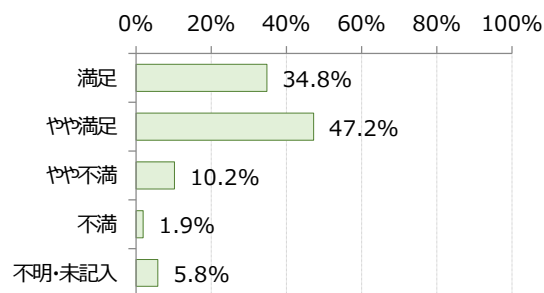
	回答数	構成比
相談事業所に作成してもらった	215	59.4%
自分でセルフプランを作成した	48	13.3%
特に計画を作成していない	79	21.8%
その他	7	1.9%
不明・未記入	13	3.6%
計	362	100.0%



問27 現在、利用しているサービスやサービスの利用計画の全般的な満足度について、お答えください。(SA)

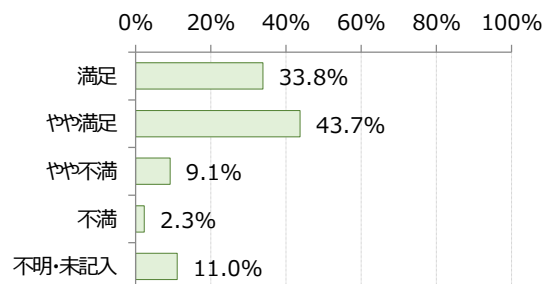
① サービスの全般的な満足度

	回答数	構成比
満足	126	34.8%
やや満足	171	47.2%
やや不満	37	10.2%
不満	7	1.9%
不明・未記入	21	5.8%
計	362	100.0%



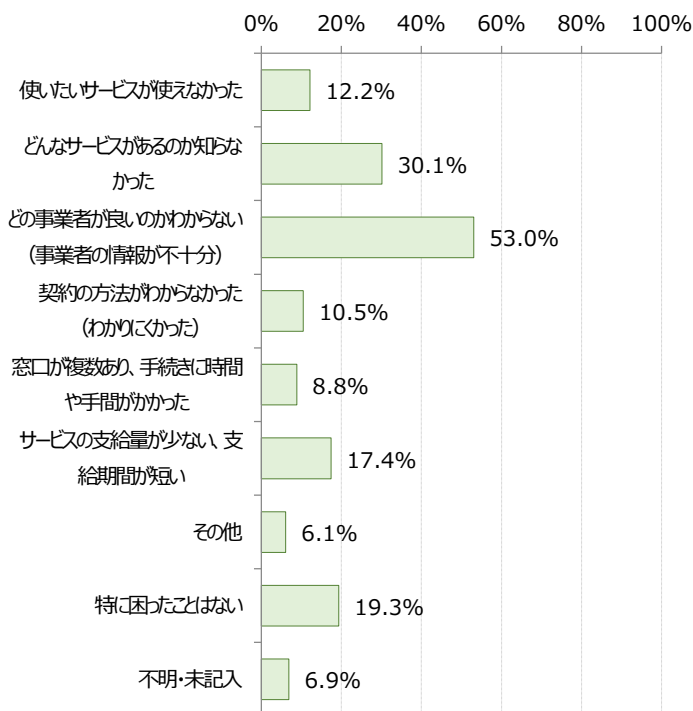
② 現在のサービス等利用計画の全般的な満足度

	回答数	構成比
満足	89	33.8%
やや満足	115	43.7%
やや不満	24	9.1%
不満	6	2.3%
不明・未記入	29	11.0%
計	263	100.0%



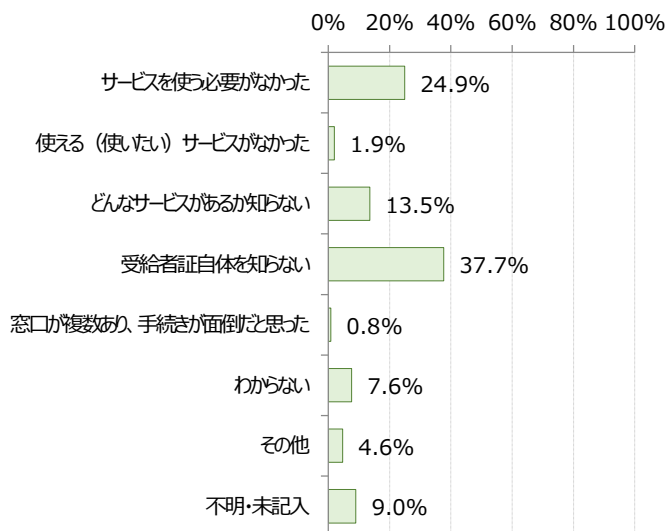
問28 サービスを利用するときに、困ったことはありませんか。(MA)

	回答数	構成比
使いたいサービスが使えなかった	44	12.2%
どんなサービスがあるのか知らなかった	109	30.1%
どの事業者が良いのかわからない(事業者の情報不十分)	192	53.0%
契約の方法がわからなかった(わかりにくかった)	38	10.5%
窓口が複数あり、手続きに時間や手間がかかった	32	8.8%
サービスの支給量が少ない、支給期間が短い	63	17.4%
その他	22	6.1%
特に困ったことはない	70	19.3%
不明・未記入	25	6.9%
(回答者数)計	362	



問29 受給者証をお持ちでない方のみお答えください。受給者証をお持ちでない理由について、あてはまるもの1つをお選びください。(SA)

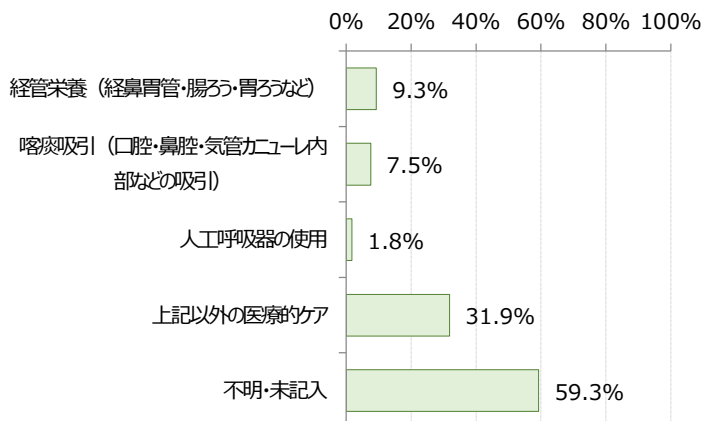
	回答数	構成比
サービスを使う必要がなかった	194	24.9%
使える(使いたい)サービスがなかった	15	1.9%
どんなサービスがあるか知らない	105	13.5%
受給者証自体を知らない	293	37.7%
窓口が複数あり、手続きが面倒だと思った	6	0.8%
わからない	59	7.6%
その他	36	4.6%
不明・未記入	70	9.0%
計	778	100.0%



ク) 医療的ケアが必要なお子さまについて

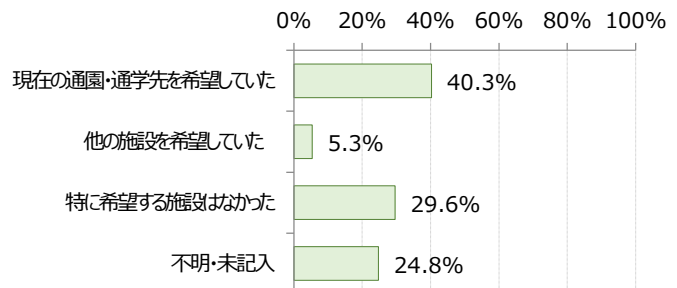
問30 現在、お子さまが受けている医療的ケアは、次のうち何ですか。(MA)

	回答数	構成比
経管栄養(経鼻胃管・腸ろう・胃ろうなど)	21	9.3%
喀痰吸引(口腔・鼻腔・気管カニューレ内部などの吸引)	17	7.5%
人工呼吸器の使用	4	1.8%
上記以外の医療的ケア	72	31.9%
不明・未記入	134	59.3%
(回答者数)計	226	



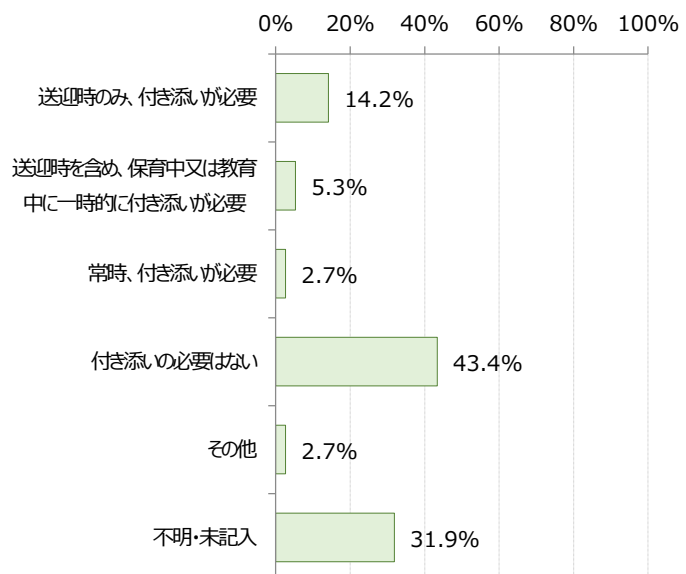
問31 現在の通園・通学先の他に、希望していた施設はありましたか。(SA)

	回答数	構成比
現在の通園・通学先を希望していた	91	40.3%
他の施設を希望していた	12	5.3%
特に希望する施設はなかった	67	29.6%
不明・未記入	56	24.8%
計	226	100.0%



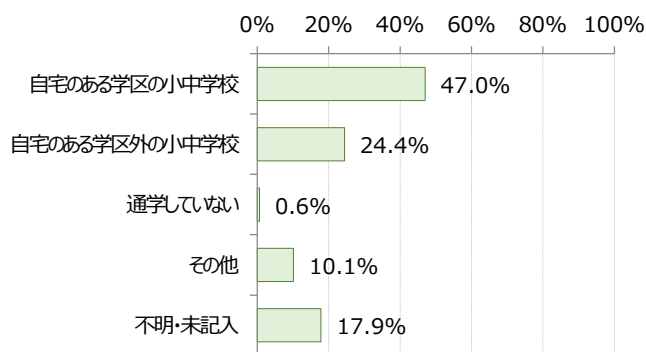
問32 通園・通学されている方に伺います。現在の通園・通学先では、医療的ケアを行うなどのために保護者の付き添いは必要ですか。(SA)

	回答数	構成比
送迎時のみ、付き添いが必要	32	14.2%
送迎時を含め、保育中又は教育中に一時的に付き添いが必要	12	5.3%
常時、付き添いが必要	6	2.7%
付き添いの必要はない	98	43.4%
その他	6	2.7%
不明・未記入	72	31.9%
計	226	100.0%



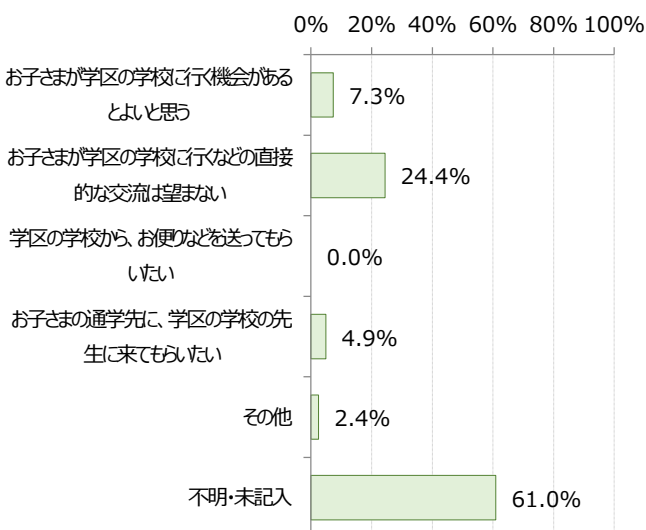
問33 お子さまが小学生以上の方に伺います。お子さまの通学先はどこですか。(SA)

	回答数	構成比
自宅のある学区の小中学校	79	47.0%
自宅のある学区外の小中学校	41	24.4%
通学していない	1	0.6%
その他	17	10.1%
不明・未記入	30	17.9%
計	168	100.0%



問34 自宅のある学区の小中学校以外に通学されている方に伺います。お子さまの、学区の学校との交流について、あてはまるもの1つをお選びください。(SA)

	回答数	構成比
お子さまが学区の学校に行く機会があるとよいと思う	3	7.3%
お子さまが学区の学校に行くなどの直接的な交流は望まない	10	24.4%
学区の学校から、お便りなどを送ってほしい	0	0.0%
お子さまの通学先に、学区の学校の先生に来てほしい	2	4.9%
その他	1	2.4%
不明・未記入	25	61.0%
計	41	100.0%



(2)関係機関向け調査

1) 調査項目

	分野	
(1)	基本事項	問1～3
(2)	気になる子の受入れや支援の状況、今後必要な支援について	問4～10
(3)	障がい児の受入れ体制や実態、支援の状況気づきの状況について	問11～14
(4)	気になる子や障がい児への対応（連携、指導計画）について	問15～17

2) 集計結果

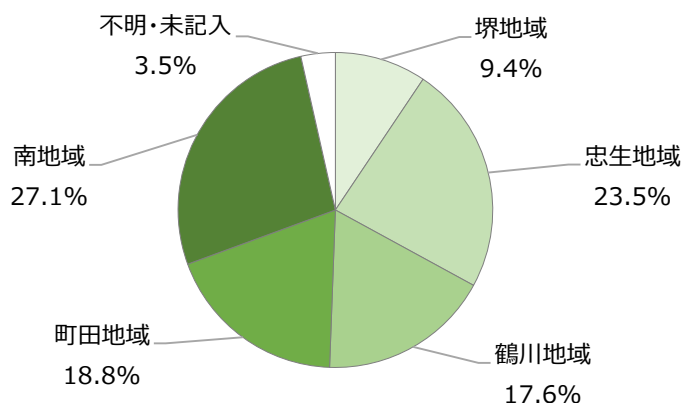
ア) 基本的な施設の事項について

【保育園・幼稚園等】

問1 貴施設の状況について、番号等○をして、記述欄にご記入ください。

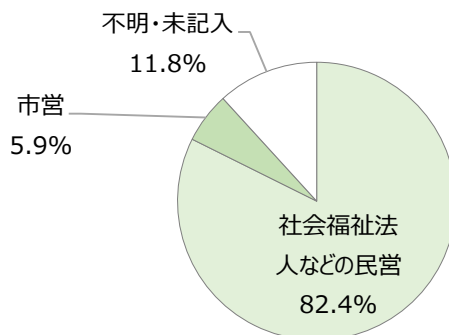
① 郵便番号 (FA)

	回答数	構成比
堺地域	8	9.4%
忠生地域	20	23.5%
鶴川地域	15	17.6%
町田地域	16	18.8%
南地域	23	27.1%
不明・未記入	3	3.5%
計	85	100.0%



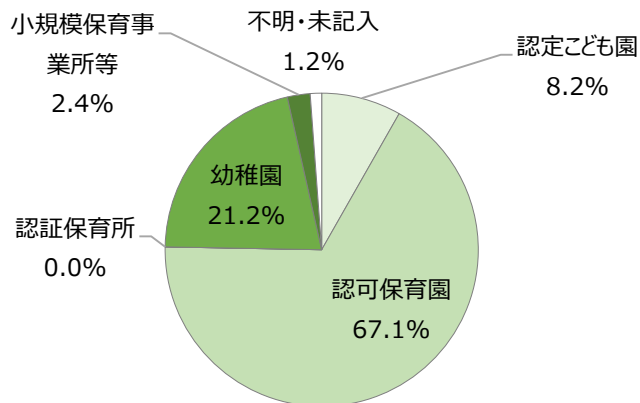
② 経営主体 (SA)

	回答数	構成比
社会福祉法人などの民営	70	82.4%
市営	5	5.9%
不明・未記入	10	11.8%
計	85	100.0%



③ 施設の種類 (SA)

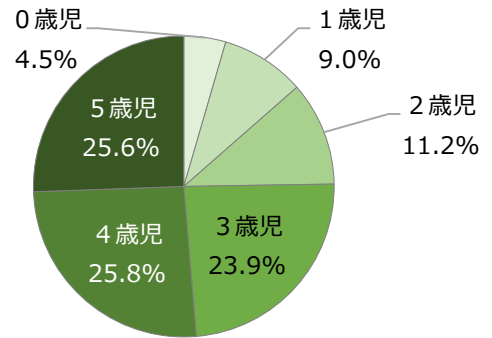
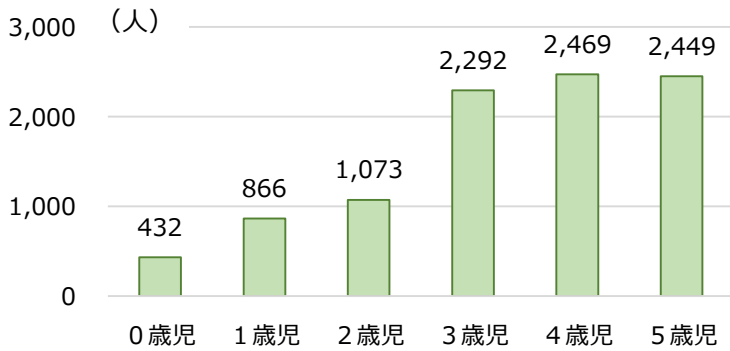
	回答数	構成比
認定こども園	7	8.2%
認可保育園	57	67.1%
認証保育所	0	0.0%
幼稚園	18	21.2%
小規模保育事業所等	2	2.4%
不明・未記入	1	1.2%
計	85	100.0%



④年齢別在籍児童生徒数 (FA)

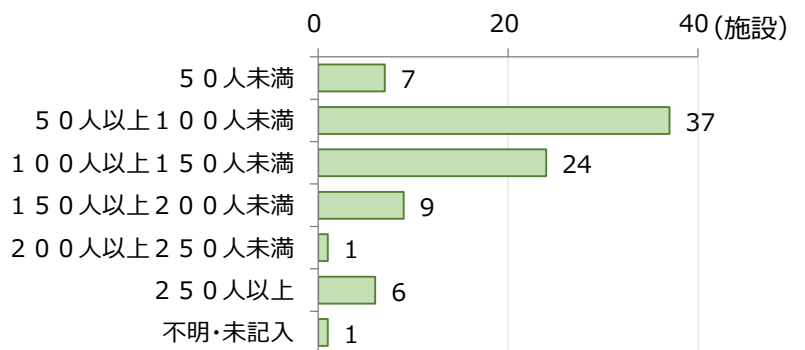
〈児童生徒数合計〉

	回答数	構成比
0歳児	432	4.5%
1歳児	866	9.0%
2歳児	1,073	11.2%
3歳児	2,292	23.9%
4歳児	2,469	25.8%
5歳児	2,449	25.6%
計	9,581	100.0%



〈児童生徒数別施設数〉

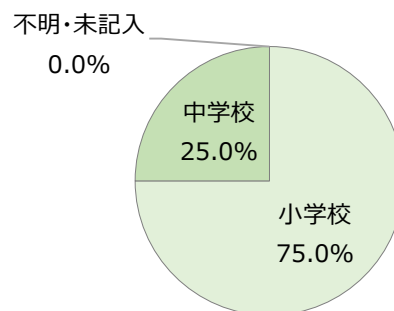
全学年	回答数	構成比
50人未満	7	8.2%
50人以上100人未満	37	43.5%
100人以上150人未満	24	28.2%
150人以上200人未満	9	10.6%
200人以上250人未満	1	1.2%
250人以上	6	7.1%
不明・未記入	1	1.2%
計	85	100.0%



【小・中学校】

問2 貴施設の種類について、1つだけ○で囲ってください。(SA)

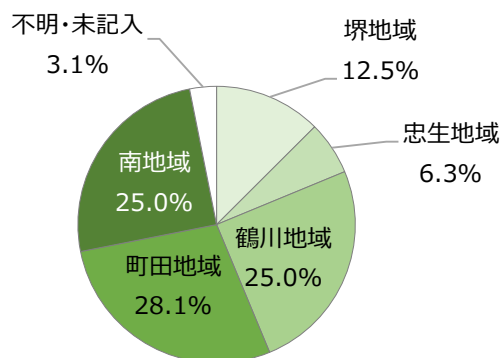
	回答数	構成比
小学校	24	75.0%
中学校	8	25.0%
不明・未記入	0	0.0%
計	32	100.0%



問3 貴施設の状況について、番号等○をして、記述欄にご記入ください。

①郵便番号(FA)

	回答数	構成比
堺地域	4	12.5%
忠生地域	2	6.3%
鶴川地域	8	25.0%
町田地域	9	28.1%
南地域	8	25.0%
不明・未記入	1	3.1%
計	32	100.0%



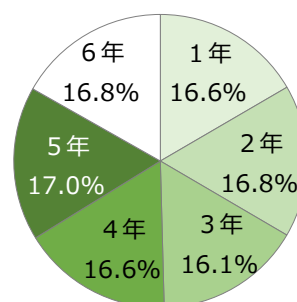
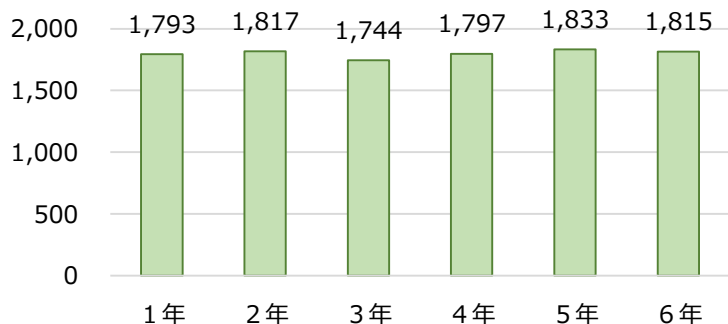
②各学年の在籍児童生徒数(FA)

小学生

〈児童生徒数合計〉

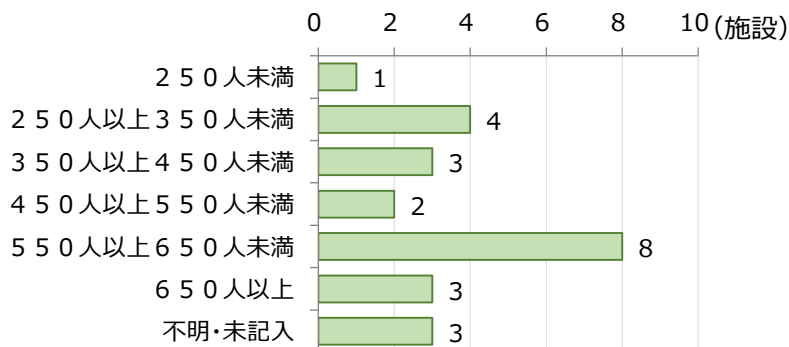
	回答数	構成比
1年	1,793	16.6%
2年	1,817	16.8%
3年	1,744	16.1%
4年	1,797	16.6%
5年	1,833	17.0%
6年	1,815	16.8%
計	10,799	100.0%

(人)



〈 児童生徒数別施設数〉

全学年	回答数	構成比
250人未満	1	4.2%
250人以上350人未満	4	16.7%
350人以上450人未満	3	12.5%
450人以上550人未満	2	8.3%
550人以上650人未満	8	33.3%
650人以上	3	12.5%
不明・未記入	3	12.5%
計	24	100.0%

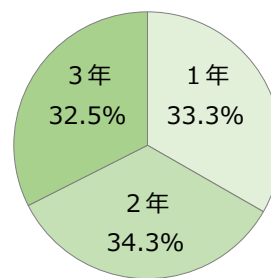
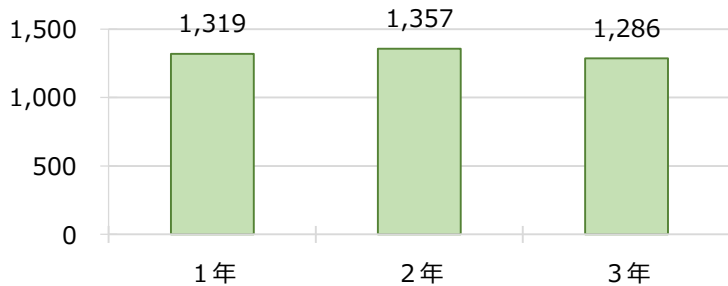


中学校

〈 児童生徒数合計〉

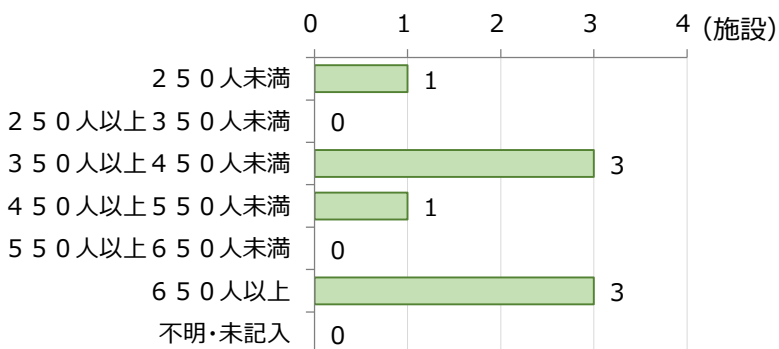
	回答数	構成比
1年	1,319	33.3%
2年	1,357	34.3%
3年	1,286	32.5%
計	3,962	100.0%

(人)



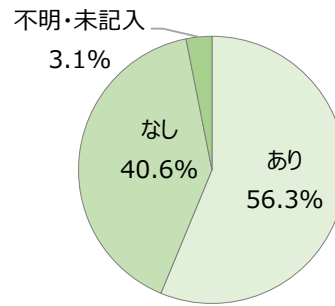
〈 児童生徒数別施設数〉

全学年	回答数	構成比
250人未満	1	12.5%
250人以上350人未満	0	0.0%
350人以上450人未満	3	37.5%
450人以上550人未満	1	12.5%
550人以上650人未満	0	0.0%
650人以上	3	37.5%
不明・未記入	0	0.0%
計	8	100.0%



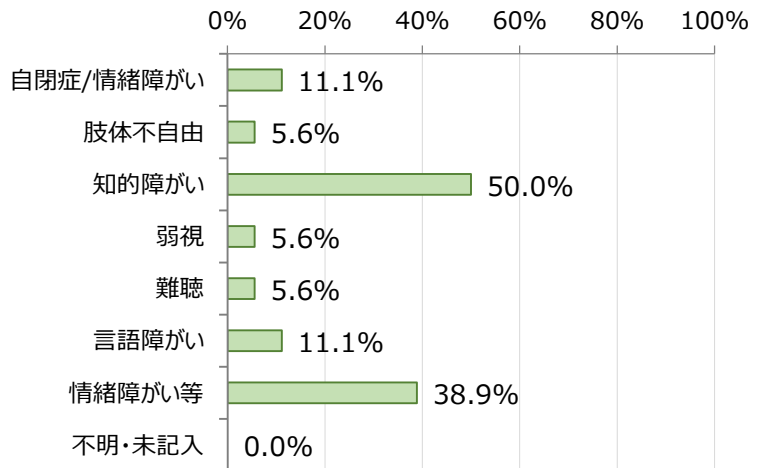
③特別支援学級(SA)

	回答数	構成比
あり	18	56.3%
なし	13	40.6%
不明・未記入	1	3.1%
計	32	100.0%



あり内訳(MA)

	回答数	構成比
自閉症/情緒障がい	2	11.1%
肢体不自由	1	5.6%
知的障がい	9	50.0%
弱視	1	5.6%
難聴	1	5.6%
言語障がい	2	11.1%
情緒障がい等	7	38.9%
不明・未記入	0	0.0%
(回答者数)計	18	

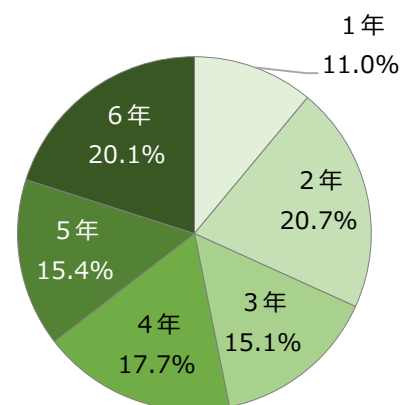
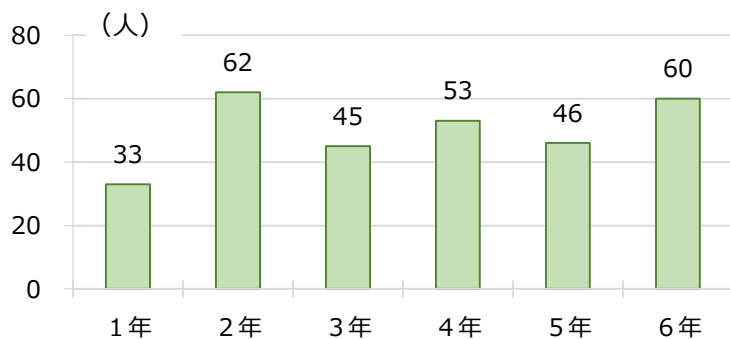


④各学年の特別支援学級(固定級)の在籍児童・生徒数(FA)

小学生

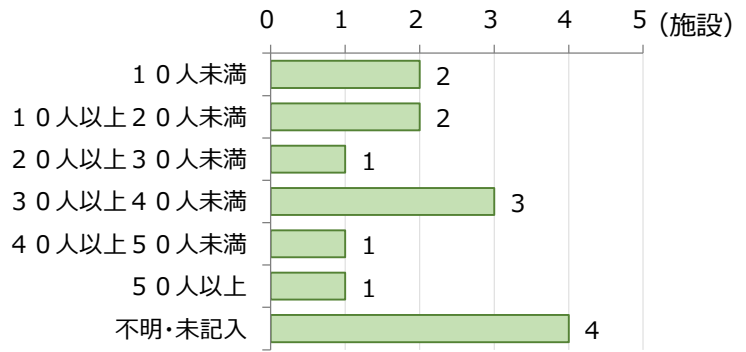
〈児童生徒数合計〉

	回答数	構成比
1年	33	11.0%
2年	62	20.7%
3年	45	15.1%
4年	53	17.7%
5年	46	15.4%
6年	60	20.1%
計	299	100.0%



〈 児童生徒数別施設数〉

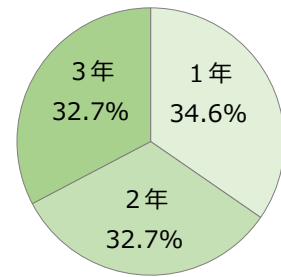
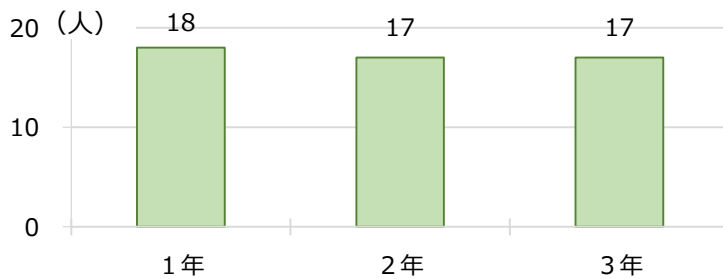
全学年	回答数	構成比
10人未満	2	14.3%
10人以上20人未満	2	14.3%
20人以上30人未満	1	7.1%
30人以上40人未満	3	21.4%
40人以上50人未満	1	7.1%
50人以上	1	7.1%
不明・未記入	4	28.6%
計	14	100.0%



中学校

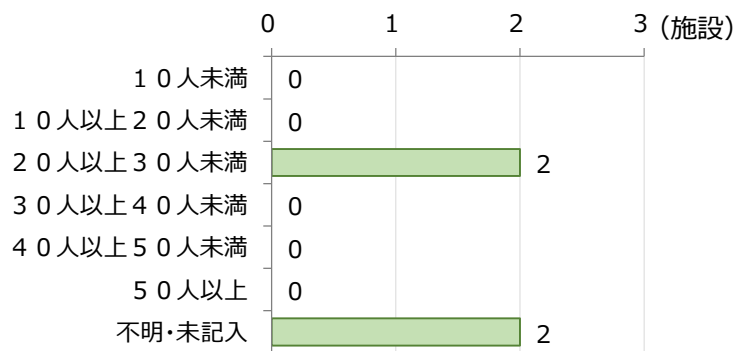
〈 児童生徒数合計〉

	回答数	構成比
1年	18	34.6%
2年	17	32.7%
3年	17	32.7%
計	52	100.0%



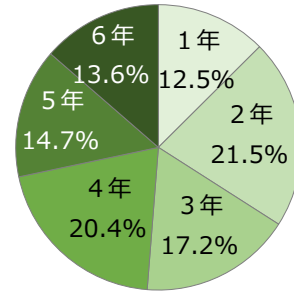
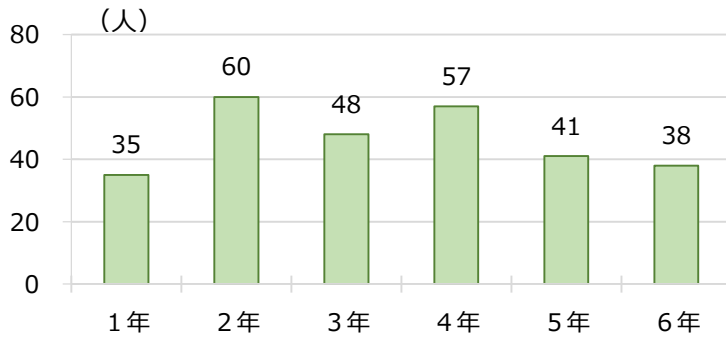
〈 児童生徒数別施設数〉

全学年	回答数	構成比
10人未満	0	0.0%
10人以上20人未満	0	0.0%
20人以上30人未満	2	50.0%
30人以上40人未満	0	0.0%
40人以上50人未満	0	0.0%
50人以上	0	0.0%
不明・未記入	2	50.0%
計	4	100.0%



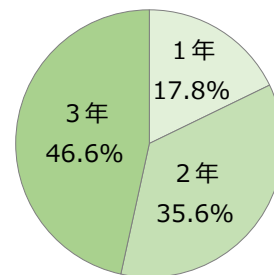
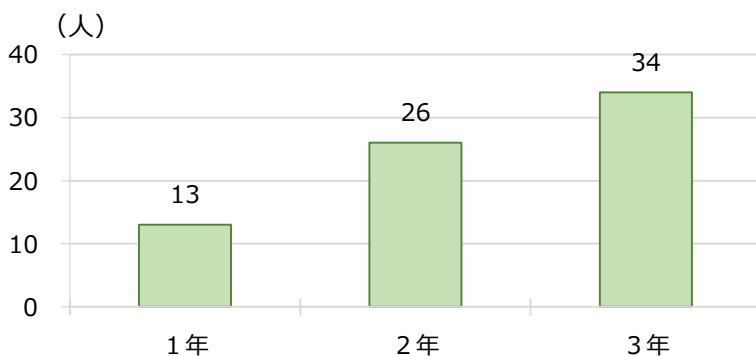
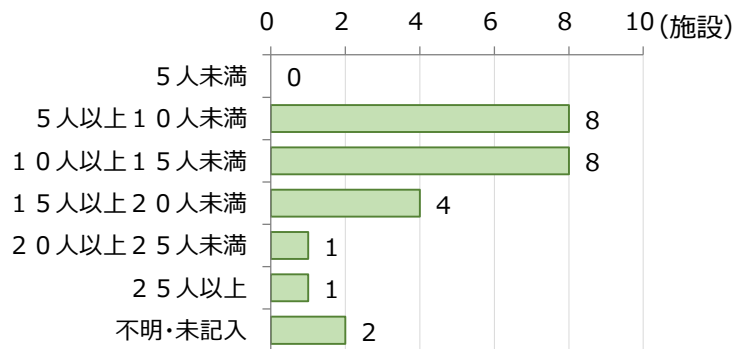
⑤各学年の通級指導学級の利用児童・生徒(FA)
小学校
〈児童生徒数合計〉

	回答数	構成比
1年	35	12.5%
2年	60	21.5%
3年	48	17.2%
4年	57	20.4%
5年	41	14.7%
6年	38	13.6%
計	279	100.0%



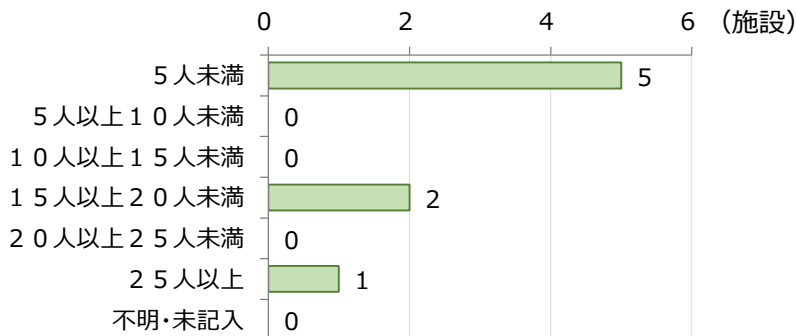
〈児童生徒数別施設数〉
全学年

	回答数	構成比
5人未満	0	0.0%
5人以上10人未満	8	33.3%
10人以上15人未満	8	33.3%
15人以上20人未満	4	16.7%
20人以上25人未満	1	4.2%
25人以上	1	4.2%
不明・未記入	2	8.3%
計	24	100.0%



〈児童生徒数別施設数〉

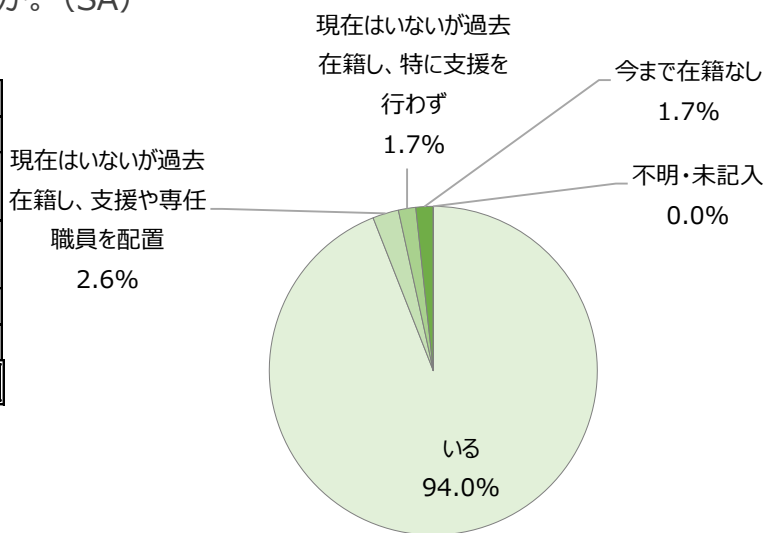
全学年	回答数	構成比
5人未満	5	62.5%
5人以上10人未満	0	0.0%
10人以上15人未満	0	0.0%
15人以上20人未満	2	25.0%
20人以上25人未満	0	0.0%
25人以上	1	12.5%
不明・未記入	0	0.0%
計	8	100.0%



イ) 気になる子の受け入れや支援の状況、今後必要な支援について

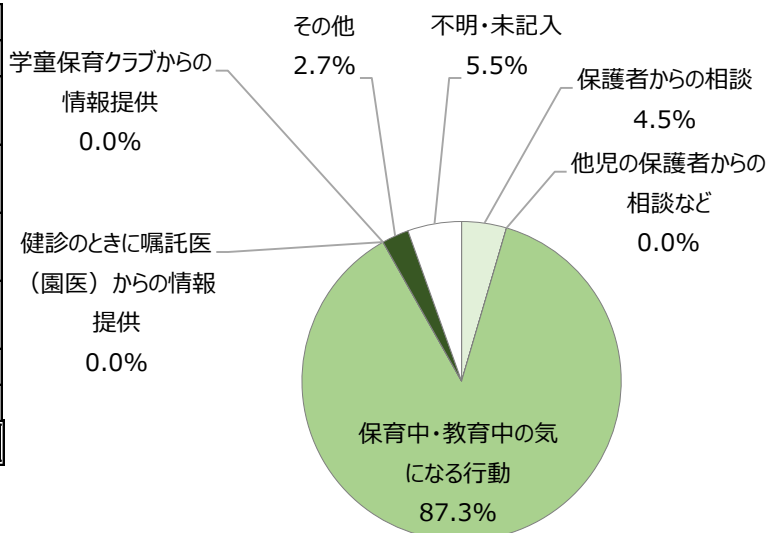
問4 貴施設に、気になる子はいますか。(SA)

	回答数	構成比
いる	110	94.0%
現在はいないが過去在籍し、支援や専任職員を配置	3	2.6%
現在はいないが過去在籍し、特に支援を行わず	2	1.7%
今まで在籍なし	2	1.7%
不明・未記入	0	0.0%
計	117	100.0%



問5 気になる特徴に気づいたきっかけのうち、最も多いもの1つを○で囲ってください。(SA)

	回答数	構成比
保護者からの相談	5	4.5%
他児の保護者からの相談など	0	0.0%
保育中・教育中の気になる行動	96	87.3%
健診のときに嘱託医(園医)からの情報提供	0	0.0%
学童保育クラブからの情報提供	0	0.0%
その他	3	2.7%
不明・未記入	6	5.5%
計	110	100.0%



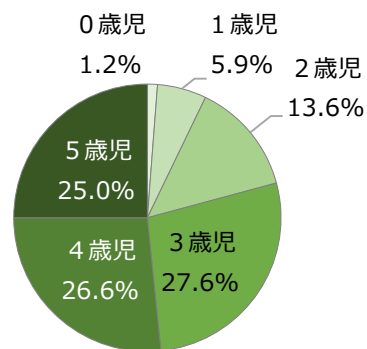
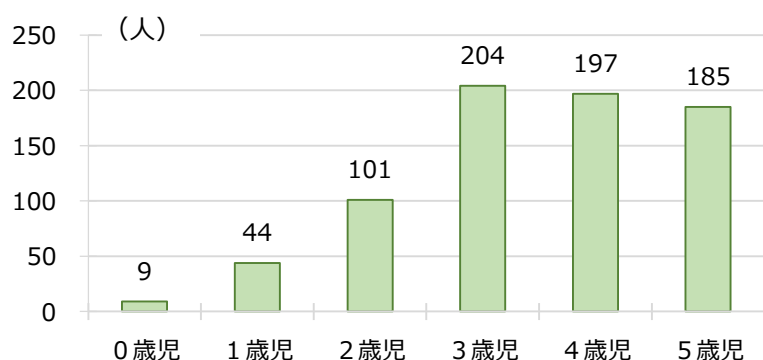
問6 気になる子のうち、支援（職員を加配している、通級指導学級を利用しているなど）を受けていない子どもについて、年齢・学年ごとの人数を記入してください。

(FA)

保育園・幼稚園等

〈児童生徒数合計〉

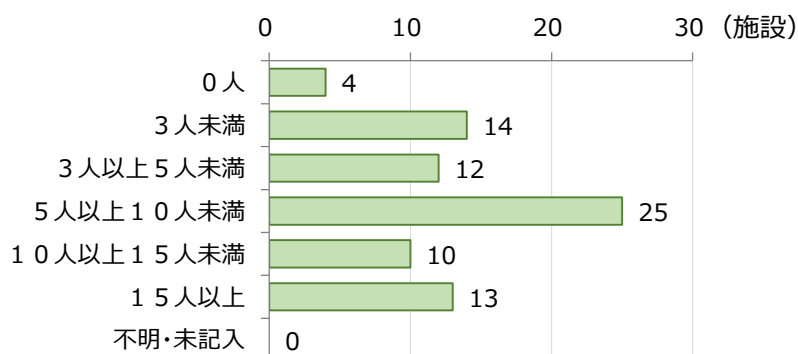
	回答数	構成比
0歳児	9	1.2%
1歳児	44	5.9%
2歳児	101	13.6%
3歳児	204	27.6%
4歳児	197	26.6%
5歳児	185	25.0%
計	740	100.0%



〈児童生徒数別施設数〉

全学年

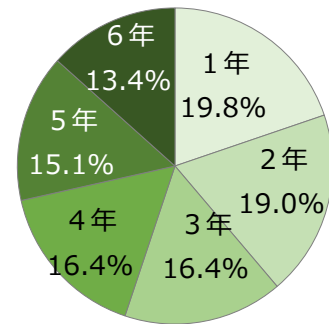
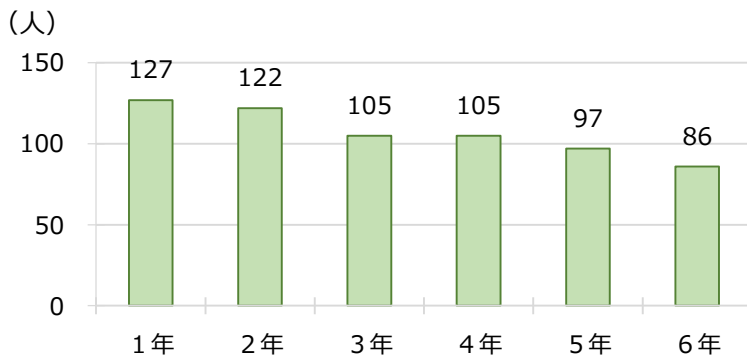
	回答数	構成比
0人	4	5.1%
3人未満	14	17.9%
3人以上5人未満	12	15.4%
5人以上10人未満	25	32.1%
10人以上15人未満	10	12.8%
15人以上	13	16.7%
不明・未記入	0	0.0%
計	78	100.0%



小学校

〈児童生徒数合計〉

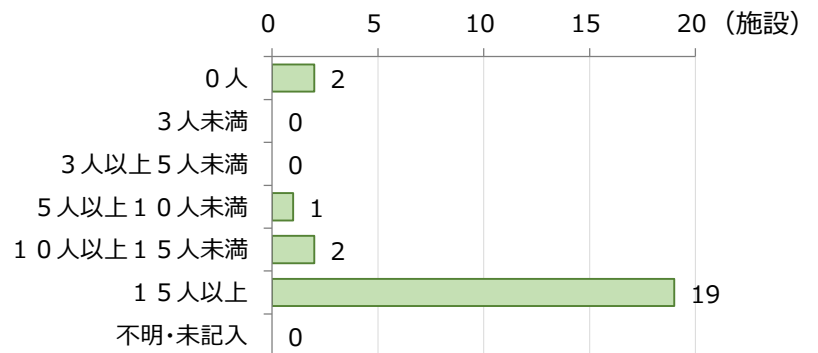
	回答数	構成比
1年	127	19.8%
2年	122	19.0%
3年	105	16.4%
4年	105	16.4%
5年	97	15.1%
6年	86	13.4%
計	642	100.0%



〈児童生徒数別施設数〉

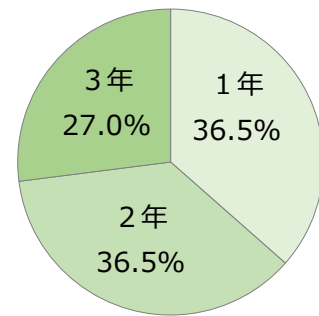
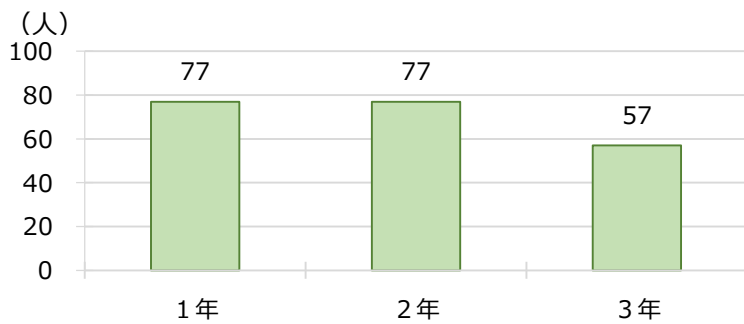
全学年

	回答数	構成比
0人	2	8.3%
3人未満	0	0.0%
3人以上5人未満	0	0.0%
5人以上10人未満	1	4.2%
10人以上15人未満	2	8.3%
15人以上	19	79.2%
不明・未記入	0	0.0%
計	24	100.0%



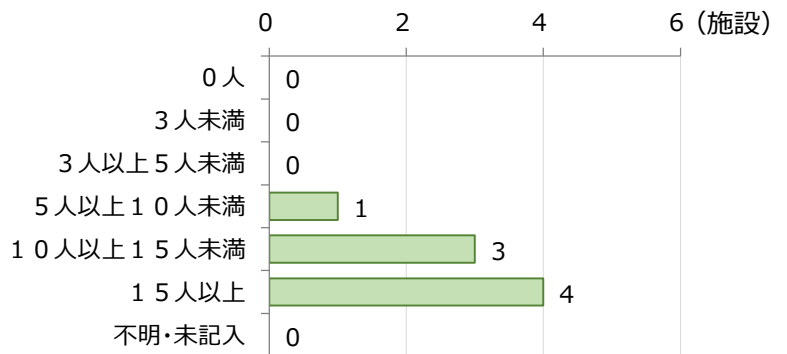
中学校
 〈児童生徒数合計〉

	回答数	構成比
1年	77	36.5%
2年	77	36.5%
3年	57	27.0%
計	211	100.0%



〈児童生徒数別施設数〉
 全学年

	回答数	構成比
0人	0	0.0%
3人未満	0	0.0%
3人以上5人未満	0	0.0%
5人以上10人未満	1	12.5%
10人以上15人未満	3	37.5%
15人以上	4	50.0%
不明・未記入	0	0.0%
計	8	100.0%

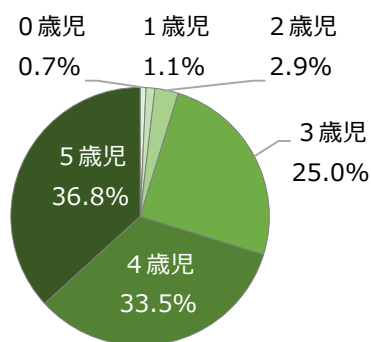
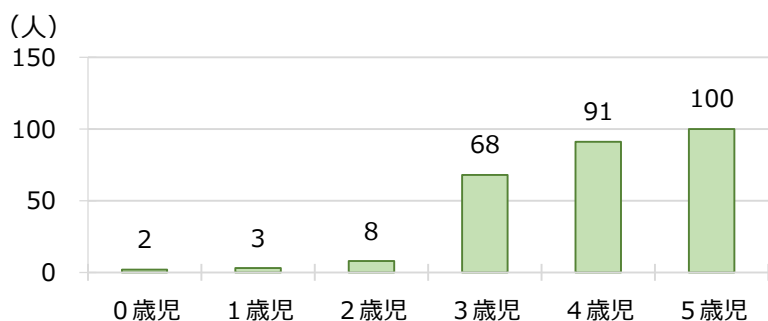


問7 気になる子で、支援を受けている子どもは何人ですか。また、専任の職員等を配置している場合は、あてはまる項目の年齢・学年ごとに人数を記入してください。(FA)

支援を受けている児童・生徒数

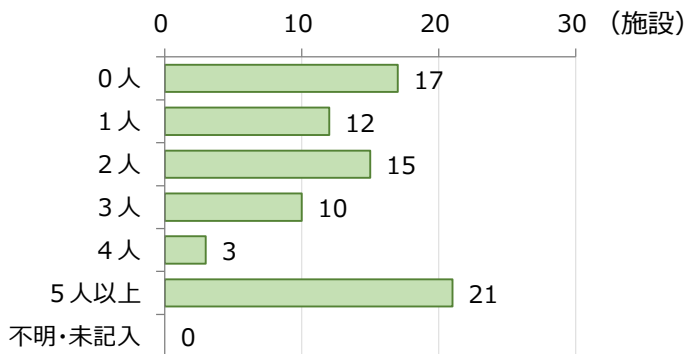
保育園・幼稚園等
〈児童生徒数合計〉

	回答数	構成比
0歳児	2	0.7%
1歳児	3	1.1%
2歳児	8	2.9%
3歳児	68	25.0%
4歳児	91	33.5%
5歳児	100	36.8%
計	272	100.0%



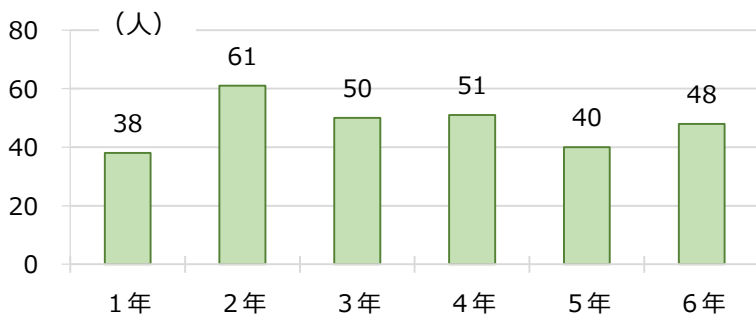
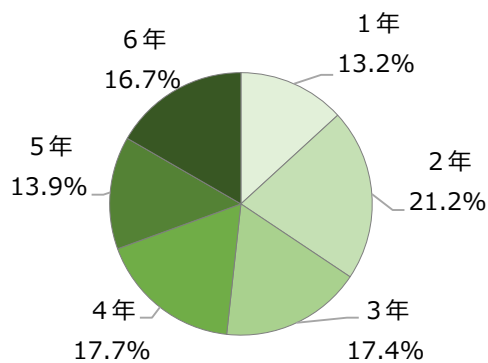
〈児童生徒数別施設数〉
全学年

	回答数	構成比
0人	17	21.8%
1人	12	15.4%
2人	15	19.2%
3人	10	12.8%
4人	3	3.8%
5人以上	21	26.9%
不明・未記入	0	0.0%
計	78	100.0%



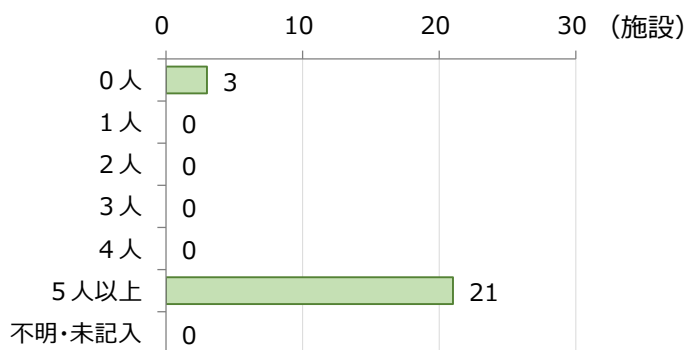
小学校
〈児童生徒数合計〉

	回答数	構成比
1年	38	13.2%
2年	61	21.2%
3年	50	17.4%
4年	51	17.7%
5年	40	13.9%
6年	48	16.7%
計	288	100.0%



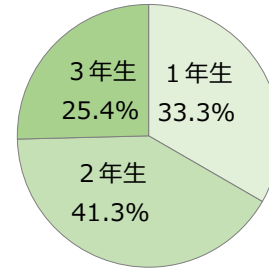
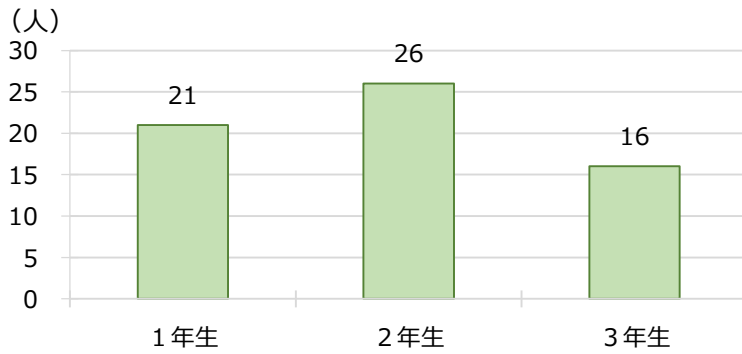
〈児童生徒数別施設数〉

全学年	回答数	構成比
0人	3	12.5%
1人	0	0.0%
2人	0	0.0%
3人	0	0.0%
4人	0	0.0%
5人以上	21	87.5%
不明・未記入	0	0.0%
計	24	100.0%



中学校
 〈児童生徒数合計〉

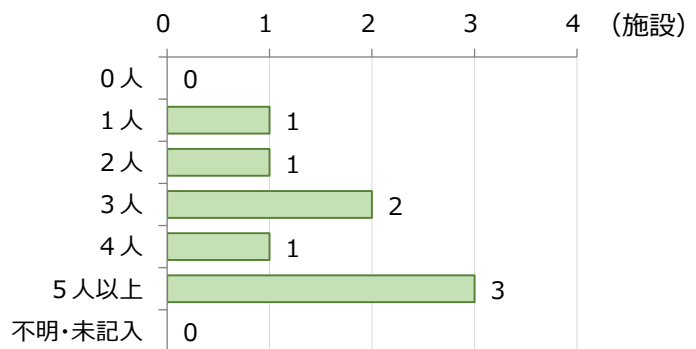
	回答数	構成比
1年生	21	33.3%
2年生	26	41.3%
3年生	16	25.4%
計	63	100.0%



〈児童生徒数別施設数〉

全学年

	回答数	構成比
0人	0	0.0%
1人	1	12.5%
2人	1	12.5%
3人	2	25.0%
4人	1	12.5%
5人以上	3	37.5%
不明・未記入	0	0.0%
計	8	100.0%

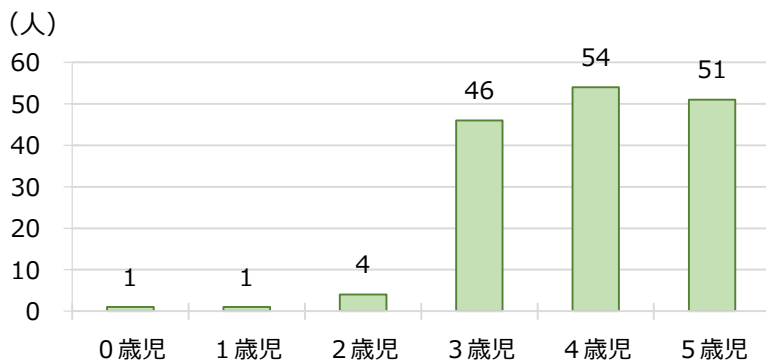
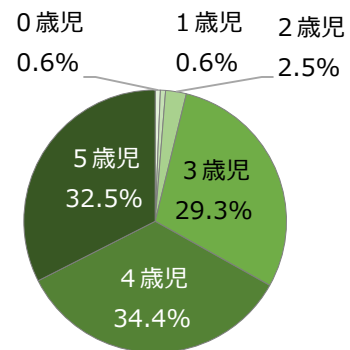


専任職員の人数

保育園・幼稚園等

〈職員数合計〉

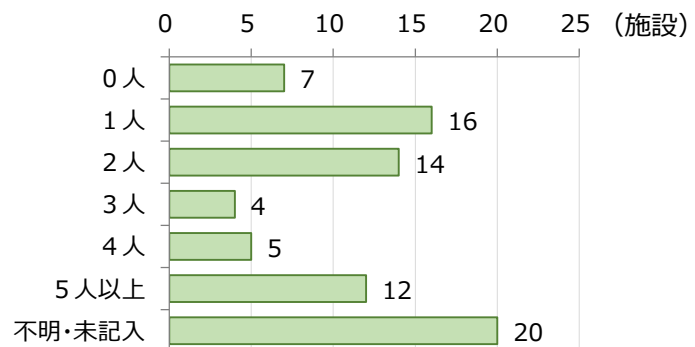
	回答数	構成比
0歳児	1	0.6%
1歳児	1	0.6%
2歳児	4	2.5%
3歳児	46	29.3%
4歳児	54	34.4%
5歳児	51	32.5%
計	157	100.0%



〈職員数別施設数〉

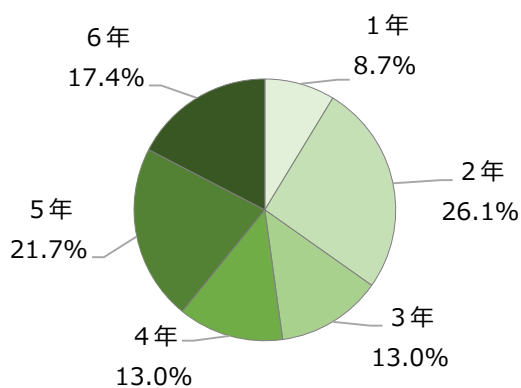
全学年

	回答数	構成比
0人	7	9.0%
1人	16	20.5%
2人	14	17.9%
3人	4	5.1%
4人	5	6.4%
5人以上	12	15.4%
不明・未記入	20	25.6%
計	78	100.0%

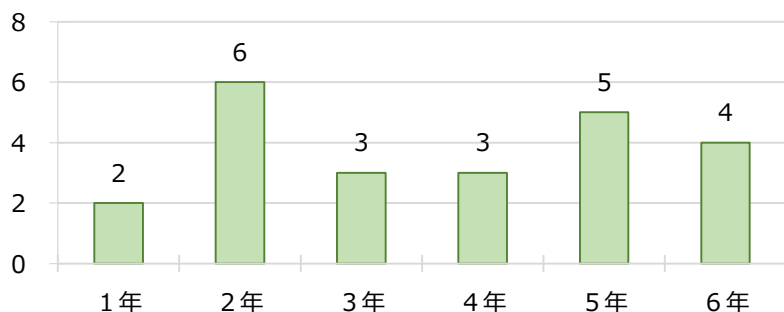


小学校
〈職員数合計〉

	回答数	構成比
1年	2	8.7%
2年	6	26.1%
3年	3	13.0%
4年	3	13.0%
5年	5	21.7%
6年	4	17.4%
計	23	100.0%



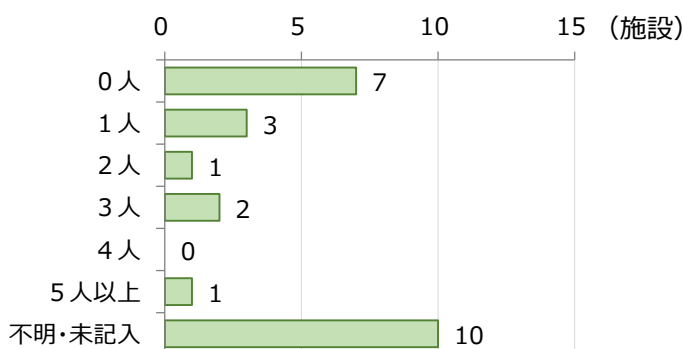
(人)



〈職員数別施設数〉

全学年

	回答数	構成比
0人	7	29.2%
1人	3	12.5%
2人	1	4.2%
3人	2	8.3%
4人	0	0.0%
5人以上	1	4.2%
不明・未記入	10	41.7%
計	24	100.0%



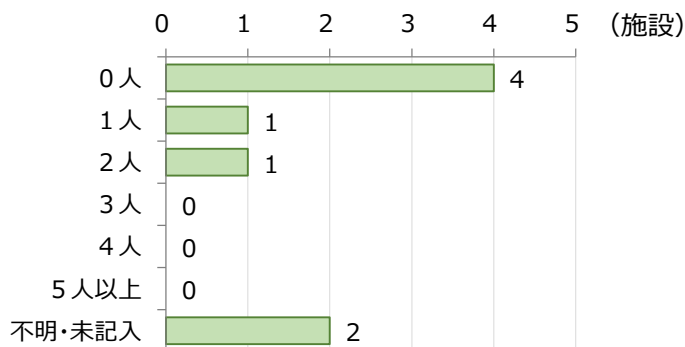
中学校
〈職員数合計〉

	回答数	構成比
1年生	2	66.7%
2年生	1	33.3%
3年生	0	0.0%
計	3	100.0%

〈職員数別施設数〉

全学年

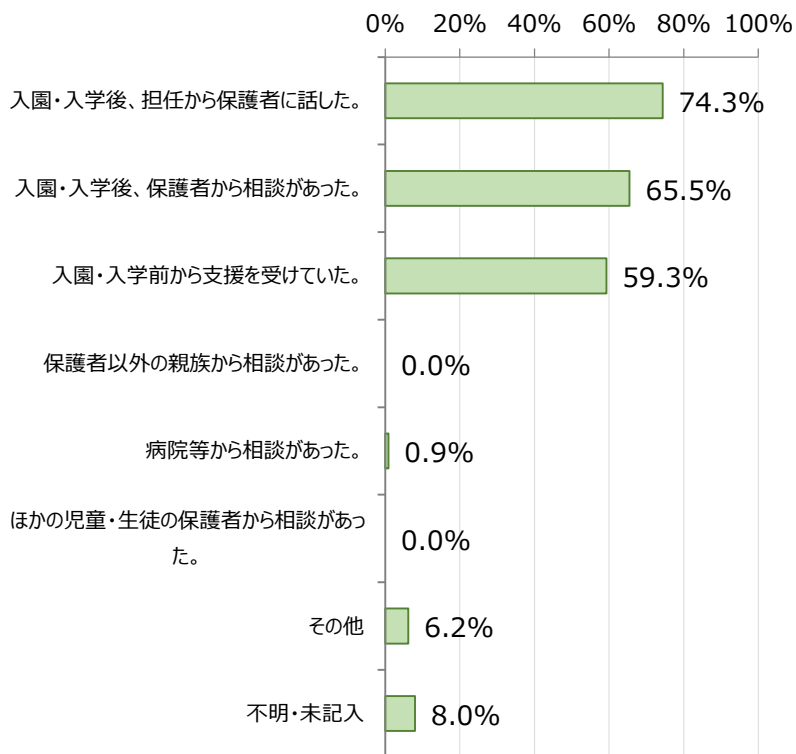
	回答数	構成比
0人	4	50.0%
1人	1	12.5%
2人	1	12.5%
3人	0	0.0%
4人	0	0.0%
5人以上	0	0.0%
不明・未記入	2	25.0%
計	8	100.0%



問8 気になる子について、支援につながったきっかけのうち、最も多いものから3つを

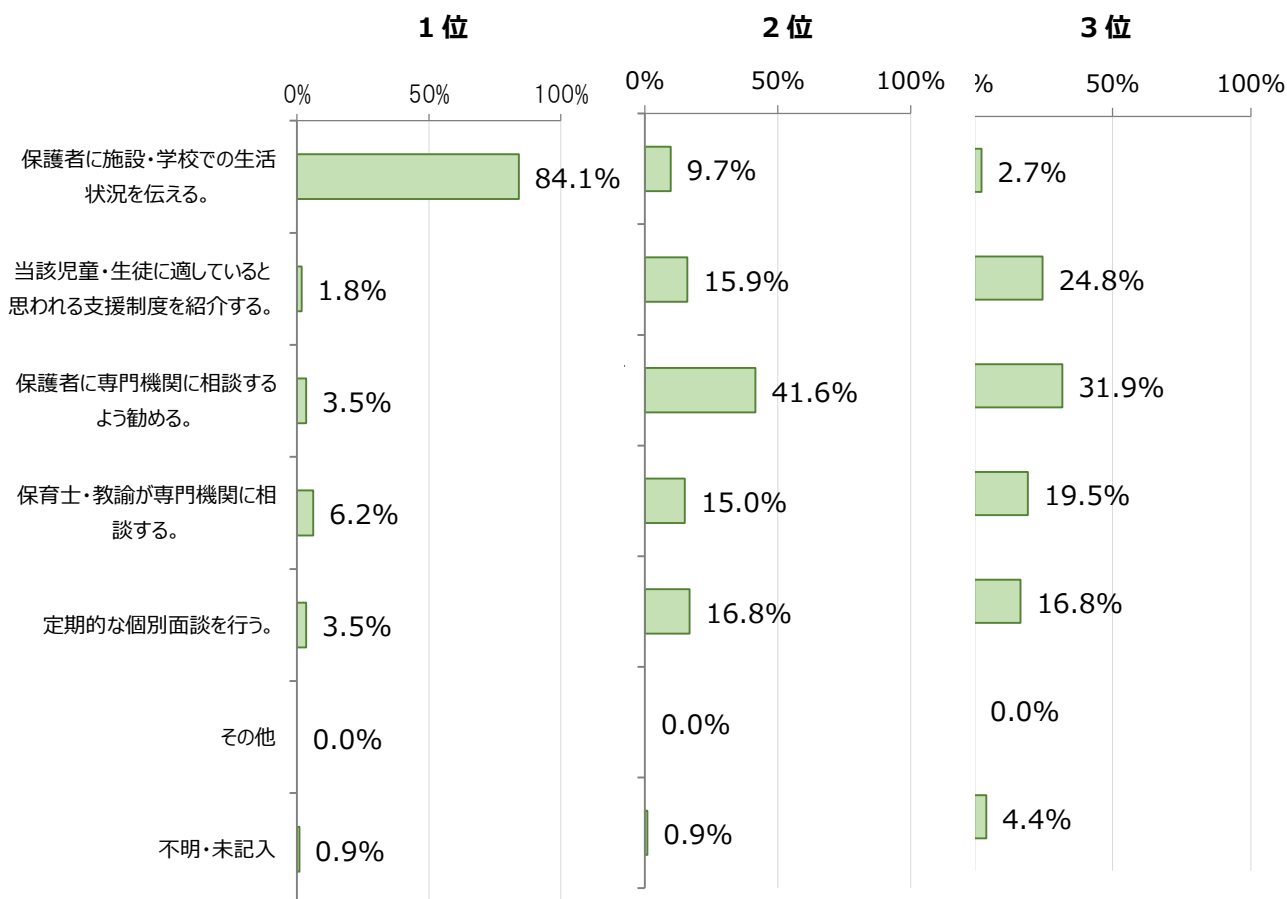
○で囲ってください。(MA)

	回答数	構成比
入園・入学後、担任から保護者に話した。	84	74.3%
入園・入学後、保護者から相談があった。	74	65.5%
入園・入学前から支援を受けていた。	67	59.3%
保護者以外の親族から相談があった。	0	0.0%
病院等から相談があった。	1	0.9%
ほかの児童・生徒の保護者から相談があった。	0	0.0%
その他	7	6.2%
不明・未記入	9	8.0%
(回答者数)計	113	



問9 支援の必要な気になる子について、支援につなげようとする場合に行うことについて、下の点線囲みの中から、最も重要度が高いと思う順に3つ以内で選び、下の太枠内に該当する番号をご記入ください。(SA)

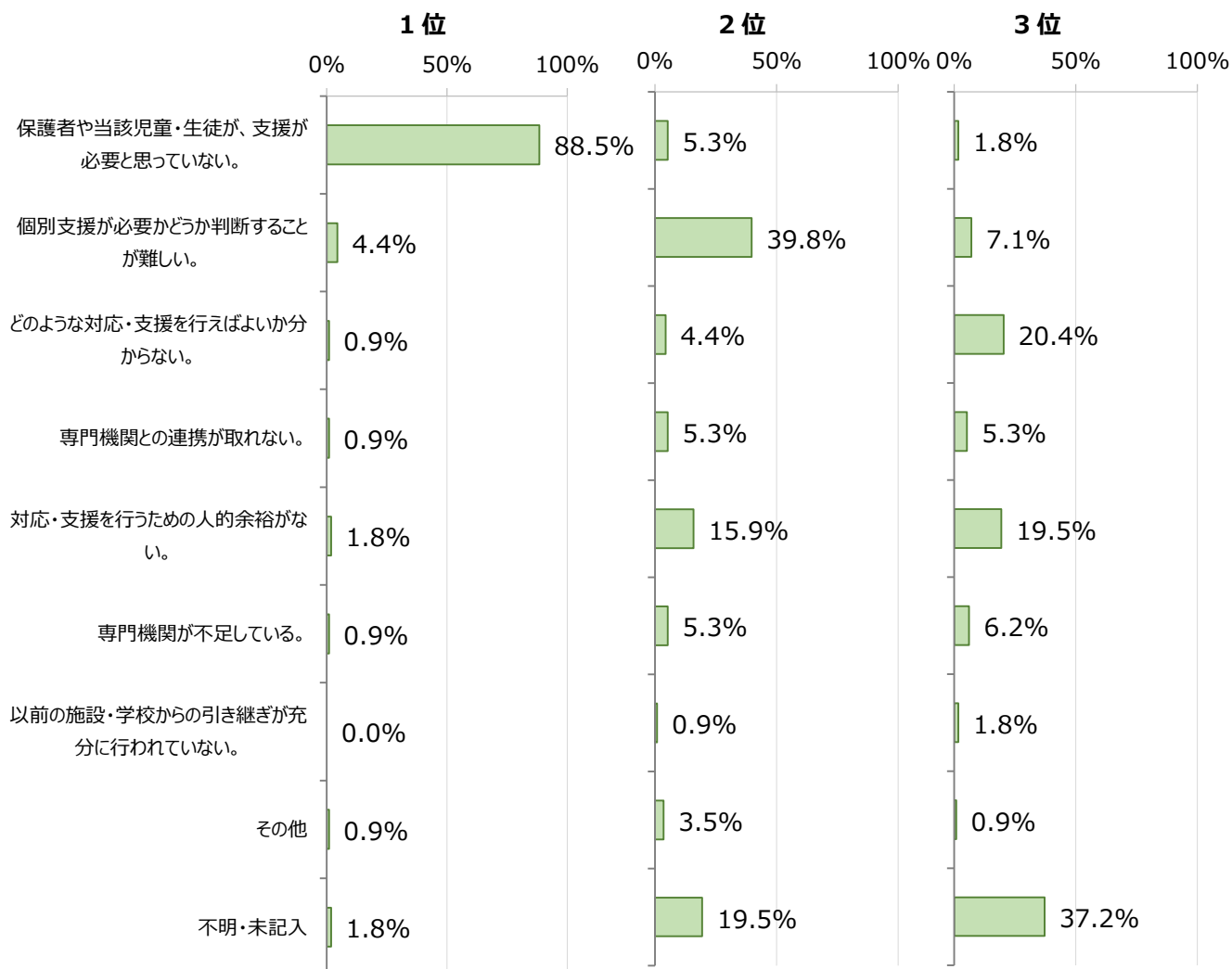
	1位		2位		3位	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
保護者に施設・学校での生活状況を伝える。	95	84.1%	11	9.7%	3	2.7%
当該児童・生徒に適していると思われる支援制度を紹介する。	2	1.8%	18	15.9%	28	24.8%
保護者に専門機関に相談するよう勧める。	4	3.5%	47	41.6%	36	31.9%
保育士・教諭が専門機関に相談する。	7	6.2%	17	15.0%	22	19.5%
定期的な個別面談を行う。	4	3.5%	19	16.8%	19	16.8%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
不明・未記入	1	0.9%	1	0.9%	5	4.4%
計	113	100.0%	113	100.0%	113	100.0%



問10 気になる子に必要な支援につなげられない理由のうち、下の点線囲みの中から最も多い順に3つ以内で選び、下の太枠内に該当する番号をご記入ください。(SA)

1位 2位 3位

	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
保護者や当該児童・生徒が、支援が必要とっていない。	100	88.5%	6	5.3%	2	1.8%
個別支援が必要かどうか判断することが難しい。	5	4.4%	45	39.8%	8	7.1%
どのような対応・支援を行えばよいか分からない。	1	0.9%	5	4.4%	23	20.4%
専門機関との連携が取れない。	1	0.9%	6	5.3%	6	5.3%
対応・支援を行うための人的余裕がない。	2	1.8%	18	15.9%	22	19.5%
専門機関が不足している。	1	0.9%	6	5.3%	7	6.2%
以前の施設・学校からの引き継ぎが充分に行われていない。	0	0.0%	1	0.9%	2	1.8%
その他	1	0.9%	4	3.5%	1	0.9%
不明・未記入	2	1.8%	22	19.5%	42	37.2%
計	113	100.0%	113	100.0%	113	100.0%

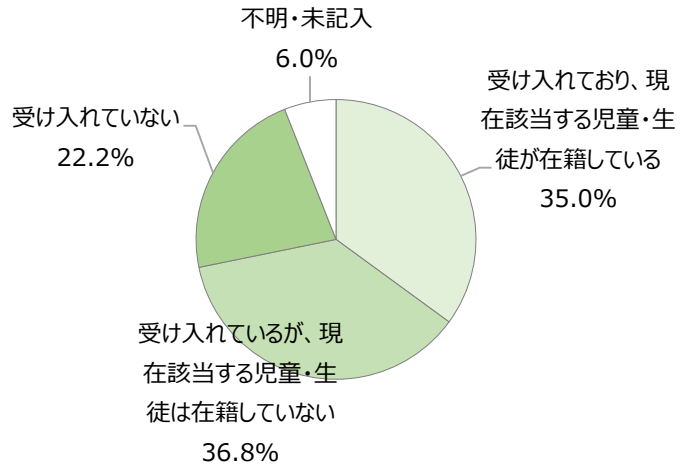


ウ) 障がい児の受入れ体制や実態、支援の状況気づきの状況について

問 1 1 障害者手帳等を持っている児童・生徒の受け入れについてお伺いします。

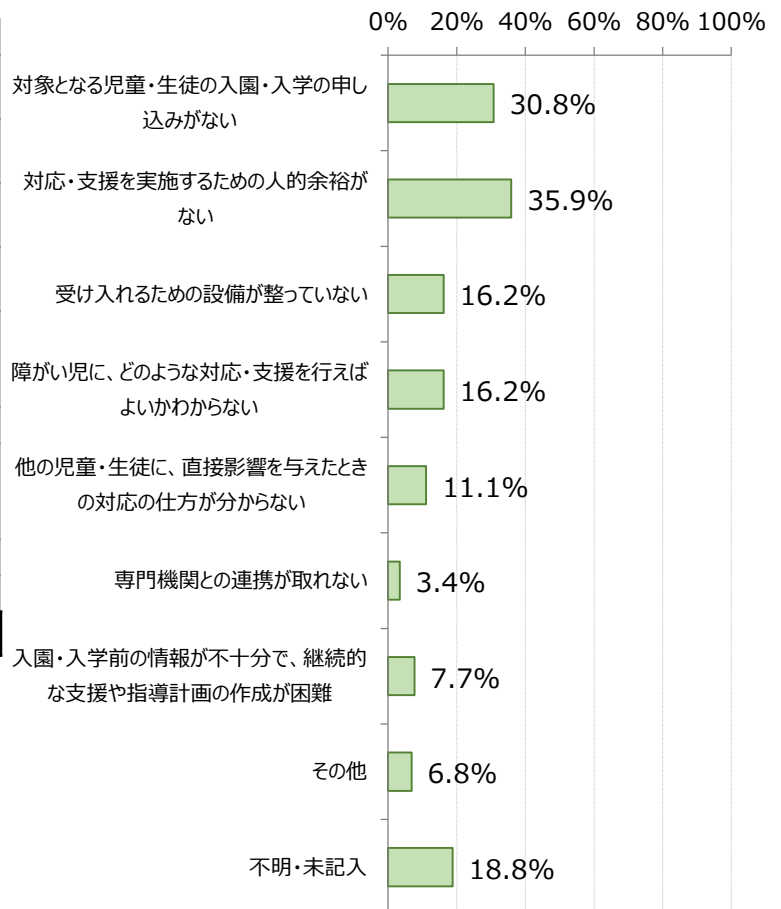
①貴施設は、現在、障害者手帳等を持っている児童を受け入れていますか。(SA)

	回答数	構成比
受け入れており、現在該当する児童・生徒が在籍している	41	35.0%
受け入れているが、現在該当する児童・生徒は在籍していない	43	36.8%
受け入れていない	26	22.2%
不明・未記入	7	6.0%
計	117	100.0%



②【①で「1.」または「2.」と答えられた方】は、障がい児への対応で困っていることについて、【「3.」と答えられた方】は、障がい児を受け入れていない理由について、あてはまるものすべてを○で囲ってください。(MA)

	回答数	構成比
対象となる児童・生徒の入園・入学の申し込みがない	36	30.8%
対応・支援を実施するための人的余裕がない	42	35.9%
受け入れるための設備が整っていない	19	16.2%
障がい児に、どのような対応・支援を行えばよいかわからない	19	16.2%
他の児童・生徒に、直接影響を与えたときの対応の仕方がわからない	13	11.1%
専門機関との連携が取れない	4	3.4%
入園・入学前の情報が不十分で、継続的な支援や指導計画の作成が困難	9	7.7%
その他	8	6.8%
不明・未記入	22	18.8%
(回答者数)計	117	

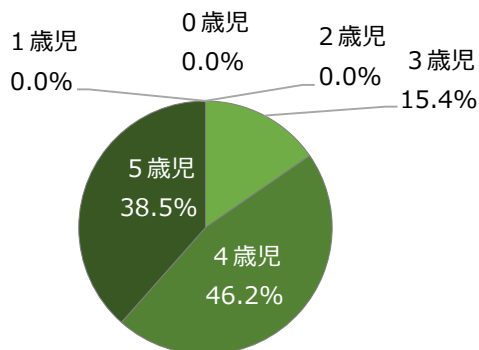


問12 次の手帳を持っている児童・生徒数をお答えください。(FA)

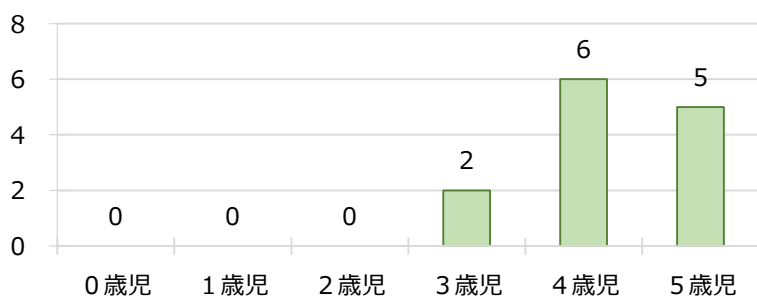
①身体障害者手帳

保育園・幼稚園等
〈児童生徒数合計〉

	回答数	構成比
0歳児	0	0.0%
1歳児	0	0.0%
2歳児	0	0.0%
3歳児	2	15.4%
4歳児	6	46.2%
5歳児	5	38.5%
計	13	100.0%

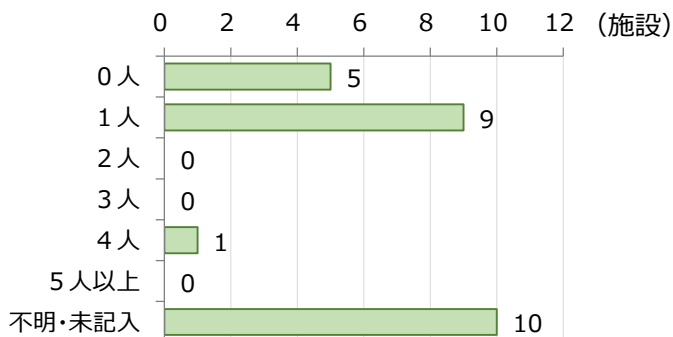


(人)



〈児童生徒数別施設数〉
全学年

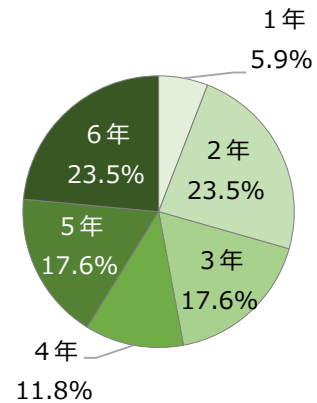
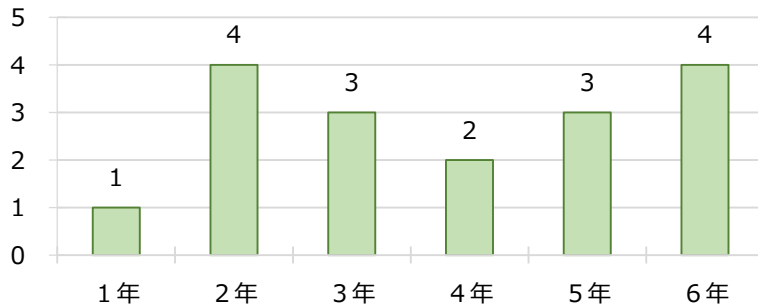
	回答数	構成比
0人	5	20.0%
1人	9	36.0%
2人	0	0.0%
3人	0	0.0%
4人	1	4.0%
5人以上	0	0.0%
不明・未記入	10	40.0%
計	25	100.0%



小学校
〈児童生徒数合計〉

	回答数	構成比
1年	1	5.9%
2年	4	23.5%
3年	3	17.6%
4年	2	11.8%
5年	3	17.6%
6年	4	23.5%
計	17	100.0%

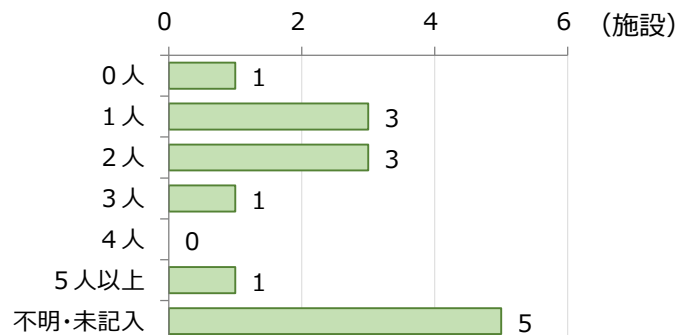
(人)



〈児童生徒数別施設数〉

全学年

	回答数	構成比
0人	1	7.1%
1人	3	21.4%
2人	3	21.4%
3人	1	7.1%
4人	0	0.0%
5人以上	1	7.1%
不明・未記入	5	35.7%
計	14	100.0%



中学校
〈児童生徒数合計〉

	回答数	構成比
1年生	1	100.0%
2年生	0	0.0%
3年生	0	0.0%
計	1	100.0%

〈児童生徒数別施設数〉

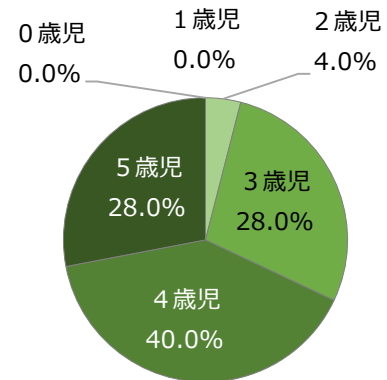
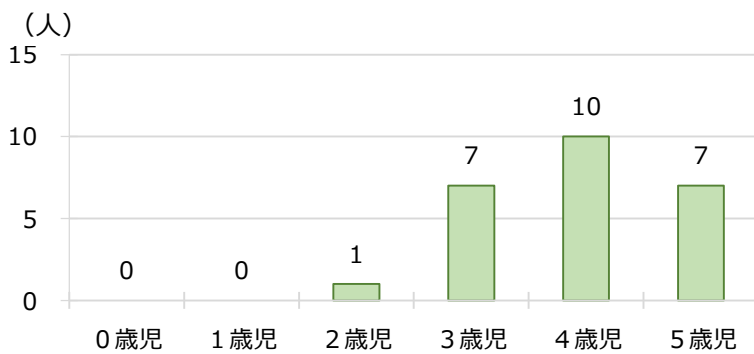
全学年

	回答数	構成比
0人	0	0.0%
1人	1	50.0%
2人	0	0.0%
3人	0	0.0%
4人	0	0.0%
5人以上	0	0.0%
不明・未記入	1	50.0%
計	2	100.0%

②愛の手帳(療育手帳)

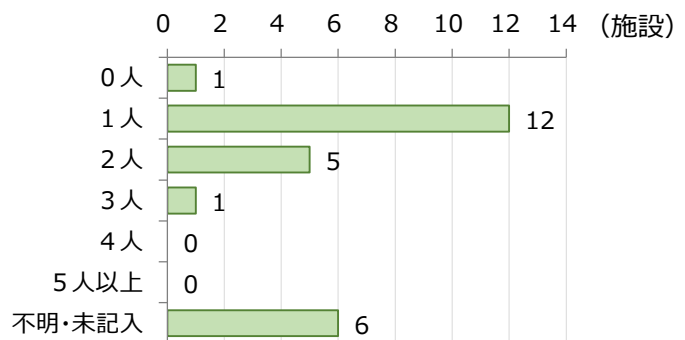
保育園・幼稚園等
 〈児童生徒数合計〉

	回答数	構成比
0歳児	0	0.0%
1歳児	0	0.0%
2歳児	1	4.0%
3歳児	7	28.0%
4歳児	10	40.0%
5歳児	7	28.0%
計	25	100.0%



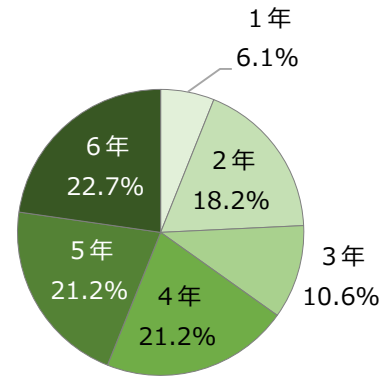
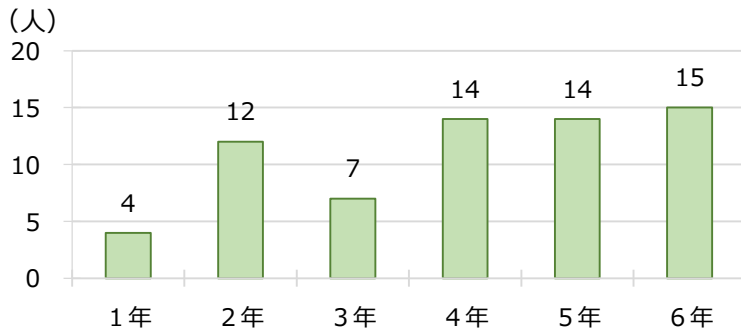
〈児童生徒数別施設数〉
 全学年

	回答数	構成比
0人	1	4.0%
1人	12	48.0%
2人	5	20.0%
3人	1	4.0%
4人	0	0.0%
5人以上	0	0.0%
不明・未記入	6	24.0%
計	25	100.0%



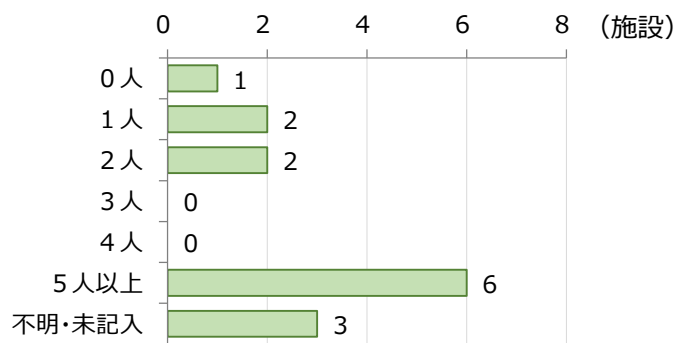
小学校
 〈児童生徒数合計〉

	回答数	構成比
1年	4	6.1%
2年	12	18.2%
3年	7	10.6%
4年	14	21.2%
5年	14	21.2%
6年	15	22.7%
計	66	100.0%



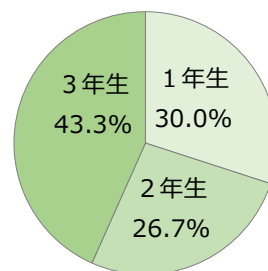
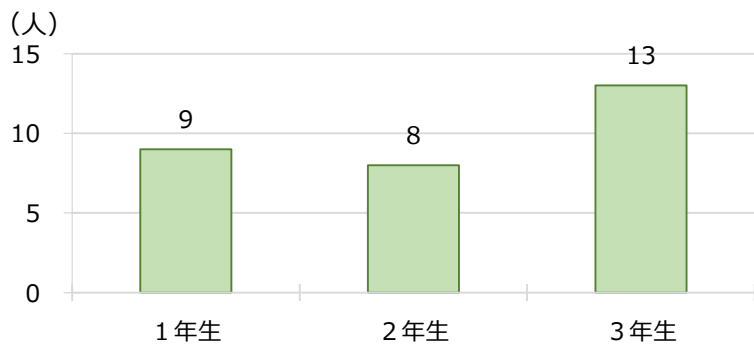
〈児童生徒数別施設数〉
 全学年

	回答数	構成比
0人	1	7.1%
1人	2	14.3%
2人	2	14.3%
3人	0	0.0%
4人	0	0.0%
5人以上	6	42.9%
不明・未記入	3	21.4%
計	14	100.0%



中学校
 〈児童生徒数合計〉

	回答数	構成比
1年生	9	30.0%
2年生	8	26.7%
3年生	13	43.3%
計	30	100.0%



〈児童生徒数別施設数〉

全学年	回答数	構成比
0人	0	0.0%
1人	0	0.0%
2人	0	0.0%
3人	0	0.0%
4人	0	0.0%
5人以上	2	100.0%
不明・未記入	0	0.0%
計	2	100.0%

③精神障害者保健福祉手帳

保育園・幼稚園等
 〈児童生徒数合計〉

	回答数	構成比
0歳児	0	0.0%
1歳児	0	0.0%
2歳児	0	0.0%
3歳児	1	33.3%
4歳児	0	0.0%
5歳児	2	66.7%
計	3	100.0%

〈児童生徒数別施設数〉
 全学年

	回答数	構成比
0人	6	24.0%
1人	1	4.0%
2人	1	4.0%
3人	0	0.0%
4人	0	0.0%
5人以上	0	0.0%
不明・未記入	17	68.0%
計	25	100.0%

小学校
 〈児童生徒数合計〉

	回答数	構成比
1年	1	100.0%
2年	0	0.0%
3年	0	0.0%
4年	0	0.0%
5年	0	0.0%
6年	0	0.0%
計	1	100.0%

〈児童生徒数別施設数〉
 全学年

	回答数	構成比
0人	3	21.4%
1人	1	7.1%
2人	0	0.0%
3人	0	0.0%
4人	0	0.0%
5人以上	0	0.0%
不明・未記入	10	71.4%
計	14	100.0%

中学校
 〈児童生徒数合計〉

	回答数	構成比
1年生	1	100.0%
2年生	0	0.0%
3年生	0	0.0%
計	1	100.0%

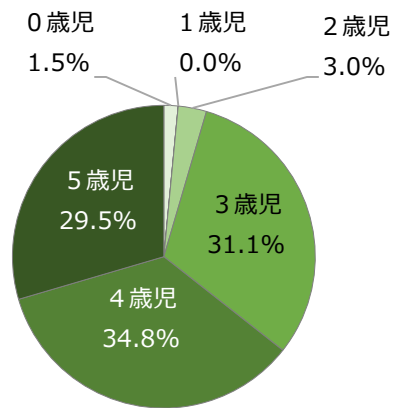
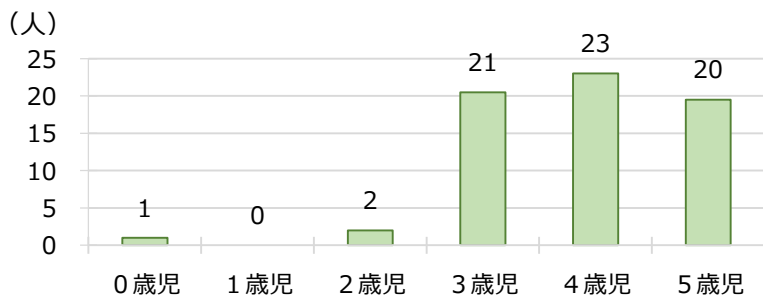
〈児童生徒数別施設数〉

全学年	回答数	構成比
0人	0	0.0%
1人	1	50.0%
2人	0	0.0%
3人	0	0.0%
4人	0	0.0%
5人以上	0	0.0%
不明・未記入	1	50.0%
計	2	100.0%

問13 障がい児に対して専任の職員を配置していますか。あてはまる項目の年齢・学年ごとの人数を記入してください。(FA)

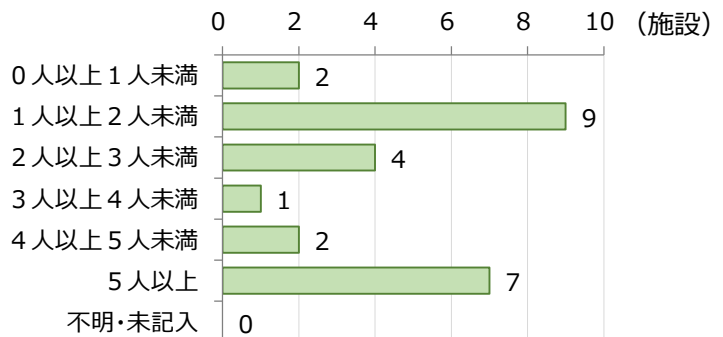
保育園・幼稚園等
〈職員数合計〉

	回答数	構成比
0歳児	1	1.5%
1歳児	0	0.0%
2歳児	2	3.0%
3歳児	21	31.1%
4歳児	23	34.8%
5歳児	20	29.5%
計	66	100.0%



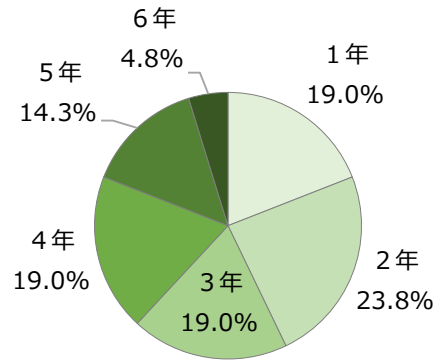
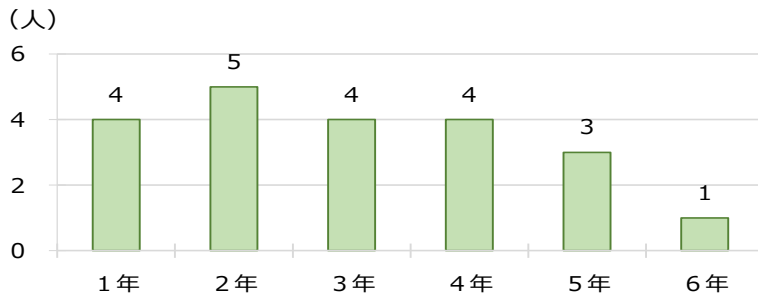
〈専任職員数別施設数〉

全学年	回答数	構成比
0人以上1人未満	2	8.0%
1人以上2人未満	9	36.0%
2人以上3人未満	4	16.0%
3人以上4人未満	1	4.0%
4人以上5人未満	2	8.0%
5人以上	7	28.0%
不明・未記入	0	0.0%
計	25	100.0%



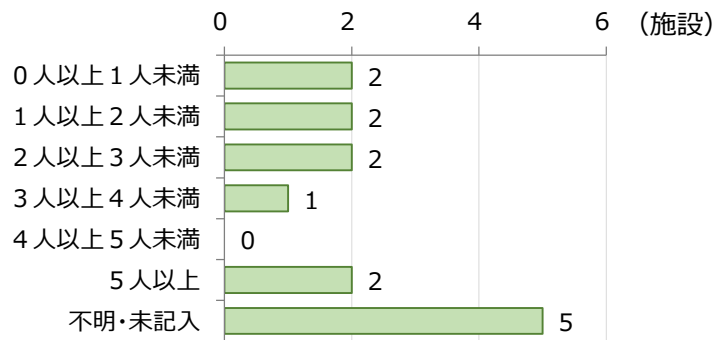
小学校
〈職員数合計〉

	回答数	構成比
1年	4	19.0%
2年	5	23.8%
3年	4	19.0%
4年	4	19.0%
5年	3	14.3%
6年	1	4.8%
計	21	100.0%



〈専任職員数別施設数〉

全学年	回答数	構成比
0人以上1人未満	2	14.3%
1人以上2人未満	2	14.3%
2人以上3人未満	2	14.3%
3人以上4人未満	1	7.1%
4人以上5人未満	0	0.0%
5人以上	2	14.3%
不明・未記入	5	35.7%
計	14	100.0%



中学校
〈職員数合計〉

	回答数	構成比
1年生	2	50.0%
2年生	2	50.0%
3年生	0	0.0%
計	4	100.0%

〈専任職員数別施設数〉

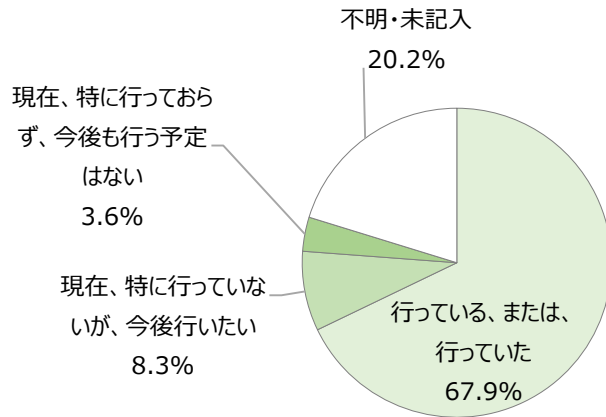
全学年	回答数	構成比
0人以上1人未満	0	0.0%
1人以上2人未満	0	0.0%
2人以上3人未満	2	100.0%
3人以上4人未満	0	0.0%
4人以上5人未満	0	0.0%
5人以上	0	0.0%
不明・未記入	0	0.0%
計	2	100.0%

エ) 気になる子や障がい児への対応（連携、指導計画）について

問 1 4 障がい児の保護者や家庭に対する対応・支援についてお伺いします。

①障がい児の保護者や家庭に対し、対応・支援を行っていますか。(SA)

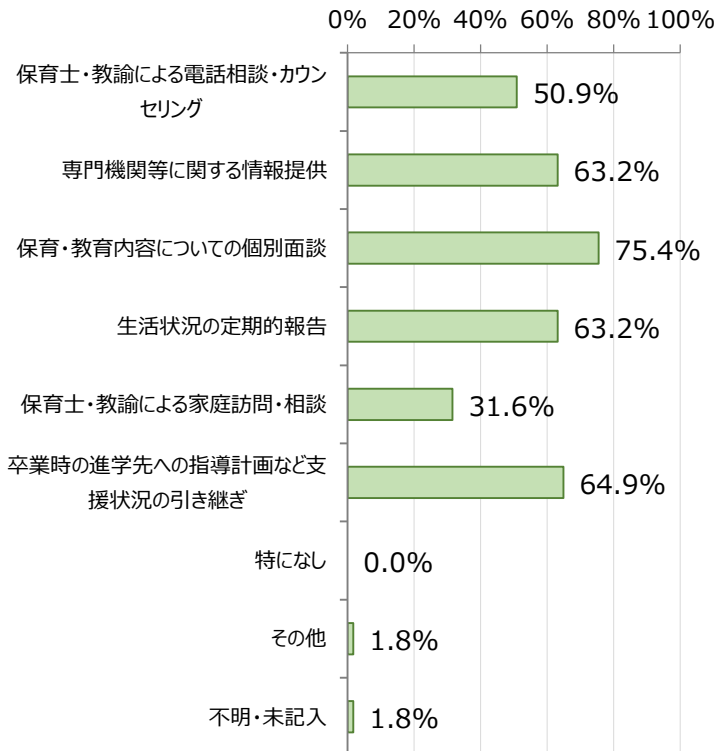
	回答数	構成比
行っている、または、行っていた	57	67.9%
現在、特に行っていないが、今後行いたい	7	8.3%
現在、特に行っておらず、今後行う予定はない	3	3.6%
不明・未記入	17	20.2%
計	84	100.0%



②【①で「1. 行っている、または、行っていた」と答えられた方】は、現在行っている対応・支援及び今後行いたい対応・支援について、【「2. 現在、特に行っていないが、今後行いたい」と答えられた方】は、今後行いたい対応・支援について、あてはまるすべてを○で囲ってください。(MA)

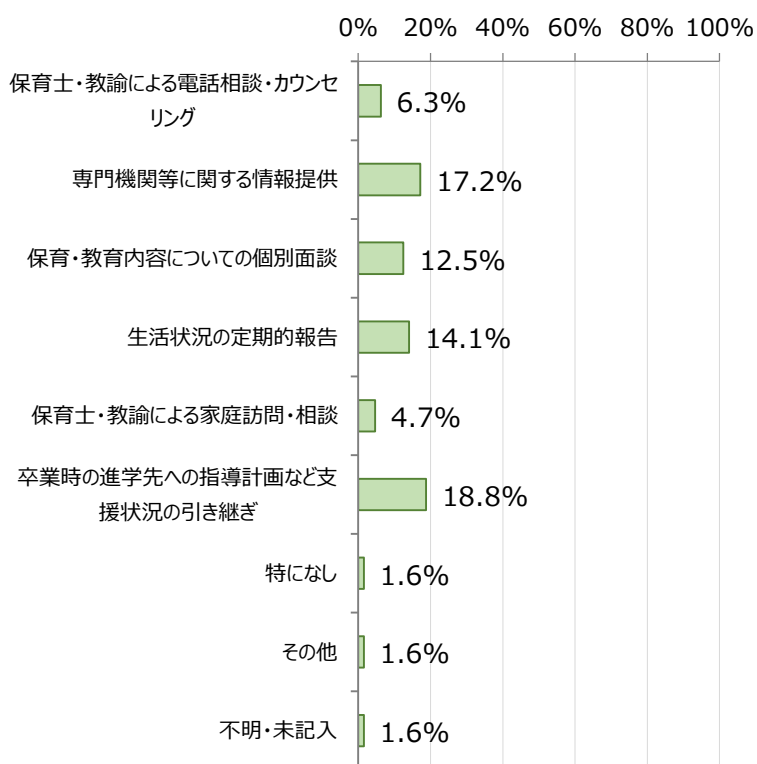
現在行っている対応・支援

	回答数	構成比
保育士・教諭による電話相談・カウンセリング	29	50.9%
専門機関等に関する情報提供	36	63.2%
保育・教育内容についての個別面談	43	75.4%
生活状況の定期的報告	36	63.2%
保育士・教諭による家庭訪問・相談	18	31.6%
卒業時の進学先への指導計画など支援状況の引き継ぎ	37	64.9%
特になし	0	0.0%
その他	1	1.8%
不明・未記入	1	1.8%
(回答者数)計	57	



今後行いたい対応・支援

	回答数	構成比
保育士・教諭による電話相談・カウンセリング	4	6.3%
専門機関等に関する情報提供	11	17.2%
保育・教育内容についての個別面談	8	12.5%
生活状況の定期的報告	9	14.1%
保育士・教諭による家庭訪問・相談	3	4.7%
卒業時の進学先への指導計画など支援状況の引き継ぎ	12	18.8%
特になし	1	1.6%
その他	1	1.6%
不明・未記入	1	1.6%
(回答者数)計	64	



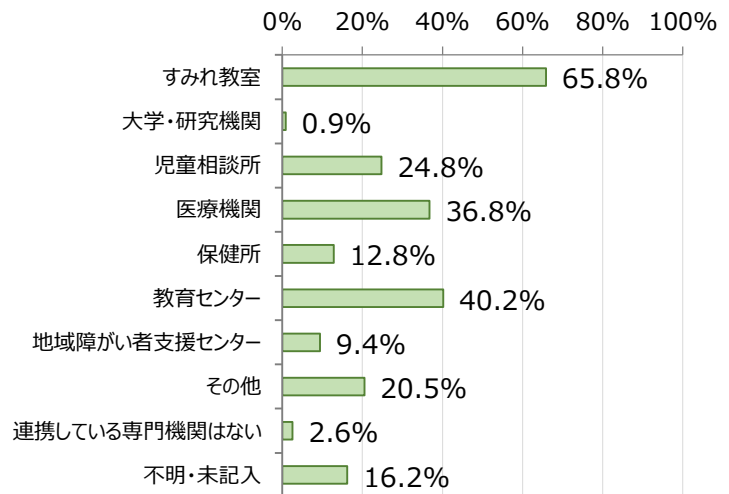
③【①で「3. 現在、特に行っておらず、今後も行う予定はない」と答えられた方】のみお答えください。障がい児の保護者や家庭に対する支援を行っていない理由について、あてはまるものすべてを○で囲ってください。(MA)

	回答数	構成比
該当する児童・生徒がいない	2	66.7%
対応・支援を実施するための人的余裕がない	1	33.3%
受け入れるための設備が整っていない	0	0.0%
専門機関が不足している	0	0.0%
専門機関との連携が取れない	0	0.0%
その他	0	0.0%
不明・未記入	0	0.0%
(回答者数)計	3	

問15 専門機関との連携についてお伺いします。

①保育・教育の実施に関して、貴施設ではどのような専門機関と連携していますか。あてはまるものすべてを○で囲ってください。(MA)

	回答数	構成比
すみれ教室	77	65.8%
大学・研究機関	1	0.9%
児童相談所	29	24.8%
医療機関	43	36.8%
保健所	15	12.8%
教育センター	47	40.2%
地域障がい者支援センター	11	9.4%
その他	24	20.5%
連携している専門機関はない	3	2.6%
不明・未記入	19	16.2%
(回答者数)計	117	

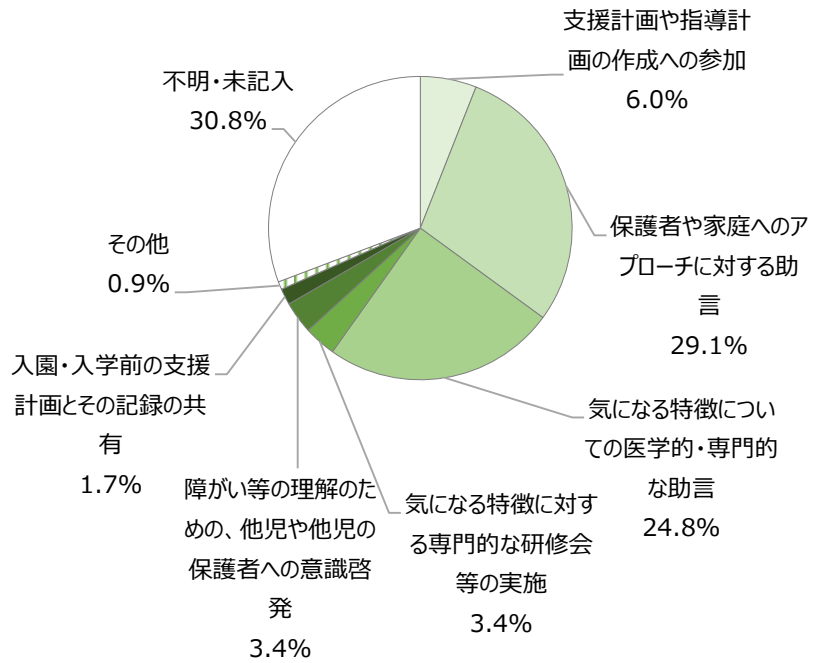


②【①で「9. 連携している専門機関はない」と答えられた方のみにお伺いします。】連携している専門機関がない理由について、あてはまるものすべてを○で囲ってください。(MA)

	回答数	構成比
対応・支援を実施するための人的余裕がない	0	0.0%
連携できる専門機関が近くにない	0	0.0%
どのように連携すればよいかわからない	0	0.0%
特に理由はない	0	0.0%
その他	2	66.7%
連携しなくても対応できる	0	0.0%
不明・未記入	1	33.3%
(回答者数)計	3	

③どのような活動において、連携が必要ですか。最も必要なものを○で囲ってください。(SA)

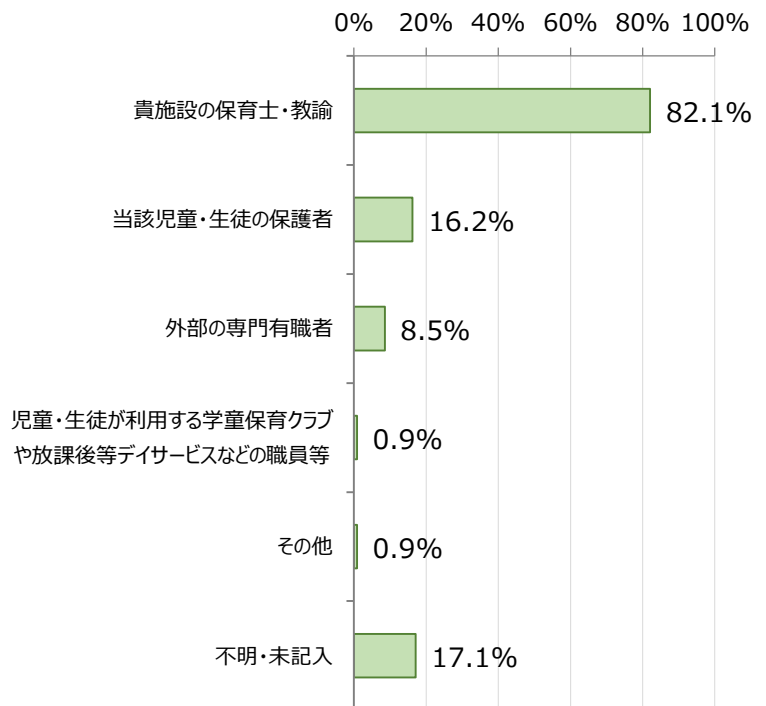
	回答数	構成比
支援計画や指導計画の作成への参加	7	6.0%
保護者や家庭へのアプローチに対する助言	34	29.1%
気になる特徴についての医学的・専門的な助言	29	24.8%
気になる特徴に対する専門的な研修会等の実施	4	3.4%
障がい等の理解のための、他児や他児の保護者への意識啓発	4	3.4%
入園・入学前の支援計画とその記録の共有	2	1.7%
その他	1	0.9%
不明・未記入	36	30.8%
計	117	100.0%



問16 個人別の指導計画についてお伺いします。

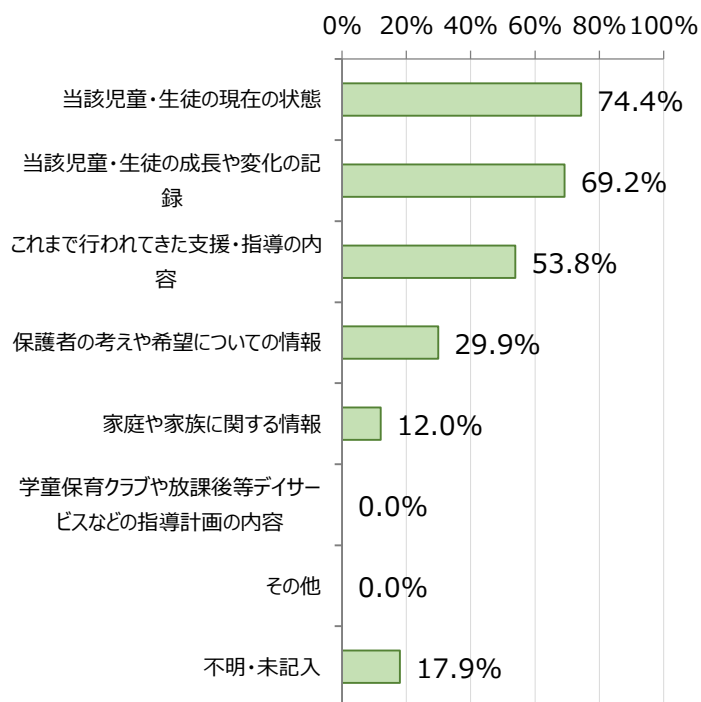
①指導計画の立案・作成に携わっている方について、あてはまるものすべてを○で囲ってください。(MA)

	回答数	構成比
貴施設の保育士・教諭	96	82.1%
当該児童・生徒の保護者	19	16.2%
外部の専門有職者	10	8.5%
児童・生徒が利用する学童保育クラブや放課後等デイサービスなどの職員等	1	0.9%
その他	1	0.9%
不明・未記入	20	17.1%
(回答者数)計	117	



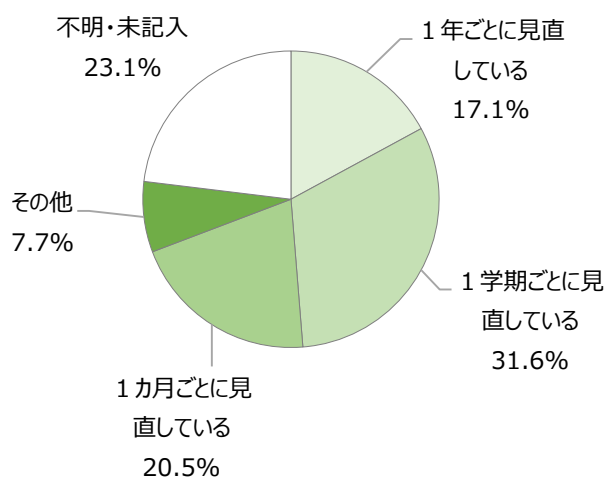
②指導計画を立案・作成するときに重要と思う情報は、次のうちどれですか。あてはまるもの 3 つを○で囲ってください。(MA)

	回答数	構成比
当該児童・生徒の現在の状態	87	74.4%
当該児童・生徒の成長や変化の記録	81	69.2%
これまで行われてきた支援・指導の内容	63	53.8%
保護者の考えや希望についての情報	35	29.9%
家庭や家族に関する情報	14	12.0%
学童保育クラブや放課後等デイサービスなどの指導計画の内容	0	0.0%
その他	0	0.0%
不明・未記入	21	17.9%
(回答者数)計	117	



③指導計画の見直しの頻度はどの程度ですか。あてはまるもの 1 つを○で囲ってください。(SA)

	回答数	構成比
1年ごとに見直している	20	17.1%
1学期ごとに見直している	37	31.6%
1カ月ごとに見直している	24	20.5%
その他	9	7.7%
不明・未記入	27	23.1%
計	117	100.0%



問 17 気になる子・障がい児の対応や支援において、重要であると思われることについて、あてはまるもの3つを○で囲ってください。(MA)

	回答数	構成比
専門的な知識を持つ職員等の貴施設への訪問	73	62.4%
貴施設保育士・教諭が相談しやすい専門機関	66	56.4%
検査・診断の充実	27	23.1%
当該児童・生徒や保護者が理解を深める機会の充実	50	42.7%
当該児童・生徒の理解のための他児や他児の保護者への意識啓発	11	9.4%
保育士・教諭が理解を深める機会の充実	35	29.9%
地域社会が理解を深めるための啓発活動の充実	5	4.3%
気になる子や障がい児に関する専門機関と、貴施設との連携の強化	57	48.7%
児童・生徒が利用する学童保育クラブや放課後等デイサービスなどとの連携・協力	2	1.7%
当該児童・生徒が利用する医療機関との連携	11	9.4%
特にない	0	0.0%
その他	4	3.4%
不明・未記入	4	3.4%
(回答者数)計	117	

